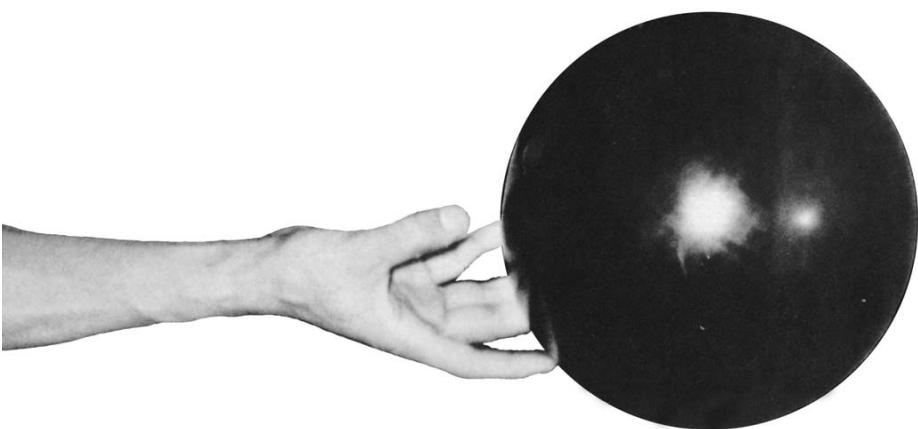


ボウリングを
楽しむ文化を

これまでの歩み

岩手県ボウリング連盟



ボウリングをリスペクトして

岩手県ボウリング連盟





発刊のあいさつ

岩手県ボウリング連盟

会長 吉田几生

岩手県ボウリング連盟は昭和42年盛岡市内にボウリング場が開設されたのを機に、翌43年創立されました。

女子プロボウラーの誕生、テレビ中継等、折からのボウリングブームと相まって当県連盟も順調に歩み始めましたが、昭和48年のオイルショックによる経済環境の変化等もあり低迷期を迎えます。

しかし、ボウリングをこよなく愛し、スポーツとして発展を願う全国の仲間と共に創立時の目的に向かって敢然と歩みを進めました。当面の目標は岩手県体育協会に加盟し、県民体育大会に参加することでしたが、当時は加盟条件のハードルが非常に高いものでした。

現在全日本ボウリング協会会長赤木恭平氏の熱意あふれる適切なご指導により苦節16年、昭和59年県体協加盟、翌年の第37回県民体育大会に初参加となりました。

開始式でプラカードを先頭に各市町村代表チームが行進、それまでの道のりが思い出され目頭が熱くなるのを覚えました。

続く昭和62年は待ち焦がれた国民体育大会参加です。第42回沖縄海邦国体にオープン競技として参加、那覇空港が近付くにつれ飛行機の中から見えたマリンブルーの海、ボランティアの方々の心こもった歓迎が強く印象に残っています。

先達のご指導、同輩の尽力により、いまや全国大会の入賞はいうに及ばず国民体育大会の優勝者、全日本ナショナルチームのメンバーとして国際大会で活躍する選手が輩出されたことはご同慶に堪えません。感謝の念でいっぱいです。

これからも組織の充実、会員の融和に努め、競技スポーツ、生涯スポーツ、ファミリースポーツとして更なる発展に邁進いたします。ご指導、ご支援をお願い申し上げます。



祝　　辞

(財)全日本ボウリング協会

会長 赤木恭平

岩手県ボウリング連盟創立40周年を記念し、記念誌を発刊され、これまでの諸先輩の業績を綴る貴重な記録を後世に残されることは誠に有意義なことであり、心よりお慶び申し上げます。

ボウリングの歴史は古く、現在世界テンピンボウリング連盟は110の国と地域が加盟する組織として、オリンピック参加を目指しております。我が国におきましては、昭和39年全日本ボウリング協会設立と共に、財団法人化10年の創成期、日本体育協会加盟などの10年の発展期を経過し、昭和63年の国体に正式参加を果たしましたが、苦節の時代を超え、今や国民スポーツとして3000万人もの人々が愛好するスポーツに発展することができました。

特に岩手県体育協会加盟のため、事務局を訪ねたことも数多く、現吉田几生会長をはじめ関係者の不断の努力が実り、今日では、国民体育大会、日本スポーツマスターズ、スポーツ・レクリエーション祭と共に我が国のスポーツ界の重要な種目の一つとなっており、今にして思えば懐かしい思い出でもあります。連盟関係者の方々に深く敬意を表す次第です。

21世紀の今日、本格的な高齢化社会を迎え、生涯にわたり続けられるボウリングは、更に注目されるスポーツであります。

貴連盟の関係者の方々には、このたびの40周年を機に更に総力を結集され、ボウリングの普及発展にご尽力されることをお願い申し上げます。

岩手県ボウリング連盟の益々のご発展を祈念し、創立40周年の祝辞といたします。



祝　　辞

(財)岩手県体育協会

会長 達 増 拓 也

岩手県ボウリング連盟40周年記念誌発刊にあたり、一言お祝いを申し上げます。

昭和43年に創立された岩手県ボウリング連盟が、このたび40年に及ぶ活動の足跡を記念誌として発刊されることに対し、心からお祝い申し上げますとともに、創立以来、本県のボウリング競技の普及、振興はもとより、競技力の向上に尽力し、幾多の困難をも乗り越えられ多大な業績を残された、歴代の会長をはじめ役員の方々のご労苦とご功績に対し、心より敬意を表する次第であります。

貴連盟におかれましては、創立から16年の歳月を経て県体育協会への加盟、そして県民体育大会への参加を実現するなど本県におけるボウリング競技の普及、振興に着実な足跡を残して参りました。

一方、日本のボウリング界に目を転じますと、悲願であります国民体育大会参加を国体2巡目の京都大会で実現されるなど、これまでの堅実な歩みが実り、日本最大の国民のスポーツの祭典の場に登場することとなりました。

ボウリングは、男女の別なく、年齢に応じたそれぞれの取組が可能であり、その楽しさを手軽に経験できるスポーツであると思います。

これは県体育協会が基本目標とする「豊かなスポーツライフの実現」にも貢献するものであります。

近年、少子・高齢化が急速に進行しているなかにあって、人生を健康で・明るく・充実したものとしていくためにも、「生涯スポーツの振興」が強く言われております。

こうしたことから、年代に応じた競技が可能な特性を持つボウリングの普及・発展について、貴連盟の果たす役割はますます大きなものがあり、貴連盟と関係団体が一丸となって取組まれることをご期待申し上げております。

終わりに、岩手県ボウリング連盟が関係各位の尽力により、組織の一層の充実強化が図られ、今後益々発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



ねんりんピック'91いわて (1991)

目 次

発刊のあいさつ	岩手県ボウリング連盟会長	吉田 几生	1
祝	(財)全日本ボウリング協会会長	赤木 恭平	2
祝	(財)岩手県体育協会会長	達増 拓也	3
県体育協会加盟から国民体育大会優勝まで			5
全国大会での活躍			30
日本代表として国際大会に参加			42
ボウリングをこよなく愛して			47
続岩手のスポーツ人			62
栄光の記録			66
受賞者・被表彰者			108
カメラスケッチ			114
資 料			115
年表 (これまでの歩み)			116
ボウリングの歴史			118
FIQ国際柱技者連盟組織図・全日本ボウリング協会組織図			119
歴代役員名簿			121
支部・クラブ・実業団・高等学校所在地一覧			130
公認審判員・公認指導員・公認コーチ名簿			132
定款・ボウリング施設、設備、用具の規格・ボウリング競技規則			133
編集後記・参考文献			168

財團法人 岩手県体育協会定期評議員会



59年度事業計画、ボウリング連盟の加盟などを決めた県体協評議員会

◇第36回県民体育大会開催日程

競技名	期日	会場地	会場
陸上競技	7月21~23日	盛岡市	県営運動公園
水泳	8月4~5日	水沢市	水沢市大鐘市民プール
サッカー	7月14~16日	大槌町	祝田サッカー場、大槌高ほか
テニス	7月7~8日 (少年) 7月21~22日 (成年)	盛岡市	県営運動公園 市営太田スポーツセンター
漕艇	7月13~15日	盛岡市 石町	県営御所湖漕艇場
ボクシング	7月14~16日	岩泉町	未定
バレーボール	7月14~16日	大船渡市	大船渡市民体育館、大船渡高、 大船渡中、大船渡農高
体操	7月13~16日	盛岡市	県営体育馆
バスケットボール	7月20~23日	盛岡市	県営体育馆、盛岡工高、盛岡市立高、盛岡三高
レスリング	7月14~15日	種市町	種市町民体育馆
ヨット	7月20~22日	宮古市	未定
重量挙げ	7月15日	野田村	久慈工高
ハンドボール	7月21~23日	盛岡市	岩手大学グラウンド
自転車	7月1日	紫波町	紫波町自転車競技場
軟式庭球	7月25~26日 (少年) 7月14~16日 (成年)	盛岡市	県営運動公園 市営太田スポーツセンター
卓球	7月14~16日	陸前高田市	陸前高田市民体育馆
軟式野球	7月21~23日	宮古市	宮古市営球場、宮古工高、宮古高グラウンド
相撲	7月14~15日	松尾村	松尾村営相撲場
馬術	7月21~22日	水沢市	水沢競馬場
柔道	7月14~15日	釜石市	新日鉄小川体育馆
ソフトボール	7月7~9日 (成年) 7月14~16日 (少年)	盛岡市 花巻市	(成年) 岩手大学グラウンド (少年) 花巻農高、宮野目中グラウンド
バドミントン	7月6~8日	盛岡市	県営体育馆
弓道	7月21~22日	水沢市	水沢高
クレー射撃	7月7~8日	花巻市	花巻市営クレー射撃場
ライフル射撃	7月14~15日	滝沢村	警察学校射撃場
剣道	7月14~15日	盛岡市	盛岡三高
ラグビーフットボール	7月20~22日	盛岡市	県営運動公園、岩手医大、盛岡三高グラウンド
山岳	7月14~15日	遠野市	梁師岳
フェンシング	7月14~16日	一関市	一関市体育文化会館
銃剣道	7月15日	都南村	都南村体育馆
アーチェリー	7月15日	盛岡市	市営太田スポーツセンター
空手道	7月15日	水沢市	武道館
カヌー	7月22日	盛岡市 石町	県営御所湖漕艇場
なぎなた	7月15日	盛岡市	橋市道場

県体育協会(藤原哲夫会長)の尽力した「十二人が体育功労者との正式競技になった「なぎなた」として表彰された。主な事業計画としては、第三十回県民体育大会を七月一日の自転車競技(紫波町自転車競技場)を皮切りに八月五日まで約一ヶ月で開かれ、五十九年度の事業計画や重点目標などを決めた。県ボウリング連盟(会長・小原正巳遠野市長)の県体協正式加盟が承認されたほか、地域スポーツの振興に催す。昨年の群馬国体から国体

五十九年度評議員会は二十八日午後一時から盛岡市内丸の県公会堂で開かれ、五十九年度の事業計画を皮切りに八月五日まで約一ヶ月間にわたって県内九市五町四村で開催する。昨年の群馬国体から国体

を新たに加え、三千四競技を継り広げる。地域スポーツの底辺拡大を図るため、ことしから成年種目市町村別対抗を採り入れる。重点目標としては△重点競技種目の設定と優秀選手の強化訓練△東北総合体育大会の全種目予選通りに市町村別対抗を採り入れる。

重点目標としては△重点競技種

の見通し。今後活動の活性化と競

技力向上に拍車がかかるようだ。

体育功労者は次の通り。

佐藤優(元盛岡市体協副会長)

龜井竹男(元胆沢郡体協会長)千葉專三(元久慈市相撲協会会长)

岩淵斐章(江刺市ウエーリフテ

「ボウリング」の加盟を承認

県体協の評議員会

が指定される見込み。

県ボウリング連盟の県体協加盟の背景には、スポーツ競技として全国的に浸透してきたことが挙げられる。既に全日本ボウリング協

会が日本体協に加盟しており、六十二年沖縄国体の公開競技に内定

将来は国体の正式競技に採用され

る機運にある。

本県でも来年の県

民体育大会には新競技に加えられ

る見通し。

今後活動の活性化と競

技力向上に拍車がかかるようだ。

岩手県

イング会長) 中村助松(元県野球

協会常任理事) 千田喜八(花巻市

弓道会長) 三浦均(前県高体連

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長) 矢羽々通夫(元県高体連理

事長) 小西喜助(県山岳協会副会

務局長) 藤原敏治(県テニス協会

会長) 佐藤敬一(宮古市軟式庭球協

会長) 西村与藏(滝沢村体協常

務理事) 千葉敏夫(花泉町体協事

長) 斎藤勝郎(北上柔道協会副会

務局長) 佐藤敏一(宮古市軟式庭球協

会長) 永沢信(県漕艇協会理事)

副会長) 高橋勝一(水沢市体協会

会長)

本県の嶋廻組は4位

東北ボウリング選手権

第十一回東北ボウリング選手権大会（東北地区ボウリング連盟主催、県ボウリング連盟主管、岩手日報社ならびに後援）第一日は十六日、紫波郡都南村のベルプラザ・スパークルで男子、男子シニア、女子の2人チーム戦、4人チーム戦の前半戦を行った。

男子の部は菅原友民・佐藤捷利組（秋田A）が、2、386点で優勝、同シニアの部は、2、286点をマークした佐々木成造・浅見国松組（同）が制した。女子の部は柳田君子・井上恵子組（福島B）が2、200点で優勝を飾り、前回優勝した鴨恵子・御代恵

藤誠組（岩手B）が2、300点で4位に入り、同シンニアの部は畠山正志・佐々木忠夫組（岩手C）が2、167点で6位入賞を果たした。女子の部は金野力ナ子・藤原妙子組（岩手A）が1、978点で惜しくも入賞を逃した。

子の部	①菅原友民・佐藤捷敏
(秋田 A)	233806②大沢・小島
(青森 A)	23380③阿部・菊地
(学連 A)	23325④鳴廻敏夫
伊藤誠(岩手 B)	23300⑤遠藤
・渡辺(宮城 B)	22308⑥片山
・工藤(青森 D)	22306
▽同シニアの部男子	①佐々木
成造・浅見国松(秋田 A)	2230

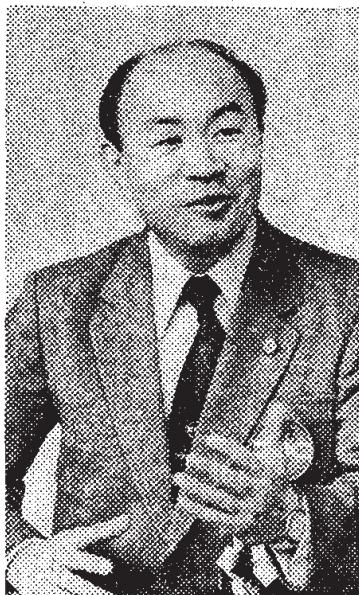
7	6	7	6	7
畠山正志	佐々木忠夫	(生)	柳田君子	上恵子
2	1	6	7	(福島B)
藤	・	桐	(山形)	2
(青森B)			2136③野鴨	2200②
2			2094④鴨	2074⑤佐藤
0			2052⑥間山	(秋田A)

景勢は男子の部で鳥回敏夫・伊
美子組(福島A)は2,074点
で4位だった。

から4人チーム戦の後半戦と選手権であるマスターズ戦を行う。

4 ④ 志田	9 ③ 鈴木	6 ② 張間
・	・	・
小松	佐藤	柏木
(宮城 B)	(福島 A)	(青森 B)
2	2	2

ジュニア層育てて 底辺の拡大を急げ



県ボウリ
ング連盟
吉田理事長に聞く

「どうなると選手育成が課題となるが…。」
吉田理事長 ジュニア層の選手養成が大きな課題だ。平日のボウリング場利用や学割料金を活用し、出来るだけ若い人にボウリングに親しんでもらいたい。学校、ボウリング場の理解を深め、底辺拡大に努めたい。友の会や愛好会組織でボウリングの会や愛好会組織でボウリング

吉田理事長　八十三歳の男性、七十八歳の女性がボウリングを楽しんでいる例がある。国体は二十代、三十代というようになく年齢層の選手でチームを編成することにならう。今からボウリングを始めようとすると、人でも十分国体出場を狙える。ボウリングは適度に汗を流しだれでも同じ条件で力を競うことが出来、そこが人気の秘密と思う。

い。年を追うごとに増えると思ふ。本県でも来年の県民体育大会ら正式競技になる公算が

グを楽しんでいる人たちにも呼び掛け、JBC会員を増やしていきたい。選手の掘り起こしは連盟の重要な役目だと思う。

藤 (秋田A) 2052 ⑥間山
(青森B) 2044

加伊

△同女子の部 ①柳田君子
 上 恵子 (福島B) 22000 ②
 片桐 (山形) 2-136 ③野
 通口 (青森A) 20940 鳴

即・櫻井

題となるが…。
吉田理事長 ジュニア層の選手養成が大きな課題だ。平日のボウリング場利用や学割料金を活用し、出来るだけ若い人にボウリングに親しんでもらいたい。学校、ボウリング場の理解を深め、周辺拡大に努めたい。友の会や愛好会組織でボウリング選手の育成に努めた」と語る吉田几生・県ボウリング連盟理事長)

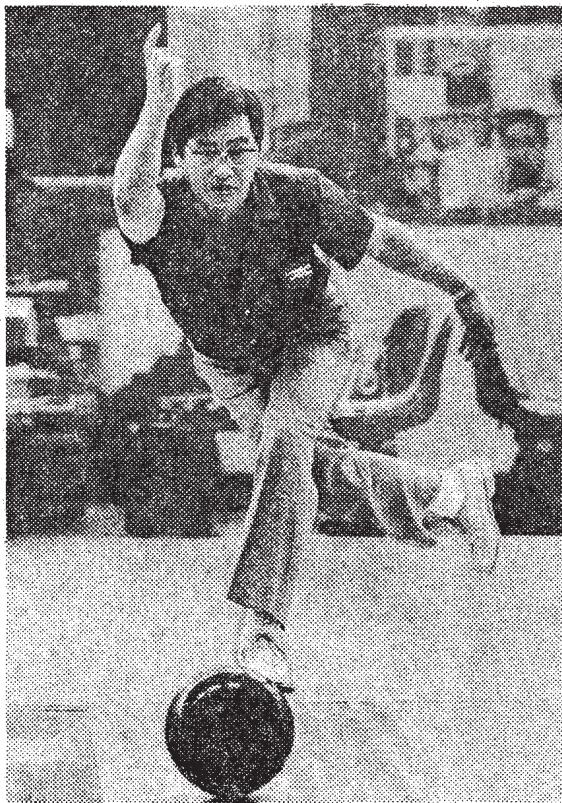
吉田理事長　八十三歳の男性、七十八歳の女性がボウリングを楽しんでいる例がある。国体は一交代、三十代という年齢層の選手でチームを編成することになりそうだ。今からボウリングを始めようとする人でも十分国体出場を狙える。ボウリングは適度に汗を流しだれでも同じ条件で力を競うことが出来、そこが人気の秘密と思う。

第37回

県体 中期 第2回

第三十七回県民体育大会中期第1回は十三日、今大会から新たに加わったボウリングなど競技数は一気に15に増え、県内各地で県民の「スポーツの祭典」にふさわしい盛り上がりを見せた。団体(男女混合)で争われたボウリングは盛岡市Aが都南村Aに12点差をつけ優勝した。軟式庭球は、成年女子で小沢初江・前川久美子組(陸前高田・盛岡)が制したほか、壮年男子は川村幸男・大向修(釜石工)、軽量級・駒林規也(大槌)が優勝を飾った。フェンシングは成年男子フルーレで佐々木満(花巻)が順当優勝。ラグビー少年A、ブロックは盛岡工、宮古、黒沢尻工、盛岡が準決勝に勝ち進んだ。中期第三回の十四日はなぎなた、重量挙げなど新たに競技が加わり20競技に熱戦を繰り広げる。

「スポーツの祭典」最高潮



ボウリング

北上市A 67-52点④矢巾町6-7
50点⑤都南村B 67-714点⑥石
鳥谷町669-37点⑦水沢市A 66
17点⑧盛岡市B 660-66点
△団体(男女混合)①盛岡市A
(丸山・大田・川原・佐々木) 6
7-68点②都南村A 67-56点③
民体育大会正式競技となつたが、
女性チームも頑張る
○…ボウリングはことから県
で編成した北上市Dチームは、出
場三十四チーム中ただ一つの女性
だけのチームとあって注目を浴び
た。予選六ゲームを投げ終え

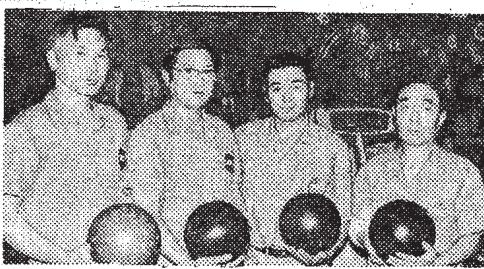
種は女子選手層の薄いこと。そん
ななかで、小森田エミ(平藤恵子、
菊池さつき、菅野美香の女性四人
で編成した北上市Dチームは、出
場三十四チーム中ただ一つの女性
だけのチームとあって注目を浴び
た)と、予選六ゲームを投げ終え

は緊張して屋食も食べれなかつ
た」と、予選六ゲームを投げ終え

てホッとした表情。チームは予選

新競技

盛岡市に栄冠



熊占

落ちしたが、「来年も出場します」と四人は意気盛んだった。

県民体育大会三十五番目の正

式競技となつた今回、団体戦に

は十八市町村から三十四チーム

が出席し、盛岡市Aが67-68点で初優勝した。

予選6ゲームを終了して決勝

へ進んだのは、上位十七チーム。

盛岡市Aは44-97点で首位

40歳代、50歳以上と幅広い編成

が求められている。

まず、女子選手、少年選手を

育成しなければならない。今大

会は、男女四人の混成チームと

したが、早い時期「男女別のチ

ーム編成を実現させる必要があ

る。

しかも、29歳以下、30歳代

40歳代、50歳以上と幅広い編成

が求められている。

29日から東北ミニ国体

ボウリング(公開競技)ゲートボール(デモンストレーション)加え

◇第13回東北総合体育大会

△中央開会式 8月29日(金) 午後5時 岩手県民会館大ホール
△正式競技

会場地	競技種目	日 程			競技会場
		29日	30日	31日	
盛岡市	陸上競技	○	○	○	県営陸上競技場
	テニス	○	○	○	県営コート
	体操	○	○	○	市立太田コート
	ハンドボール	○	○	○	県立太田体育館
	軟式野球	○	○	○	岩手大学体育館
	ラグビー	○	○	○	盛岡市立高体館
	アーチェリーエナジー	△	○	○	県営野球場
	バレー	△	○	○	県営ラグビーフィールド
	弓道	△	○	○	県営サッカートラック
	クレー射撃	△	○	○	県営スケート場
花巻市	軟式庭球	○	○	○	城北小体館
	馬術	○	○	○	市民体育館
	射撃	○	○	○	花巻北高体館
	弓道	○	○	○	花巻南高体館
	馬術	○	○	○	市武徳殿
	射撃	○	○	○	市クレー射撃場
	弓道	○	○	○	常盤台コート
	馬術	○	○	○	黒沢尻北高コート
	射撃	○	○	○	(雨天時学校体育館)
	弓道	○	○	○	黒北・黒工・黒南
北上市	馬術	○	○	○	専大北上
	射撃	○	○	○	勤労者体育センター
	弓道	○	○	○	水沢尻馬場内馬術競技場
	馬術	○	○	○	市営野球場
	射撃	○	○	○	市営陸上競技場
	弓道	○	○	○	一関文化センター
	馬術	○	○	○	青葉館
	射撃	○	○	○	一関一高体育館
	弓道	○	○	○	サンズ一関
	馬術	○	○	○	釜石中
水沢市	射撃	○	○	○	釜石鉱金石体育馆
	弓道	○	○	○	市営サッカーフィールド
	馬術	○	○	○	遠野高校
	射撃	○	○	○	市民体育館
	弓道	○	○	○	福岡町総合グランド
	馬術	○	○	○	釜石高
	射撃	○	○	○	紫波町営自転車競技場
	弓道	○	○	○	町総合体育馆
	馬術	○	○	○	早池峰山
	射撃	○	○	○	岩手産業文化センター
一関市	射撃	○	○	○	県警射撃場
	弓道	○	○	○	中央体育館
	馬術	○	○	○	村営相撲場
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
釜石市	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
遠野市	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
大船渡市	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
紫波市	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
遠野市	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
大迫町	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
船戸町	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
市町村	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○	○	
	馬術	○	○	○	
	射撃	○	○	○	
	弓道	○	○		

ボウリング

固体加入発展にはずみ



には高校体育に採用していく
る例もあるほどで、県ボウ
リング連盟(小原正巳会長)
の吉田几生(やすお)理事
長は「競技ペポーツとして
一層の充実を図りたい」と
語っている。

ボウリングが、競技スポーツとして新たな発展期にある。ソウル五輪のエキシビションマッチ、そして国体二巡目の京都大会(夏季)で成年の部が関係者悲願の二回戦制へと移行した。

スホ

吉田県連盟理事長に聞く

選手層の拡大が課題 教室開き人材の発掘を

◇庄司杯第16回盛岡市軟式選手権大会(23日、盛岡市夢舞台) ▽成年男子決勝トーナメント

△決勝	鈴木・佐藤(岩手大)	4-2	伊東・戸田(岩手大)
△決勝	鈴木・佐藤	4-2	渡辺・眞理(岩手大)

「吉田理事長は語る。最大の課題は選手層の拡大。会員中、ジュニア選手（中学生、高校生）はわずか八人。少年の部も、早ければ次回国体からの正式種目化に動いている中で、ます若年層にスポーツとしてのボウリングの魅力を知つてもらいたい」と同理事長。

◇

県ボウリング連盟への入会希望者は、吉田会計事務所（盛岡市本町通二ノ九ノ三、電話0196-161-16）まで。

△壮年1部決勝リーグ	寺・佐々木(早起きニス)
②福井・大塚(県庁)	1勝1
伊藤・伊東(早起きニス)	
▽第15回盛岡市民バドミン	
大会(23日、盛岡体育館)	
△1部男子ダブルス準決勝	
亀ヶ森・木立(盛岡ク)	2-0 村上・(都)
藤沢・伊藤(都南ク)	2-0 齋藤・(盛岡)
▽決勝	
木立 亀ヶ森・	
2	
15154	
91115	
1	
藤 藤 沢	

と吉田理事長は語る。最大の課題は選手層の拡大。会員中ジュニア選手（中学生、高校生）はわずか八人。少年の誕生（出生）も、早ければ次回国体からの正式種目化に動いている中で、「まず若年層にスポーツとしてのボウリングの魅力を知ってもらいたい」と同理事長。

「教育現場や名レーションの理解を得て、早い機会に初のボウリング教室を企画したい」と、有望選手の发掘に意欲をみせている。

レジャーから競技スポーツへ。団体種目となって、新たな発展期を迎えたボウリング。四十年代に論議を集めながら、「途上ではあるが、徐々に学校関係者も理解を示し始めた」(吉田理事長)。「ボーリングは、スポーツ憲章にのつとてマナーを重んじる厳格なもの」と同理事長は、「紳士のスポーツ」を強調する。加えて、長期戦に耐え得る強じんな筋力、名レーションの「癖」を読み取るセンス

◇庄司杯第16回盛岡市軟式 選手権大会(23日、盛岡市立 公園)	言金フアイル
△成年男子決勝トーナメント	
決勝	△決勝
鈴木・佐藤 4-2 (裏)	鈴木・佐藤 4-2 戸(若手)
▽成年女子決勝リーグ (1)	▽成年女子決勝リーグ (2)
・福(婦人テニス) 4勝2敗(3回戦敗退)	・本明(岩手大) 3勝1敗(3回戦敗退)
△同35歳以上決勝リーグ	△同35歳以上決勝リーグ
・木木・鳩田(婦人テニス) 2勝2敗	・元木(婦人テニス) 2勝2敗
△1勝2敗	△1勝2敗

記録ファイル

▽一部女子ダブルス準決勝

△壮年1部決勝リーグ ①
寺・佐々木（早起きテニス）
②福井・大塚（県庁）1勝1
伊藤・伊東（早起きテニス）
△第5回盛岡市民テニス大会

△同35歳以上決勝リーグ
タ木・鳴田（婦人テニス）3
砂子沢・佐々木（婦人テニス）
勝1敗③沢頭・一階堂（婦人
ス）1勝2敗

鈴木・佐藤 4-2 渡辺
△成年女子決勝リーグ (1)
・幅(婦人テニス) 4勝②本
本明(岩手大) 3勝1敗③民

△成年男子決勝トーナメント
決勝 鈴木・佐藤(岩手大) 4-2 戸伊東(岩手)

◇庄司杯第16回盛岡市軟式
選手権大会(23日、盛岡市立
公園)

国内女子プロボウラーの草分け的な存在として知られる須田開代子さん(五三)が二日に盛岡市内のホテルで「生涯青春」と題した講演を行った。ボウリングとの出会い、好不調のはざまで知った多くの教訓、今や国体種目の一つにまでなった競技の先陣を切れたといふ誇り、病気との闘いなど半生をたどりながら切々と語りかけた。

常に挑む
心を持って

須田 開代子さん(女子プロ)盛岡で講演



常に自分の目標を見つめ挑戦心を忘れないことが大事」と語る須田闇代子さん

横浜市市立商高卒。44年女子プロボウラー一期生。45年8月から公式戦6連勝するなど通算43勝。51年JBC(ジャパン・レディース・ボウリング・クラブ)を結成し現在も代表を務めます。

る。プロボウラーとして大
会参加のほか企画運営を相
当。テレビのレギュラー解
説者でもある。「須田開代子
のストライクボウリング」
など著書多数。東京都出身、
53歳。

が米国のプロを相手にアマの私がやり遂げた成績に周囲のボウリングを見る目は一変した。
プロ試験は30歳の時。四日間で60ゲームを行い、アベレージ1800ピン以上が合格ラインだった。三日目まで中山も敗北されない。お前は日本人

年間渡り、教えられたのは自分がプレーヤーである前に人間としていかに未熟であるかに気づいた。

こんなことがあった。10分遅刻した自分に浴びせられたコーチの「最低の人間には何も教えられない。お前は日本人

積み算へ追進へ」才その時
ある人から「プロならトップ
だけを狙え。2番目のプロた
んてだれも見向きはしない」
との一言が今も胸に響く。そ
の時の決意が奇跡の大逆転へ
位になり、ずっとプロとして
の私の勝負魂を支えてきたか
らだ。

「ここではただの人間だ」――マスコミ、ファンから何をしても許されるというシンデレラにいつの間にかされてしまつた自分に恥ずかしさでいっぱいだった。ほどなく訪れたボウリングへ人気の陰り……。今思うと人生はつらいことこそ自分が自分を高めてくれる道のりだったようにも思う。

その後の人生には35歳での結婚、出産、胃がん宣告、手

ボウリングとの出会いは貿易会社に勤務していた二十五歳の時。当時やっと国内に入り始めたボウリング用品を会社が扱ったのがきっかけだつた。最初のスコアは忘れもしれない89ピン。その後はスポーツ選手ならだれもが通る苦しさと楽しさの過程だが、支えてきたのはやはり生まれながらの負けず嫌いの性格ではなかつたかと思う。

競技人口は限られていたから三年後には日本一と言われたまでになった。最初の大きな節目は米国の大会参加でやつてきた。五百人ぐらい出場したうちの最下位。翌年は三百番目ぐらい。三回目の米国大会参加権を得た私は国内の

すべての大会を捨ててその大会だけに集中した。技術的に遅いレーンにどう対応するか。右サイドいっぱいからビンまでの最短距離でボールをぶつけることを練習の反復で体がつかんだ。結果はビン差で優勝こそ逃したが2位。だ

ど多くの報酬と注目を集めスターにまわり上げられた。負けたくない」という人一倍の意識が6連勝、通算43勝といふ成績を残したが、気持ちに緩みがあったのは否めない。そして当然のよう勝てなくなつた。そんな時、米国に半

目標はまだ経験のない3000点をマークすることだが、もつと大事にしたいのは「常に一線に立ちたいという熱い思い」。十年後、二十年後も生涯青春という言葉を言えること。これを何より大きな目標にしていきたいと思う。

つらさバネに道開く



第42回国民体育大会 ボウリング競技に参加して

成年男子監督

吉 田 几 生

「きらめく太陽、ひろがる友情」のスローガンの下、第42回国民体育大会夏季大会にボウリング競技はオープン競技として初参加となった。全日本ボウリング協会そして岩手県ボウリング連盟がスポーツボウリングの普及を目指して結成されておよそ20年、先輩諸兄、会員一人ひとりの努力が実を結び私ども岩手県選手団は感激を胸にボウリング競技の開始式に臨んだ。

思えば長い道のりではあった。県体育協会加盟の陳情等いろいろな思い出が走馬燈のように駆けめぐった。

8月22・23日に秋田市で開催された東北ブロック予選（第14回東北総合体育大会）で、成年男子の部（小笠原勝・佐々木菊夫・嶋廻敏夫・佐藤義明）が見事出場権を獲得しての参加。

9月18日、盛岡駅で見送りを受け出発、新幹線の車中では、前日に届いた県選手団用ワッペンを選手がそれぞれあぶなっかしい手つきで縫いつけ、笑いを呼んだ和やかなシーンもあり、選手団は空がどこまでも青い那覇空港に降り立った。



▲開始式の選手団

翌19日は夏季国体全競技岩手県選手団の結団式、ボウリング競技の監督会議に出席し、成年男子の部年齢別個人戦は21日に競技が開始された。この日は県選手団長佐々木副知事をはじめ役員の方々が競技場を訪れ熱心に応援して下さり各選手頑張ったが残念ながら予選通過はならなかった。惜しまれるのは29歳以下の小笠原、40歳代の嶋廻両選手、それぞれ12点、17点差で決勝進出（8位入賞）を逸している。

来年の第43回京都国体は正式参加となり、岩手県の天皇杯順位得点にも貢献できる。本大会を目指して選手強化に励みたい。

他種別との競技日程の合間に摩文仁の丘にある戦没者慰靈碑を参拝し平和への思いを強くしたこと、その時の親切なガイドさんが応援に駆けつけてくれ素敵なお嬢さんとの出会いがあったこと、そして金環日食を沖縄の地で観る機会に恵まれたこと等々。思い出多い心に残る沖縄海邦国体だった。

終わりに選手派遣に際し、ご支援ご協力いただいた岩手県ボウリング公認競技場協議会そして会員の皆様にお礼を申し上げご報告とします。

（スーパーレーンニュース1987年11月号に掲載された報告書です。一部省略しました。）

佐藤

岡支店

が8位入賞



佐藤豊三郎
(日通盛岡支店)

ボウリング

（釣路バレスボウル）

▽成年男子
部個人決勝（9ヶ
1点）①渡辺前夫（香川）1-83
6点（予選1-108、決勝638）

▽大会新②大野（福岡）1-7-48
点③喜毛（宮崎）1-7-12点⑧佐
藤喜三郎（岩手・日通盛岡支店）
1-598点

▽少年男子個人決勝（9ヶ
1点）①高久良孝（北海道）1-7-3-1点
2-69点

▽少年男子個人決勝（9ヶ
1点）②兵庫3-3-1-7点③愛知3-
9点

▽少年男子個人決勝（9ヶ
1点）④山本（岡山）1-6-4点⑤
丸山（丸山）1-6-4点⑥佐藤（岩手）
1-6-7点⑦野上（広島）1-5-4点⑧
大野（福岡）1-1-5点

▽少年男子個人決勝（9ヶ
1点）⑨丹羽（愛知）1-6-9点⑩
丸山（岩手）1-6-7-3点⑪岡山（長
崎）1-6-7点⑫野上（広島）1-5-4点⑬
大野（福岡）1-1-5点

（予選1-1-7-7、決勝5-5-4）②
高田（栃木）1-6-8-6点③米沢（兵
庫）1-6-7-7点

▽少年女子団体決勝 ①北海道 8-5-4
（予選2-3-4-3、決勝 3-1-0-2点）
3-3-7-9点 ②京都 3-1-1-0点③大阪
1-0-3-6点 ④玉置 1-5-2-5点、畠中1
▽少年女子個人決勝（9ヶ
1点）

成年男子2部個人予選を6位で
通過し、この日の決勝に期待がかかる
かった佐藤豊三郎（日通盛岡支店）
は、思うようにスコアが上がり子
8位入賞に終わらなかった。や
つたが、全般に伸びなかつた。や
はり決勝ということで緊張したせ
いでじょうか」とゲームを振り返
った。しかし「8位以内入賞の目
標は達成したので満足ですよ」と
語り、周囲の祝賀に改めて喜びを
かみしめていた。

この日からの团体は、4人6ヶ
1点のトータルで得点は4-3-4-8
点で24位にとどまり、決勝進出は
ならなかつた。

国体大会

北海道
第2日

ボウリングには子葉の第一泳者としてソウル五輪のヒーロー鈴木大地（セントラル
SC）も出場し力泳したが、タイムは24秒5と平凡だった。

県勢の競泳は、この日も全種目優勝落ち。昨年から正式種目となつたボウリング
成年男子1部の50歳以上の部で丸山忠夫選手（丸山鋳金）が1-6-7-3点で3位入
選で県勢入賞の第10号となつた。このほか、岡山県の佐藤喜三郎（日通盛岡支店）
もベスト8で決勝へと進んだ。好進歩のヨットは、少年女子FJ級で宮古高の後
藤が5-5-6点で優勝。手動計時での日本新をマークした。宇佐見は浪色
男子二百メートルの第一泳者として登場。きれいな泳ぎで、自らが八月のパンペ
シオング選手権で出したが23秒89の未公認日本記録をも上回った。成年男子二百
メートルも優勝を確保している。三日目の五日にはヨット男子勢が最終レースを
迎え、複数入賞の期待が寄せられる。

ボウリング 1部50歳以上 本県の丸山5位

成年男子
1部
50歳以上
丸山
(丸山)

忠金
(忠金)

夏季国体

広島

第3日

三日は千日、福山市の緑町公園屋内競技場などで水泳、ボート、ヨット、カヌー、ボウリングの5競技を行った。水泳の飛び込み成年女子板飛び込みは、現役最後の大会となつたアトランタ五輪6位の元渕幸（奈良・天理教本部）が快勝し、成年男子高飛び込みも五輪代表の金戸恵太（東京・ミキハウス）が制した。競泳は14種目の決勝戦を行い、少年女子A三百㍍個人メドレーはアトランタ五輪百メートル4位の中村真衣（新潟・帝京長岡高）が日本歴代4位の47.0秒で銀メダルの重田美子（佐賀・佐賀県ヨットハーバー）が出場した。

成年男子

工藤（ビル用品）は8位

この日の県勢は、大会3日にして入賞者が生まれた。

ヨット少年男子FJ級の岩手選抜（中川知久、鈴木一幸）が7位入賞を果たし、ボウリング成年男子個人年代別23歳以下（工藤文彰（第一ビル用品））も8位入賞。ボート少年女子かじ付き（オアの盛岡三高）が準決勝「D組」を2位で5—8位決勝戦に進み入賞を確定した。カヌー・

ボウリング

スラローム成年男子カヤックシングル（15ゲート）の天川雅彦（零石町役場）は10位に終わり、25ゲートに続いて惜しそも入賞を逃した。競泳は5種目に亘り新4、県高校新2、県中学校新1が生まれたが、決勝進出者はなかった。

△成年男子▽年齢別個人29歳以下決勝（9ゲート）①桜庭良弘（千葉）2033点（予選1809点、決勝724点）②沖（広島）2000点③伊藤（福島）1983点④以上天合新⑤工藤文彰（岩手・第一ビル用品）1866点（12点）

△同40歳代決勝（9ゲーム）①大西正己（大阪）2058点

△同50歳以上決勝（9ゲーム）①右井幾一（宮崎）20点

△少年男子▽団体決勝（9点）

△成年男子カヤックシングル（15ゲート）の天川雅彦（零石町役場）は10位に終わり、25ゲートに続いて惜しそも入賞を逃した。競泳は5種目に亘り新4、県高校新2、県中学校新1が生まれたが、決勝進出者はなかった。

△成年男子▽年齢別個人29歳以下決勝（9ゲート）①桜庭良弘（千葉）2033点（予選1809点、決勝724点）②沖（広島）2000点③伊藤（福島）1983点④以上天合新⑤工藤文彰（岩手・第一ビル用品）1866点（12点）

△同40歳代決勝（9ゲーム）①大西正己（大阪）2058点

△同50歳以上決勝（9ゲーム）①右井幾一（宮崎）20点

△少年男子▽団体決勝（9点）

△大会新

△少年女子▽団体決勝（9ゲーム）①北海道3579点

△大会新

△男子▽成年団体予選前半（3ゲート）①岩手（工藤文彰）2431点

△大会新

△男子▽成年団体予選後半（3ゲート）②岩手（工藤文彰）2431点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）③岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）④岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑤岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑥岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑦岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑧岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑨岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑩岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑪岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑫岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑬岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑭岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑮岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑯岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑰岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑱岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑲岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）⑳岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉑岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉒岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉓岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉔岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉕岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉖岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉗岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉘岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉙岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉚岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉛岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉜岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉝岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉞岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新

△男子▽成年団体予選（6ゲーム）㉟岩手（富山、桜井、久慈、熊谷）4515点

△大会新



ボウリング

(熊本交通センター・ボウル)

か
▽少年男子個人決勝(9ヶ
1-1) ①武本真明(大阪) 1
1-1) ①末永夏希(愛知) 1
930点(予選1-321、決
720点(予選1-127、決
直子(東京) 1830点(予

勝609)

▽少年女子個人決勝(9ヶ
1-1) ①末永夏希(愛知) 1
以ト決勝(9ヶ1-1) ①関根
直子(東京) 1830点(予

勝593)

▽成年女子年齢別個人29歳
代決勝(9ヶ1-1) ①山下貴
子(福岡) 1771点(予

選1-254、決勝585)

▽成年女子年齢別個人30歳
代決勝(9ヶ1-1) ①沖田純
子(広島) 1743点(予選
1-152、決勝591) ②久
慈順子(草手・小岩井乳業)

1-154、決勝617)

▽成年女子年齢別個人40歳
代決勝(9ヶ1-1) ①吉田純
子(長崎) 1716点(予選
1-172、決勝544)

▽成年女子年齢別個人50歳
以上決勝(9ヶ1-1) ①沖田純
子(広島) 1743点(予選
1-152、決勝591) ②久
慈順子(草手・小岩井乳業)

3、決勝565)

▽「国体完全出場」ボウ
リングの成年女子個人30歳代

の部に出場した高橋久美子
(岩手東芝)は、これまで秋

季大会のソフトボール、冬季

大会の2部アルペン大回転に

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の

主将も務めた。ボウリングは

まだキャリア5年だが、持ちは

前の根性と家族の協力でつか

んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の
主将も務めた。ボウリングは
まだキャリア5年だが、持ちは
前の根性と家族の協力でつか
んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か
らないが、しばらくは家族のか
ために戻くしたい」と晴れや
かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の
主将も務めた。ボウリングは
まだキャリア5年だが、持ちは
前の根性と家族の協力でつか
んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か
らないが、しばらくは家族のか
ために戻くしたい」と晴れや
かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の
主将も務めた。ボウリングは
まだキャリア5年だが、持ちは
前の根性と家族の協力でつか
んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の
主将も務めた。ボウリングは
まだキャリア5年だが、持ちは
前の根性と家族の協力でつか
んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完

全出場」を達成した。予選16

位で決勝進出はならなかつた

が、「大好きな国体の雰囲気

をまた味わえて満足」とさわ

やかな笑顔を見せた。

ソフトボールでは眞選抜の
主将も務めた。ボウリングは
まだキャリア5年だが、持ちは
前の根性と家族の協力でつか
んだ晴れ舞台だった。「また

出場を目指すかどうかは分か

らないが、しばらくは家族のか

ために戻くしたい」と晴れや

かだった。

(神)

出場。夏、秋、冬の「国体完



成年女子
小笠原(ムラタ)6位入賞
鈴木(ヨシケイ)も健闘7位

30歳代

ボウノノグ

△少年男子団体決勝
1-△ ①神奈川3996点

木6335
(神奈川は5年ぶり3度目の優勝)

以下決勝（9ゲーム）①藤井
聖絵（福岡）1979点（予
選1322、決勝657）⑥

△成年女子年齢別個人40歳
代決勝(9ゲーム) ①西村孝
美(大阪) 1859点(予選)

A black and white portrait of a young woman with dark hair, wearing a light-colored cap and a dark jacket. She is smiling and looking towards the camera.

「悔いなし」初の入賞

鈴木笠原と木

112

鈴木ゆかり
(ヨシケイ岩手)

ボウリング成年女子年齢別個人29歳以下
決勝 6位入賞と健闘した小笠原由美子
(ムラタ) || 高知市・ボウルジャンボ

ボウリングは成年女子で2位の人に入賞者が出了。年齢別個人29歳以下で小笠原由美子(盛岡市・ムラタ)が6位、30歳代で鈴木ゆかり(水沢市・ヨシケイ崖手)が7位(健闘した。2人とも仕事と家庭を持つ忙しい身。その中で土、日曜日の県連盟の強化合宿を

力を抜いてスピードを殺す」とを意識した。決勝はまずがに力が入ったが、全日本メンバー4人がいる部門で堂々の入賞。「悔いはない」と額の汗をぬぐった。

1996年の広島国体以降、競技から遠ざかっていた鈴木は久しぶりの挑戦だつ

奥合いか違った。1、2ゲームは150点台、3ゲームこそ196点で本来の調子を取り戻したもののスコアを大きく落とした。「順位には満足。決勝での自己的ボウリングがでぎなかつたのが残念」と悔しがった。

木は2度目の国体で初の入賞を果たした。

た。予選を1位で14差の2位で通過。しかし、決勝でレンコンディションに苦しんだ。20のレーンを交耳で投げだ。

初の入

人賞

以下決勝(9グーム)①藤井
聖絵(福岡) 1979点(予)
選1 322、決勝657) ⑥
小笠原田美子(当主、ムラタ)

▽成年女子年齢別個人40歳
代決勝（9ゲーム）①西村孝
美（大阪）1859点（予選
1222、決勝637）

1981年中野597、勝又601
(静岡は2年連続2度目の優勝)

代決勝(9ゲーム)①伊藤祐子(新潟) 1838点(予選1224、決勝6-14)⑦鎌木ゆかり(岩手)、ヨシケイ岩



第57回高知国体(2002) 小笠原由美子ユースの部 6位



第57回高知国体(2002) 鈴木ゆかりミドルの部 7位



2002高知国体ボウリング競技7位入賞 鈴木ゆかりさん(水沢市／ヨシケイ岩手勤務)

11月
SPECIAL
INTERVIEW

スペシャル
インタビュー

応援の力は大きい。目には見えなくても、数値として現れなくても、確かに効果がある。ホームスタジアムでなら、強豪を圧倒できるサッカーチームが少くないのが、その証拠。今夏の高知国体、ボウリング競技で7位入賞の栄誉を勝ち取った鈴木ゆかりさんも、その力を実感している一人だろう。気持ちを奮い立たせてくれた、一枚のファックス。

毎食をお腹に詰め込んでいた。ゲーム開始まであと3時間

6

見慣れた文字、うれしいメッセージ

20代のころ、北上市のボウリング場に勤務していたとき。すすめら

鈴木さんと、ボウリングの出会いは、20代のころ、北上市のボウリング場に勤務していたとき。すすめら

鈴木さんは、この夏、高知国体ボウリング競技、成年女子年齢別個人戦ミドル（30歳代）に岩手県代表として出場した。調整があまりうまく進まないまま迎えた、9月21日の予選初日。会場のレーンコンディションもなかなかつかめない。いらだちが募る。岩手県予選東北総体をクリアしての国体出場。出場できなかつたライバルたちの顔が頭をよぎり、押しつぶそうとするプレッシャーだけが大きくなっていく。

見慣れた文字、うれしいメッセージ

「広島の無念」から、大きな成長

国体会場にファックスを送った大器くんは、小学6年生。夕食をつぶつて待つてくれるのも、しばしばとう親思いの優しい子だ。「仕事や練習



撮影協力／水沢ジャンボボウル

器用じゃないから、ずっと努力を続けます。

岩手県ボウリング

金木 ゆかり様

オイラもガムばばが

おやさんとおやじに

暮す家までがんばれ!!

大器

予選会場に届いた応援の手。バッグと共に持歩いている。

は、ジャノブアップで「気に2位」。予選の2日間とも、600点を超えたのは鈴木さんだけ。圧倒的な安定感を見せて。「このファックスがなかつたら、多分無理だったでしょうね。大切なお守りでした」としみじみ振り返る。

予選のポイントを引つさせて臨んだ翌日の決勝は、雰囲気に入られました。自分たちの顔が頭をよぎり、押しつぶそうとするプレッシャーだけが大きくなっていく。



ダイナミックで流麗なん
フォーム。左手できちんと
とバランスをとることが大切

先を回つてくれた同僚。この成績が、自分だけの力で得られたのではないことを深く胸に刻み込む。

「かっこいい母であり続けたい」

一見見えていますか？ 少し間を置いて、コクリとうなづく。「来年の開催地は、静岡なんです。強敵はたくさんいます」。グッと目線を上げた。

右腕の太さが目についた。歓喜だ。風呂の中では、手を握ったり、開いたりのトレーニングを欠かさない。「若いころには、子どもを背負い、家事をしながら、スクワットで鍛えたのです」。

身体が大きいので、どうしらしめた神経の持ち主と思われるがちだが、「そもそも気が小さくなります」。ボウリングは精神的にアドレナリンの動きが気になることも少なくありません。でも、声援は大歓迎。

「実は気が小さいんですよ」



れまま、レーンに立つていたら、いつしか、その奥の深さにひかれた。自然に熱が入る。1996年広島国体に出



水沢市内で、夕食材料を届ける年寄りの評判は、もちろん上々。

11月
SPECIAL
INTERVIEW

スペシャル
インタビュー

△カシマ・スカル準決勝
—D組— ①栗沢真紀(西和賀高)
3分45秒57 1決勝進出
△少年女子 かじり付四人スカル
準決勝 —B組— ④吉手(山田
高川) 部属、同部属、同部手、中沢、
昆) 3分58秒49 1決勝



小笠原(ムラタ)2位

ボウリング

3年ぶりに戻って来た國体の舞台で最高の結果を残した。小笠原由美子、ムラタは、成年女子個人30歳代で2位の座を最後まで守り抜き、準優勝。3年前の高知国体29歳以下の6位をも上回り、もう十分の成績。上出来だと思つた。賞状を手に笑顔が広がつた。予選前半3ゲームで64点と好スコアを出し、首位。後

半も59.1と高れず、予選8位で決勝に進出した。好調の要因を「タイミング、特にゼールを放す瞬間に注意した」と語る。男子競り負けのパワーはボウラーだが、あえてそのパワーは封印。一投一投、正確性を重視して腕を振れたことが、好成績に結び付いた。目標の8位内が確定してしまった日の決勝は「点数どう

こうでもなく、伸び伸びと投げよ」とリラックスして臨んだ。さすがに優勝ならうべきだ。

「なんでイージーミスでまつた」というが、余命の球だった選手の貯金がものすごい、銀メダルは手放さないつた。

夫の賢さん(41)もボウリングの国体選手。ボウリングで2人の仲を取り持つた。

また「それを見たときに成るも上昇カーブを描き今回の体出場へいひがつてはいる仕事を持つて家庭では主張をこなす」その間合を繋いで競技生活がある。夫婦で一緒に、技術を高め合つては未だ獲得した銀メダルは、屬輝を左増す。一天にもかぎり報告書で書きこむかたと心底感心だ。(千葉)

奥州の「た」。一
たこと集中を
た一と終わってみれば
逆転優勝だった。
8月の全国中学校
体育大会の軟式野球
で初出場初優勝した
福岡中も県大会初制
覇を契機に東北を制
し、一気に全国の頂

ボウリング

(水関勝博ボウリング会館)

△成年男女年齢別個人29歳以下
決勝 (9ホール) (川田光一) (神
奈川) 1-10000点 (会場) 1-9454

△同30歳代決勝 (9ホール) (①
野々山寿光 (愛知) 20200点)

△同40歳代決勝 (9ホール) (①
松崎奏夫 (埼玉) 20300点) (大
会新) (予選1-344、決勝7-203)

△同50歳以上決勝 (9ホール)

△同30歳代決勝 (9ホール) (①
原田由紀子 (静岡) 1-748)

△同40歳代決勝 (9ホール) (①
鶴見義紀 (岐阜) 1-8000点)

△同50歳以上決勝 (9ホール) (①
花形恵三 (山梨) 1-7920点)

△同30歳代決勝 (9ホール) (①
鶴見義紀 (岐阜) 1-8000点)

2点	①石手4441点 (米沢4041 小笠原14000 畠木40000)
2点	②小笠原 4点 (1)
1点	阿賀男1003 二瀬瀬
1点	⑩石手2144点 (宇都10000 小寺寺1153) 二瀬瀬

「入賞だけを考えたからまさか優勝できることは」。第61回国民体育大会のボウリング（（63年3月合併））

的な事前練習を行えなかつたことが、逆に吉と出た。気負いなく臨み、ゲームに集中できま。

マスターズ
ボウリング
本県の藤原が大会新V

藤原 孝至選手

マスター・ズ
ボウリング
本県の藤原が大会新V

日本スポーツマスター
ズ2006（広島県、
月）のボウリング男
選手権者決定戦（6ヶ
く）で本県の藤原孝至
手（47）が岩手大職
1429点の大会新を

國体出場権を獲得したのは6度。半分本戦前に涙をのんべて予選落ち。周囲は過去5度の国体で「入賞して当たりの実力」と見られたアレッシャーがたという。入賞の以内を意識しき段の力が發揮できことが続いた。

は
し
実
じ実力を出し切った
結果だ。
駅伝、ラグビー、サッカーカーなど全国大会の本県代表が続々と決まり前半戦はすこぶる。まず実力をすべてを出し切ることに集中してほしい。何がきっかげで「殻を破る」ことにしてはならない。普段からなれど、普段からなれない。(正)

で6連続ストライクを出し、2155点と好スタートを切った。「周りを意識しないようにした」

ハリになつたのは過去12度。そのうち本県が団体総合得点で国体出場権を獲得し

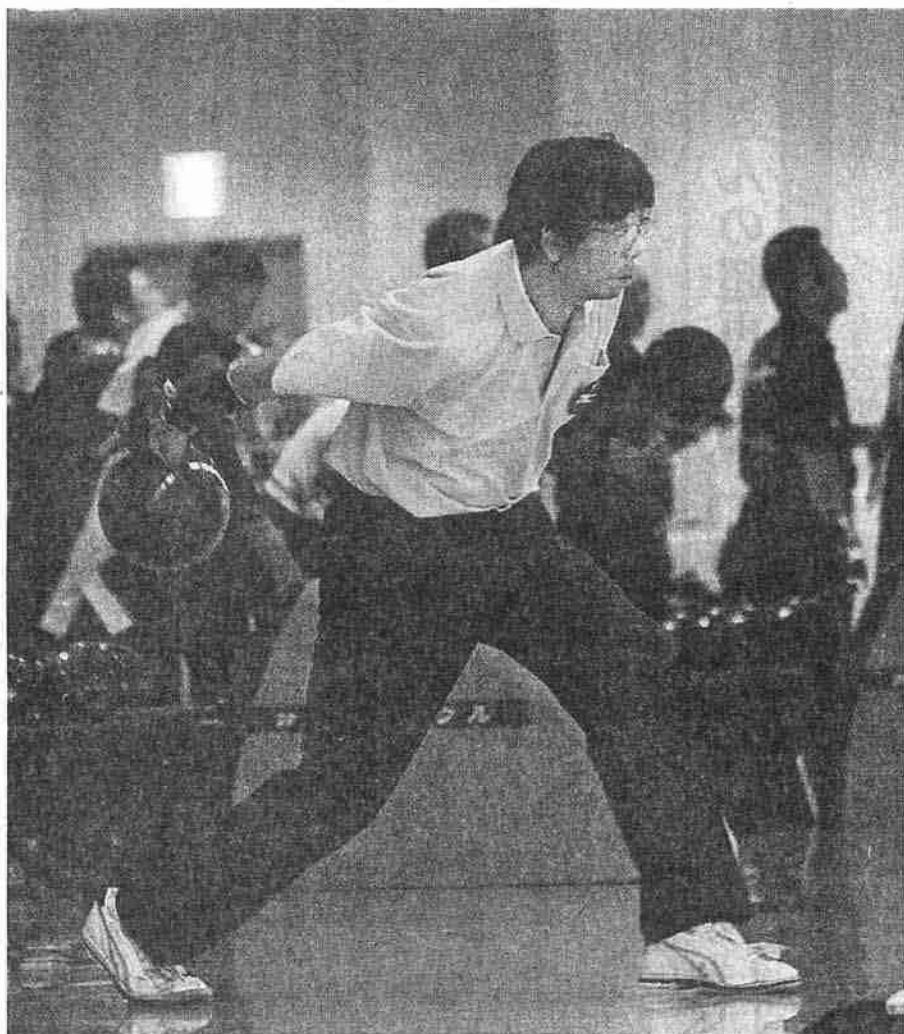
実力出し切ることに集中を

8月の全国中学校
体育大会の軟式野球で初出場初優勝した福岡県も県大会初制覇を契機に東北を制し、一気に全国の頂点に駆け上がった。県内で「勝ちたい、勝たなければいけない」という重圧がなくなつた選手が「自分たちの野球」を信じ実力を出し切つた

應援席

しかし、今回は通い慣れたボウリング場が

木村(全農クミックス)一気に頂点



成年男子年齢別個人戦(ハイミドルの部)で1925点を挙げ、ボウリング
県勢初優勝を飾った木村聰(全農クミックス)=神戸市・神戸六甲ボウル

第2ゲームでリズム決勝

前半704点で首位に立った木村は、後半も563点にまとめて予選を3位で通過。その勢いはさらに加速した。

「ここまで来ただんだ、自分のボウリングをしよう」と、バランスのいい2ゲームにやってきた。第1フレームから9連続ストライク。183cmの長身からゆつたりとしたフォームで投じた15球3球(約6・9%)のボールは10本のピンを次々に倒した。

「あれでほかの選手にアレッ

ハイライド

(6ゲーム)は32選手が出場。

これまで5度出場した国体はすべて予選敗退だった45歳のペランが一気に頂点まで上り詰めた。ボウリング成年男子年齢別個人戦(ハイミドルの部・40歳代)は、木村聰(全農クミックス)がトータル19325点をマークし、同競技県勢初の優勝という金字塔を打ち立てた。

前日まで2日間行われた予選

ボウリング

(神戸六甲ボウル)

▽少年男子団体決勝(9ゲーム)
①兵庫3716点(予選2503点、
決勝1181点)平岡570、大田
川3619点

(兵庫は初優勝)
▽成年男子団体予選(6ゲーム)
①岩手4336点(予選1105点、
決勝1811点)福岡570、大田
川3619点

▽年齢別個人29歳以下決勝(9
ゲーム)
①兵庫1102、木村1108、藤
ヶ久(①高橋俊彦(岐阜)10
点)予選1348、決勝64
点)川3619点

▽30歳代決勝(9ゲーム)
①石
村1013(②落選
9点)予選1348、決勝64
点)川3619点

▽30歳代決勝(9ゲーム)
①(吉田)1977点(予選1351点、
決勝626)
②(松

40歳代県勢初の金字塔

大舞台で花開いた

▽40歳代決勝(9ゲーム)
①木
根)1977点(予選1351点、
決勝626)
▽30歳代決勝(9ゲーム)
①(松

圧巻9連続ストライク

ハイライド

これまで5度出場した国体はすべて予選敗退だった45歳のペランが一気に頂点まで上り詰めた。ボウリング成年男子年齢別個人戦(ハイミドルの部・40歳代)は、木村聰(全農クミックス)がトータル19325点をマークし、同競技県勢初の優勝という金字塔を打ち立てた。

前日まで2日間行われた予選

シャーがかかったのではない
か」と振り返る根田光朗監督、盛岡赤十字病院)。266点を挙げて抜け出すと、最終ゲームは

投げつけた。最終ゲームは一
度にめり込んでいた。20代半ばの1985年にはボウリングが

県民体で採用され、競技スポー
ツとして本格的に打ち込んだ。

普段は奥州市の自宅から農協
関係の作業用具などを扱う盛岡
市の職場に通う。練習は主に週末の休日に多いときで6ゲーム
ほど。本拠地にしている奥州市
水沢区のボウリング場が3月から
改装休業中だったため「練習
場は減ったけれども、それで逆
にアレッシャーが小さくなったり
のかな」と勝因を推し量る。

東北予選で涙をのむことも多く
じられない。まさか優勝できる
とは」と興奮気味に試合を振り
返り、「これからは若い選手を
育成し、競技人口を増やすこと
に力を入れたい」と晴れ晴れ
とした顔で新たな目標を掲げ



国民体育大会優勝！

奥州支部

常任理事 木 村 聰

「第61回のじぎく兵庫国体」ハイミドルの部において、悲願であった国体での入賞を、優勝という自分でも信じられないような結果で果たすことができた。

平成元年の「第44回はまなす国体」への初出場から17年。6度目の国体でやっと出した結果であった。

今、改めて振り返れば、最初に出場した「はまなす国体」は、ブロック大会の怖さ、国体の素晴らしさを知らないままの参加だった。優勝どころか入賞の二文字も頭には無かったと記憶している。しかし、初めての国体は自分の気持ちを大きく動かした。地元の方々の歓迎ムード、開始式の感動、大会の雰囲気、どれをとっても素晴らしいもので、丸山忠夫選手、佐藤喜三郎選手の入賞の盛り上がりを間近に見て、また国体に出場したい、自分も入賞したい（当時まだ出場したいという気持ちの方が強かったが・・・）と深く心の刻む大会となった。だがそれからというものは、県予選での敗退、総体での予選敗退を繰り返すこととなり、国体出場という想像以上のプレッシャーが自分を支配し、総体での予選突破の難しさ、厳しさ、悔しさを嫌というほど痛感させられた。そして、やっとの思いで出場権を獲得し、5年ぶりに出場した「第49回わかしやち国体」は久しぶりの参加ということもあり、参加できるだけで満足していた大会だったような気がする。

その後、岩手県選手団は自分も含め、国体に度々出場することになるのだが、その間出場した選手たちが次々と入賞を果たし、今度はそれも大きなプレッシャーとなって自分に申し掛かってくるようになってきた。国体の出場回数はそこそこ有るのに入賞できない。もの凄いプレッシャーを総体から感じていた。「なんとしても国体に出場したい、国体で入賞したい」気持ちだけが空回りし、総体、何とか出場権を得た国体も、普段のボウリングが出来ないまま、ただ回数を重ねていくことになった。

平成12年の「第55回2000年とやま国体」出場後、「のじぎく兵庫国体」まで6年の歳月を要することになるのだが、その間、自分の気持ちに大きな変化が起きたような気がする。年を重ねたせいなのかもしれないが、予選を突破するという気持ちよりも、いつでも、どんなときでも自分のボウリングをする、普段のボウリングをするということが、本当に大事なことだと思えるようになった。常にそれに集中できれば、それなりの成績はできる。そしてそれが結果となってついてくる。気持ちに余裕のようなものが生まれたのだと思う。ボウリングは、自分自身との戦い、いかにしてレーンを攻略することが一番大事なことなのであって、そしてそれが順位という結果になる。そのことが「のじぎく兵庫国体」の優勝に大きく生かされ、結果になってあらわれたのだと思う。

もちろん自分の力だけではなく、一緒に戦ってくれた根田光朗監督、チームメイトの岩崎敬人、工藤文彰、藤村他可夫選手、そしてご指導、ご鞭撻を頂いた県連の役員、会員の皆様の多大なる応援があったのも、自分の大きな力になったのはいうまでもない。これからもそれを肝に銘じ、精進していこうと思う。

自分もそろそろシニアになろうとしているので、時には若手を引っ張り、時には若手に引っ張って貰いながら、若手のいい見本となれるよう、選手として、役員としてこれからもまた頑張っていければと思う。

国民体育大会参加選手名簿

開催地	種別	監督	選手
第42回 (昭和62年・沖縄県)	成男	吉田几生	小笠原勝 佐々木菊夫 嶋廻敏夫 佐藤義明
第43回 (昭和63年・京都府)	少男	吉田几生	工藤文彰 嶋廻克彦
第44回 (平成1年・北海道)	成男	菊地 賢	木村 聰 浅野周三 川原重治郎 丸山忠夫 佐藤喜三郎
第45回 (平成2年・福岡県)	成女	熊谷礼子	上村優子 三浦巳代子 久慈順子 小笠原ケイ子 後藤秀子
第49回 (平成6年・愛知県)	成男	阿部勝弘	工藤文彰 木村 聰 川原重治郎 丸山忠夫 赤澤 清
第50回 (平成7年・福島県)	少男	上野吉朗	大橋 学 菅原崇史
	少女	佐藤和典	佐藤結香 菊池しのぶ
	成男	阿部勝弘	工藤文彰 木村 聰 川原重治郎 吉田 優 加藤典博
第51回 (平成8年・広島県)	成男	阿部勝弘	工藤文彰 平野信雄 伊藤 誠 藤村他可夫
	成女	木村 聰	畠山由美子 桜井ゆかり 久慈順子 熊谷礼子
第52回 (平成9年・大阪府)	成男	木村 聰	工藤文彰 小笠原賢 川原重治郎 佐々木和夫
第54回 (平成11年・熊本県)	少女	阿部トミエ	松本梨絵 藤原真奈美
	成男	伊藤 誠	村上 齊 木村 聰 加藤典博 佐々木和夫
	成女	阿部勝弘	小笠原由美子 高橋久美子 林崎淑子 久慈順子
第55回 (平成12年・富山県)	少女	阿部トミエ	藤原真奈美 佐藤明美
	成男	菊池史和	工藤文彰 木村 聰 藤原孝至 佐々木和夫
第57回 (平成14年・高知県)	少男	佐藤和典	岩崎敬人 富谷伸行
	成女	阿部トミエ	小笠原由美子 鈴木ゆかり 佐藤直子 久慈順子
第59回 (平成16年・埼玉県)	成男	菊池史和	岩崎敬人 佐々木博幸 小笠原賢 佐々木和夫
第60回 (平成17年・岡山県)	少男	富谷行雄	宇部 健 小野寺亮太
	成女	阿部勝弘	米澤結香 小笠原由美子 鈴木ゆかり 阿部トミエ
第61回 (平成18年・兵庫県)	成男	根田光朗	岩崎敬人 工藤文彰 木村 聰 藤村他可夫
第63回 (平成20年・大分県)	成男	菊池史和	工藤文彰 高橋宗康 沼田 聰 及川勝幸

国民体育大会入賞選手名簿

入賞選手

第44回 50歳以上 第5位 丸山忠夫 第2部 第8位 佐藤喜三郎

第45回 30歳代 第7位 三浦巳代子 第2部 第8位 後藤秀子

第51回 ユースの部 第8位 工藤文彰

第52回 マスターズの部 第6位 佐々木和夫

第54回 マスターズの部 第2位 久慈順子

第57回 ユースの部 第6位 小笠原由美子 ミドルの部 第7位 鈴木ゆかり

第60回 ミドルの部 第2位 小笠原由美子

第61回 ハイミドルの部 第1位 木村 聰



第42回沖縄国体（1987）前列左から嶋廻敏夫 小笠原勝 伊藤誠
後列左から吉田几生 藤村長三郎 佐々木菊夫（ひめゆりの塔にて）



第42回沖縄国体（1987）
金環日食を観る国体参加選手



第42回沖縄国体（1987）前列伊藤誠
後列左から佐々木菊夫 小笠原勝 佐藤義明 藤村長三郎
吉田几生 嶋廻敏夫



第42回沖縄国体（1987）
左から伊藤誠 佐々木菊夫 小笠原勝
吉田几生 藤村長三郎 佐藤義明



第43回京都国体（1988）
左から吉田几生 工藤文彰 嶋廻克彦



第43回京都国体（1988）
前から伊藤誠、嶋廻克彦、工藤文彰



第43回京都国体（1988）左から吉田几生、工藤文彰、鳴廻克彦



第44回北海道国体（1989）大会々場釧路パレスポウル前にて



第45回福岡国体（1990）入場行進



第44回北海道国体（1989）前列左から吉田几生
菊地 賢 後列左から丸山忠夫 木村 聰 川原重治郎
浅野周三 佐藤喜三郎



第45回福岡国体（1990）
右端 後藤秀子 2部8位



第45回福岡国体（1990）
前列左から三浦巳代子 小笠原ケイ子 久慈順子
後列左から吉田几生 熊谷礼子 後藤秀子 上村優子



第49回愛知国体（1994）激励会での参加記念



第50回福島国体（1995）岩手県選手団



第50回福島国体（1995）入場行進 監督 上野吉朗



第54回熊本国体（1999）久慈順子 50才以上 2位



第55回富山国体（2000）砺波市 出町小学校児童との交流会



第55回富山国体（2000）砺波市 出町小学校児童と岩手県選手団



第57回高知国体 (2002) 小笠原由美子ユースの部6位 (左から3人目)
鈴木ゆかりミドルの部7位 (2人目)



第60回岡山国体 (2005) 前列阿部勝弘 成女監督
後列左から富谷行雄 少男監督 米澤結香 鈴木ゆかり 宇部健
小笠原由美子 阿部トミ工 小野寺亮太



第61回兵庫国体 (2006)
木村聰ハイミドルの部1位



第60回岡山国体 (2005) 大会会場前にて



第61回兵庫国体 (2006) 県選手団を出迎え (花巻空港)
左から吉田几生会長 根田光朗監督 木村聰 工藤文彰
岩崎敬人 藤村他可夫



第63回大分国体 (2008) 成年男子の部
左から工藤文彰 高橋宗康 菊地史和監督 及川勝幸 沼田聰

全国大会入賞選手名簿 (1)

全国都道府県対抗ボウリング競技会 第6回 (昭和52年・東京都)	個人戦	第1位	古館 勇光
全日本選抜ボウリング選手権大会 第15回 (平成1年・東京都) 第17回 (平成3年・東京都)		第6位 第6位	久慈 順子 久慈 順子
日本スポーツマスターズ 第3回 (平成15年・和歌山県) 第5回 (平成17年・富山県)	女子総合 女子選手権者 2人戦	第6位 第6位	久慈 順子 久慈 順子 佐々木山平恵恵恒雄至誠至
第6回 (平成18年・広島県)	2人戦 男子選手権者 2人戦	第7位 第6位	大小林原藤原孝 藤伊藤原孝
全国スポーツレクリエーション祭 第17回 (平成16年・福井県) 第18回 (平成17年・岩手県)	50代 60以上混合2人戦	第8位 第1位	小林恒雄 丸山忠夫子 小笠原ケイ夫 丸山忠清 赤沢和夫 佐々木和夫 小林みち子 丸山忠ケイ子 小笠原トミエ 阿川重治郎 阿川トミエ 吉田美都子 菅原和郎 小林みち子 小吉恒雄 吉田美都子
第20回 (平成19年・青森県)	50代 50代混合2人戦	第2位 第5位	阿部トミエ 川原重治郎 阿部トミエ 吉田美都子 菅原和郎 小林みち子 小吉恒雄
第21回 (平成20年・滋賀県)	60以上 混合4人戦	第4位 第7位	田中美都子 原和郎 林みち子 吉田恒雄 田中美都子
全国中学選手権大会 第27回 (平成15年・東京都)		第5位	小野寺亮太
全日本新人選手権大会 第14回 (昭和63年・東京都) 第16回 (平成2年・広島県)		第3位 第5位	藤原孝至 中村栄治
全日本シニア選手権大会 第29回 (平成8年・福島県) 第30回 (平成9年・福岡県) 第31回 (平成10年・愛知県)	ハイシニアの部 シニアの部 50代2人戦	第6位 第6位 第4位	丸山忠和夫 佐々木瀬和功 広瀬忠子 丸山忠子 久慈順子
第40回 (平成19年・愛知県)	50代 50代個人戦	総合第2位 第1位	久慈順子 久慈順子
第42回 (平成21年・愛知県)	ハイシニアの部	第5位	久慈順子

全国大会入賞選手名簿 (2)

全日本年齢別競技大会

第4回 (昭和63年・東京都)	10代	第5位	武田 亜希子
第5回 (平成1年・愛知県)	10代	第5位	藤文 彰
第6回 (平成2年・広島県)	40代	第2位	原純一
第12回 (平成8年・山形県)	60代	第1位	山忠夫
第14回 (平成10年・福島県)	20代	第3位	丸笠由美子
	40代	第5位	原慈子
第21回 (平成17年・東京都)	50代	第1位	久順子

東日本ボウリング選手権大会

第17回(平成2年・静岡県) 女子2人戦 第6位 久慈順子
久熊谷子

東日本シニアボウリング選手権大会

第6回 (昭和61年・岩手県)	男子選手権者	第1位	丸	山	忠	夫
第13回 (平成5年・福島県)	女子2人戦		熊	谷	礼	子
第15回 (平成7年・北海道)	男子2人戦	第3位	小笠	原	ケイ	子
第18回 (平成10年・東京都)	男子4人戦	第1位	丸山	倉	忠	夫
			大佐	木	和	男
			々		和	夫

第28回（平成20年・宮城県）

女子総合	第4位	久慈
女子2人戦	第2位	慈都
女子4人戦	第5位	吉田

オールジャパンレディストーナメント

第2回 (平成1年・東京都)	レディスの部	第4位	慈	順
第10回 (平成9年・神奈川県)	レディスの部	第8位	慈	順
第13回 (平成12年・神奈川県)	レディスの部	第4位	慈	順
第16回 (平成15年・神奈川県)	ミドルの部	第4位	慈	順
	シニアの部	第3位	橋	絹
第18回 (平成17年・山形県)	ヤングの部	第5位	小笠	由美子
	ミドルの部	第5位	原	子
第19回 (平成18年・京都府)	ミドルの部	第3位	慈平	子
	ミドルの部	第4位	慈	子
第21回 (平成20年・石川県)	ミドルの部	第3位	慈	子
第22回 (平成21年・長崎県)	シニアの部	第2位	慈	子

日本スポーツマスターズ2006

男子藤原孝至、女子沖崇子、大会新で初V

9月15日から4日間、広島市で「日本スポーツマスターズ2006」が開催され、ボウリングは16日から3日間、広島市中区のヒロデンボウルを会場に、男女各30チーム、あわせて240人が出場して行われ、2人チーム戦と4人チーム戦の各6ゲームを競技したあと、個人総合の上位各24人が選手権者決定戦に進出し、新たに6ゲームを投球。男子は岩手の藤原孝至選手が、女子は広島の沖樂子選手が、ともに大会新で初優勝を飾った。競技2日目の17日には高円宮妃殿下がおいでになり、女子4人チーム戦を観戦された。妃殿下はボウリングが大変お好きで、ご説明役の赤木恭平JBC会長ともお会話が弾んでいた。

男子選手権者決定戦表彰

2人チーム戦の男子は三重が上位を独占、2643のB(安藤・梅田)が優勝し、2586のA(中村・中川)が2位についた。福岡A(田中・角屋)が2575をたたいて3位に続き、ここまでが大会新だった。女子は、こちらも三重のA(浜口・柳川)が2378を打って優勝し、2352の新潟B(堀川・黒金)が2位、2299の大坂B(寺村・茶谷)が3位にはいった。

9月16~18日／ヒロデンボウル



▲赤木会長をご聴明役に、高円宮妃殿下がご観覧



女子編年體詩選

たたいた奈良(友廣・田中・山根・田中)が優勝、4891の北海道(三島・斎藤・米澤・田中)が2位、4880の三重が3位に続いた。

女子は、4811を打った広島A(木原・斎藤・平木・沖)が優勝し、4498の岡山(大蔵・長岡・鈴木・坪田)が2位、4494の愛知(板倉・大森・鶴田・城殿)が3位につけて、いずれも大会新を記録した。

選手権者決定戦の男子は、1429を打ち上げた藤原選手が、2位の中村喜代季選手（三重）を127ピン引き離して優勝し、1293の猪野幹夫選手（東京）が3位、1286の松井卓治選手（愛知）が4位、1280の山

1990-1991: The first year of the new century, the first year of the new millennium.

根鉄造選手(奈良)が5位、1278の角屋光義選手(福岡)が6位、1270の飯塚泰友選手(島根)が7位、1261の前田盛淳選手(沖縄)が8位に続いた。

女子は、1335の沖選手が優勝し、1305の木原梨香選手(広島)が2位、1288の鈴木百合子選手(岡山)が3位、1268の新井田富子選手(福島)が4位について、ここまでが大会新をマーク。1189の茱谷晴美選手(大阪)が5位、1181の大槻智惠選手(福島)が6位、1173の柳川穗波

選手(三重)が7位、1156の松原美宜子選手(奈良)が8位にはいった。

THE BOWLING JOURNAL 2006年10月10日発行より



右端 第6位 久慈順子



日本スポーツマスターズ2006（広島） 男子選手権者 藤原孝至（中央）



第18回東日本シニア競技大会（1998東京）男子4人戦1位
左から 藤村他可夫 丸山忠夫 川原重治郎 佐々木和夫



全国大会初優勝 古館勇光



第21回オールジャパンレディストーナメント（2008石川）
ミドルの部3位久慈順子（左から2人目）



第19回オールジャパンレディストーナメント（2006京都）
舞妓さんを囲んで県代表選手



第19回オールジャパンレディストーナメント（2006京都）ミドルの部3位大平洋子
（左から2人目） 同4位久慈順子（左から3人目）



第18回オールジャパンレディストーナメント（2005山形）
ヤングの部5位小笠原由美子 ミドルの部5位久慈順子



スコレクしが2008混合4人戦7位
左から小林みち子 菅原和郎 小林恒雄 吉田美都子



スコレクしが2008右端全日本ナショナルチームキャプテン
片井文乃選手



スコレクあおもり 2007
50代2位 阿部トミエ



スコレクあおもり 2007 50代混合2人戦5位
左から5人目阿部トミエ・川原重治郎



日本スポーツマスターズ2005（富山）
女子選手権者 久慈順子



日本スポーツマスターズ2006（広島）
2人戦6位右から3人目伊藤誠 藤原孝至

「スポレクいわて2005」盛岡市会場では壮年ボウリングと年齢別デニスが開催される。壮年ボウリングに出場する同市西青山三丁目の主婦小林みち子さん(55)は国内外、韓国選手との再会が楽しみ」と開幕を心待ちにし、試合会場のボウリング場で最終調整に余念がない。

壮年ボウリングは五十歳以上の選手が対象。韓国の二チーム、十三人を含む五十四チーム、二百三十二人が出場。本県からは三チーム、十三人が臨む。

小林さんは競技ボウリ

ング歴約七年で、ハイゲームは一昨年九月、県ボウリング連盟会長杯で記録した279点。

高校時代は器械体操でインターハイに出場。バレーボール、スキーなどのスポーツ経験も豊富だ。

ボウリング競技には夫婦そろって取り組む。夫の会社員恒雄さん(59)は昨年の福井スポレク祭で全国八位入賞した。規約で前年入賞者は出場できず、今回は記録係としていた。

五月には韓国の生涯スポーツ祭典「全国国民生活体育大祝典」に出席し、熱戦を繰り広げ、夫とのチームで五位入賞した。

小林さんは開始式で選手宣誓にあたる「交流宣言」を行う。せりふもしつかり考えた。「ノーミスを目指し、まずは入賞

が目標だ」と意気込む。会場は一面にのぼりが左ひざ半月板を損傷し手術を受けた。けがを乗り越えての出場。「老若男女問わず誰でも気軽に楽しめ、生涯スポーツに最適だ」とボウリングの魅

力を語る。

良くなアレーしてもらいたい」と手厚く恩返ししたいと目を輝かせる。

県代表選手はさんざや石割桜のイラストが入ったユニホームを着て出場する。「大いに地元をPRしたい。スポレクは大会ではなく『祭』。一番の目的は交流だ」とさらに友好を深める。

小林さんは開始式で選

手宣誓にあたる「交流宣

言」を行う。せりふもし

つかり考えた。「ノーミ

スを目指し、まずは入賞

が目標だ」と意気込む。

会場は一面にのぼりが

掲げられ歓迎ムード一

ヨンも絶好で、あとは開

幕を待つばかりだ。

(スポレク取材班)

スポレクいわて

「交流が一番の目的だけど、勝敗にもこだわりたい」と地元開催に張り切る小林みち子さん

広がれ 交流の輪



熱い歓迎で恩返し

韓国選手との再会

「交流が一番の目的だけど、勝敗にもこだわりたい」と地元開催に張り切る小林みち子さん



スポレクいわて2005会場ピックハウス・スーパー・レーン



スポレクいわて2005（盛岡）
前列左からJBC会長赤木恭平 盛岡市長谷藤裕明
後列左からJBC専務理事 相澤隆也 吉田几生会長

スポレクいわて2005
60以上混合2人戦 1位丸山忠夫・小笠原ケイ子



スポレクふくい2004
左から阿部勝弘、小林恒雄・吉田千代子・小林みち子



日本スポーツマスターズ2008滋賀
森 喜朗日体協会長を囲んで左から及川弘代 小林みち子
吉田美都子 大平洋子

2008.09.19

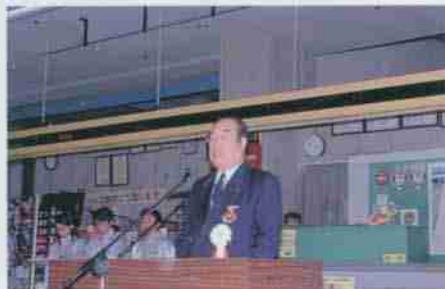


壮年ボウリング (都道府県代表参加種目)

●期日／10月2日(日)～4日(火)

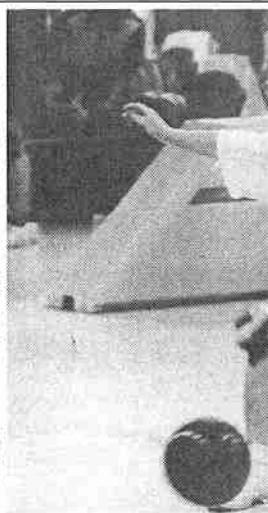
●会場／ビッグハウススーパーレーン

50歳代、60歳以上の男女それぞれ1名による混合チームによる4人チーム戦と年代別の2人チーム戦、男女別年代別による個人戦で白熱したゲームが続きました。ストライクが出るたびに歓声がこだまし、各県、韓国選手との交流を深めました。



(財)全日本ボウリング協会会長赤木恭平

岩手
赤沢清・小林みち子
混合2人チーム
後半3ゲームが
1ムが腕を競つ
先月25日に閉幕
博のマスクコット
リブー、キッコ
が出席した。
岩手
岩手県
神谷保広さん
(64)夫妻、30
ランの保広さん
と思っていたが、
ひやくなっ
ビンを弾いた。
うと高得点を重
連続ストライク
3点で締めぐく
ムで25590点
以上男子の個人



JX

と感謝した。
まじょう」「あ
会場のあちこ
町民が固い握手
み再会を誓つ

スポレクいわて2005

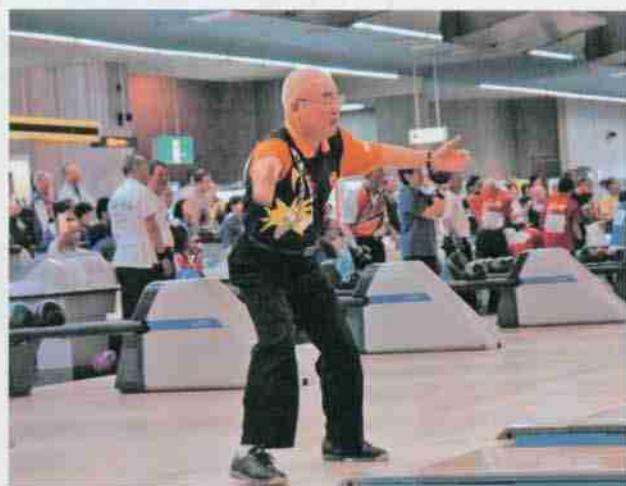
出身という縁も
大きかった。もつ

と東北弁が強いかと思ってい
たが、自分たちの三河弁の方
が強いみたい」と愛知パワ
ーを見せつけた。

▼県勢、4部門で入賞
本
県選手は71歳コンビの丸山忠
夫さん、小笠原ケイ子さんの
不來方の星が男女混合2人チ
ーム戦の60歳以上で優勝した
のをはじめ、個人を含む4部
門で入賞を果たした。県連盟
の吉田几生会長も「地の利も
あつたが、素晴らしい活躍だ。
高齢者といっても元気で、以
前の体力を維持している」と

声を弾ませた。
県外選手との交流の場面も
多かった。石割桜の吉田千代
子さん(67)は「指を痛めてコ
ンディショニングは悪かったが、
同じグループの選手が褒め上
手でどうにか投げ切れた」と

投げ慣れたレーンで健闘する
本県選手



韓国選手団と前列中央吉田几生会長 後列右端阿部トミ工常任理事 4人目阿部勝弘副理事長



全国ファミリーピックいわて大会（1994）



山形県代表秋葉チームと佐賀県代表嘉村チームのみなさん

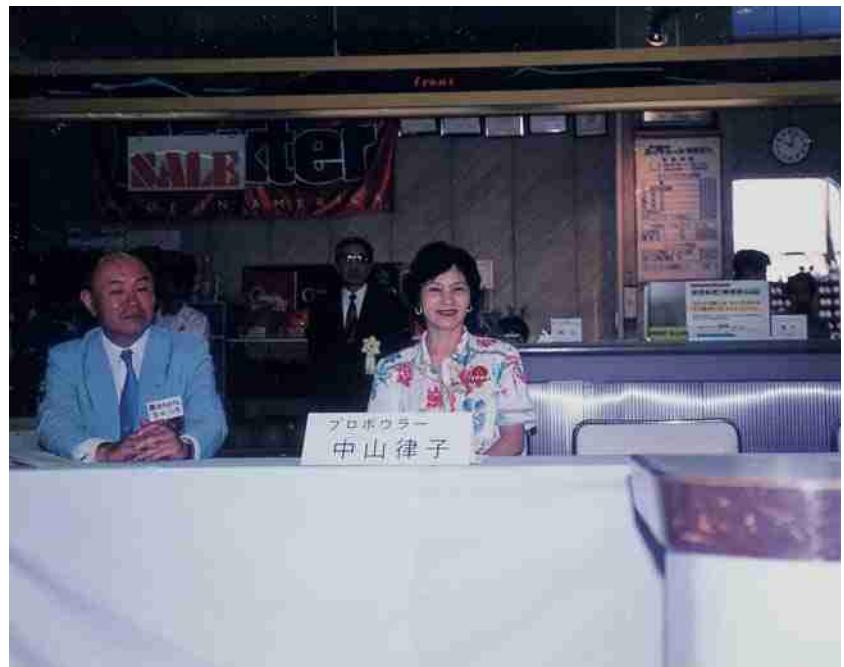


秋葉麻衣子ちゃんの嬉しそうな顔

←秋葉卓也君 3位入賞



チャグチャグ馬コをバックに秋葉幸仁さん・麻衣子ちゃん



吉田几生大会委員長と中山律子プロ



県民体育大会初参加（1985）・吉田几生理事長



県民体育大会の開始式・大会旗入場



ねんりんピック'91いわてゲスト須田開代子プロ 並木恵美子プロを囲んで



中山律子プロと吉田几生会長



全国ファミリンピック岩手大会（1994）
中山プロによるボウリング教室
左から2人目富谷昌行君・3人目伸行君兄弟（岩手県）



日本代表として国際大会に参加

国際大会入賞者名簿

昭和58年 (1983) 第19回AMFワールドカップメキシコ大会 (メキシコ)

第24位 久慈順子

平成3年 (1991) 第8回FIQ極東ボウリング選手権大会 (韓国)

3人戦	第2位	久慈順子
5人戦	第1位	久慈順子
マスターズ戦	第2位	久慈順子

平成15年 (2003) 第7回アジアシニアボウリング選手権大会 (グアム)

マスターズ戦 第2位 久慈順子

平成17年 (2005) 第9回日韓交流ボウリング大会 (韓国)

2人戦	第2位	久慈順子
2人戦	第5位	藤村他可夫
2人戦	第5位	小林恒雄
		小林みち子

平成17年 (2005) 第8回アジアシニアボウリング選手権大会 (台湾)

2人戦	第1位	久慈順子
4人戦	第2位	久慈順子

平成19年 (2007) 第9回アジアシニアボウリング選手権大会 (日本)

個人戦	第3位	久慈順子
4人戦	第2位	久慈順子
オールイベント	第2位	久慈順子
マスターズ戦	第1位	久慈順子



日韓交流大会 久慈順子



第8回アジアシニア競技大会上段左 久慈順子



国際大会の思い出

元ナショナルチームメンバー

常任理事 久慈順子

ボウリングを始めて、37年目になります。

遠征をする事が楽しくなり大会予選会の都度、参加するようになりました。

昭和48年、沖縄で開催された全日本選抜選手権大会に参加、飛行機に乗るのが初めての体験でした。沖縄返還直後の開催で、車は右側通行、タクシー料金は初乗り50円の時代でした。

昭和58年、愛知県で開催されたAMFワールドカップ全国決勝大会で優勝し、メキシコ大会の切符を手に入れました。その頃のレーンコンディションはベターレーン、メキシコのレーンはまさにベットリ油が撒いてあり私のボールでは手も足も出ませんでした。

海外遠征での良い経験をさせて頂きましたが、42ヶ国参加で24位でした。

平成元年には、ナショナルチーム選考会に参加し、40才でメンバーに選んで頂きました。

チームメンバーとして初の海外遠征は、インドネシアでした。帰途、翌年世界選手権大会が開催されるシンガポールの会場に立寄って、男女のミックスダブルス競技を行い、志野選手と組んで優勝した事が思い出されます。

平成3年、第8回FIQ極東ボウリング選手権大会（韓国）に参加、上位3名によるステップラダー・テレビ決勝が有りました。3人チーム戦準優勝、5人チーム戦優勝、マスターズ戦は2位で通過し、優勝決定戦で2ピン差で惜しくも優勝を逃しました。

平成11年、国民体育大会（熊本大会）でマスターズ部門準優勝、平成15年にはアジアシニア大会（グアム）で、11月というのに暑く、朝からのボール検量も手際が悪く、1個の検量に10分も費す始末でしたが、公開練習ではまずまずのレーンコンディション。手ごたえが有りました。ダブルス戦は当日最初のシフトに当たり、湿気の為、アプローチが滑りません。歩く様にして投球していたなら空調が効いてきて、なんとかいつものフォームで投球出来るようになりました。当たり前ですが、初めての競技場では慣れるまでに苦労します。

シフトの合間に買物に出かけた時、ホテルの前の道路が工事中。段差につまずき転倒し、けがをしてしまいました。直後の決勝でしたが、むしろ力の配分が良かったのかどうか準優勝でした。

平成17年、日本スポーツマスターズ決勝戦は、私の得意のコース。7枚目から10枚目の真っ直ぐの巾広いストライクゾーンで、仲間の力強い応援を受けながら、優勝することが出来ました。

平成17年、第8回アジアシニア選手権大会（台湾）。レーンコンディションは早めのフッキングの少ないレーンでした。ダブルスの相手は広島の竹本選手で、球質は私とほぼ同じ。2人でガンガン投げる事が出来、優勝でした。

台湾のボウリング場は郊外にあり、中にはカウンターバーがあって、カップラーメンやお菓子が置いてあるだけ。外に屋台が有って、汁物や食べ物が並んでいました。一緒に行った仲間が、ホテルでご飯を炊き、おにぎりを作ってくれました。その美味しかったこと。

平成18年、JBC会長杯、第20回全日本年齢別50才代は、最後の年に優勝できました。

大会では次に自分が投球するレーンに同じ球質の人がいて、ラインを作ってくれていたので、人が投げているのを漠然と見てないでしっかり見る事だと思います。

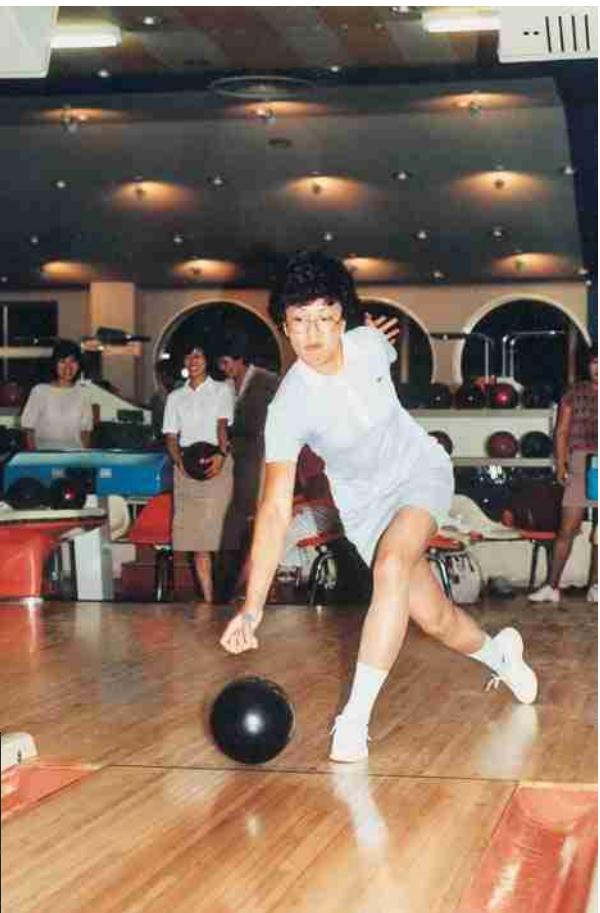
近年の国際大会は平成19年、第9回アジアシニア選手権大会（三重）です。

鈴鹿サーキット場に併設されているボウリング場で、廻りにはホテル、結婚式場、遊園地が有りました。大会前日、下見に行き、2ゲーム投げて見たら持って行ったボールがどれも合わないようでした。当日のコンディションに期待して帰る事に。やはり、レーンコンディションは、良くなっていました。

決勝戦に入り、1ゲーム移動で移ったレーンのコースを、ダブルスの相手である広島の竹本選手がその都度コース選択をしてくれて助かりました。チームメイトはライバルでもありますが、出会いがお互いの向上につながります。



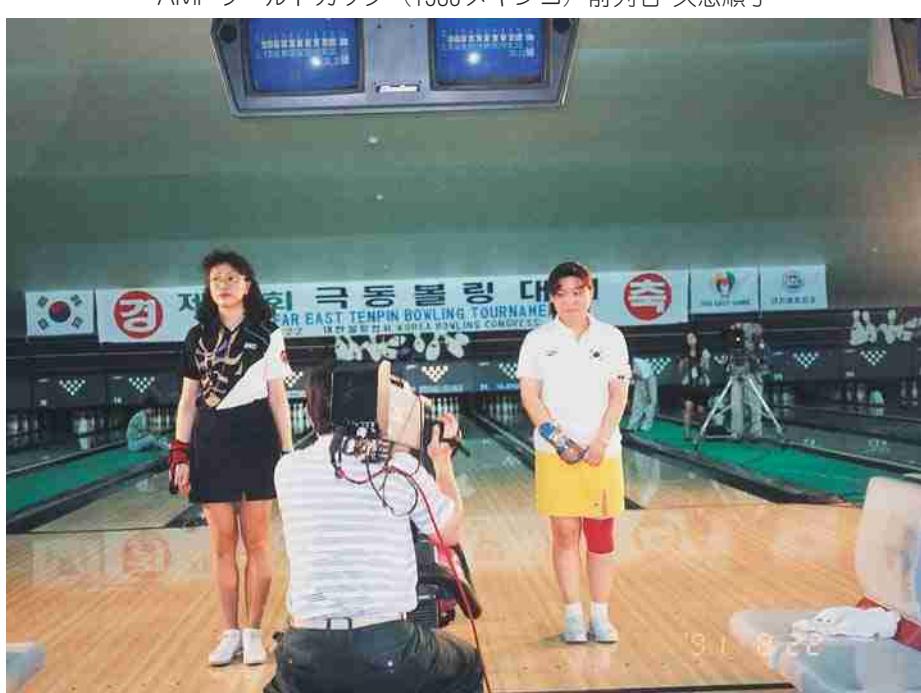
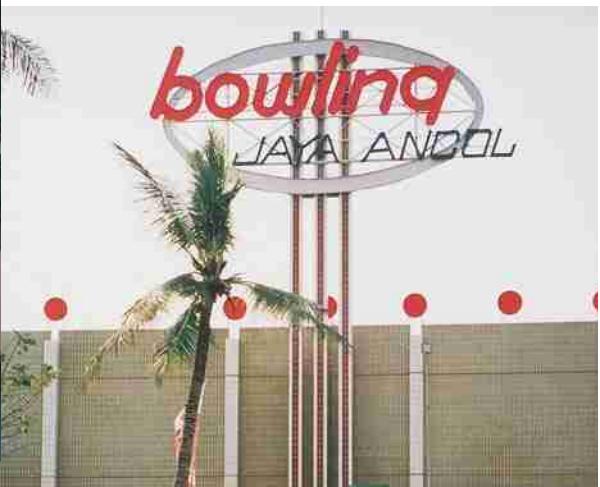
AMFワールドカップ（1983メキシコ）久慈順子



AMFワールドカップ（1983メキシコ）久慈順子



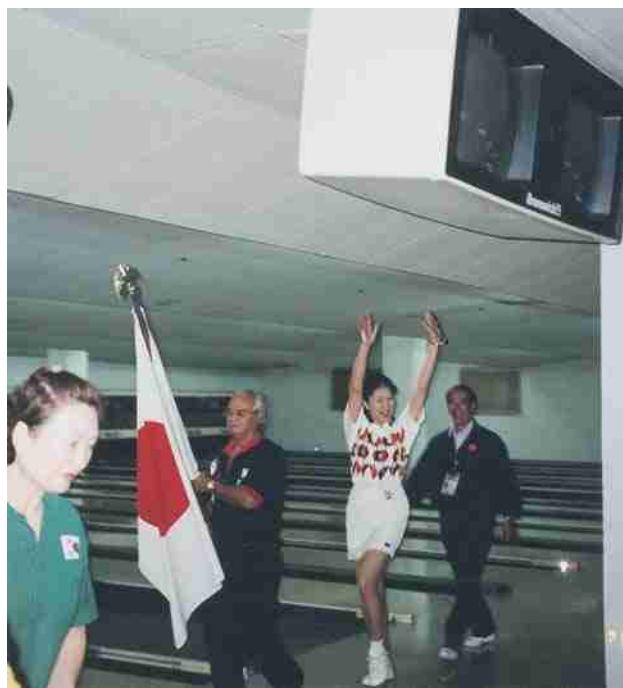
AMFワールドカップ（1983メキシコ）前列右 久慈順子



第8回FIQ極東大会（1991韓国）左 久慈順子



第11回FIQアジア競技大会（インドネシア）のボウリング場



第7回アジアシニア競技大会（2003グアム）久慈順子



第11回FIQアジア競技大会（1990インドネシア）右端後 久慈順子



第8回アジアシニア競技大会（2005台湾）久慈順子



第9回アジアシニア競技大会（2007日本）中央 久慈順子



日韓交流大会（2005韓国）開会式



日韓交流大会（2005韓国）ボウリング競技岩手県選手団



ボウリングをこよなく愛して





滝沢支部創設 ～競技力の向上と会員拡大をめざして～

滝沢支部

常任理事 沼 田 聰

滝沢支部は滝沢村ボウリング協会の創立と同時に立ち上げ、平成16年に東和支部とともに岩手県ボウリング連盟の支部として活動を開始しました。

滝沢村体育協会では県民体育大会が最大の目標となっていましたが、ボウリング競技については大変厳しく、支部立ち上げ前の18回大会中、ポイントを上げられたのが11回、最高成績3位というのは、ほとんどの競技で優勝争いをしていた滝沢村にとっては得点源としてあまり期待できない競技という状況だったのです。競技力の向上のためには、県大会への参加による経験と、その経験に基づいた技術力の向上が欠かせません。県民体育大会が終わるたびに、ボウリング協会設立の必要性が話題になるものの、具体的に話し合う機会はありませんでした、そのような中、村体協からの後押しもあり平成16年に柳村正実現会長の呼びかけにより、ボウリングをこよなく愛する会員33名を集めて滝沢村ボウリング協会の設立にこぎつけました。滝沢支部は、滝沢村ボウリング協会の中で、競技力の向上をめざす22名で発足しました。

滝沢支部を発足した年に行われた第56回岩手県民体育大会では、町村対抗で念願の初優勝をすることができました。メンバー自身も想像していない、まさかまさかの優勝でした。昨年もわずか



県民体育大会 優勝 滝沢村チーム (2005)

1ピン差ながら連覇を果たし、市町村対抗がなくなった第59回大会では全市町村チームを退け優勝をとげ、協会設立に間違いが無かったことを確信しました。県大会への常時参加することによる経験と競技力の向上が着実に成果として表れたと思います。

滝沢支部はメンバー全員の結束が固く、いわゆるチーム力が大きく成長したと思っています。しかし、大きな成果を残すことはできましたが、決して個々の力が県内トップレベルになったわけではありません。優勝もありますが、下位に

低迷した大会もありました。確かに大きく成長した選手もいますが、仕事上の問題から県外に転出していくメンバーもあり、競技力の向上もさることながら会員を増やし厚みをもたせていくことが求められます。今後は岩手国体を見据えて、会員増強を図りながら一層の競技力とチーム力の向上をめざしていきたいと思っています。



スポーツ少年団活動に携わって

(財)日本体育協会公認ボウリング指導員

J B C公認第一種審判員

副会長 上野吉朗

思い起こしますと、私のスポーツ少年団との関わりは昭和60年末に盛岡にボウリングのスポーツ少年団を結成するので手伝ってくれるように依頼されたのが始まりでした。

当時たまの休日にボウリング場に通っており、自由時間も有りましたので軽い気持ちで引き受けたのが再び自分でもボウリングを競技として始めるきっかけになりました。

最初の1年目は登録人数が10名以上でなければ入団できないと云われ正式加盟出来ずに団活動を始めました。昭和61年、私の息子が小学5年生でした。

月に2回、日曜日に光フェアーレーン（現盛岡スターーレーン）とビッグハウススーパーレーンで交互に練習会を開催し現在に至っております。

正式な入団は昭和62年度です。ボウリングを楽しんでいる少年少女に積極的に働きかけボウリングスポーツ少年団が誕生しました。

その時のメンバーは後に県代表として活躍する工藤文彰、阿部弘樹選手がいます。指導員をお願いしたのは黒沢吏前理事長、赤沢清さん、菅原純一さん、藤原弘夫・妙子さんご夫妻、藤村長三郎さん、佐々木盛徳さん、小笠原ケイ子さんです。

平成元年には菅原、赤沢指導員、そして新たに加わった今野カナ子さんが中心となって指導しました。

平成5年には加藤典博前副理事長、根田光朗副理事長が加わりました。団員数が29名を数え練習会も盛況となりいろいろ苦労もありました。

平成7年には富谷伸行、昌行、頼行3兄弟、藤原真奈美選手が団員として参加。

平成9年には富谷現副理事長、坂本敬子さんも指導員として参加しております。

平成10年岩崎敬人選手、山崎剛志選手、平成11年小野寺亮太選手、平成13年宇部健選手と良い選手に恵まれました。

平成7年には福島国体に監督として大橋学、菅原崇史選手を率いて参加。初めての全日本高等学校対抗戦に盛岡一高の菅原崇史、村井雄司選手が参加し、その後岩崎敬人、富谷伸行、藤原真奈美、小野寺亮太選手も国体に参加しております

小野寺選手は平成15年度の全日本中学選手権で5位入賞、宇部健選手は県選手権で高校生初のチャンピオンに輝いております

現在の団員は少子化の影響なのか数が少なくなっていますが、7年後の岩手国体に向けてジュニア育成強化に改めて努力してまいりたいと思っております。

現在の指導員は小野寺功さん、小林みち子理事、富谷行雄副理事長と私の4人体制で毎月2回休まず続けております。

スポーツ少年団は私の原点です。元気な子供達が参加する限りは続けたいと思っております。そして全国レベルの選手を再び送り出すのが私の夢です。

これまでスポーツ少年団活動をご理解ご協力をいただいている岩手県ボウリング連盟、盛岡市ボウリング協会、会員の皆様にお礼を申し上げます。



スポーツ少年団から国体選手 そして指導者を目指して

JBC公認審判員

盛岡支部スターレーンクラブ

小野寺 亮 太

11年前（1998）の5月初旬、私の自宅に盛岡スターレーンの1ゲーム無料券が入っていたことで、家族でいってみるかということになりました。そしてスターレーンに行くと、毎月第4土曜日に開催されているジュニア大会があることを知り、どういうわけか私が参加したいと言ったそうです。よほどその時のスコアが良くなかったのでしょうか。そして5月度のジュニア大会に参加しましたが、結果は当然最下位でした。そこで相当悔しかったのか参加賞が嬉しかったのか来月も参加したいということを両親に言ったそうです。このようにして毎月ジュニア大会に参加していきました。

そして10年前（1999）の冬、時的小渕恵三内閣の政策により子供と高齢者に地方振興券が配布されました。その頃は私は相変わらず毎月のジュニア大会に参加していましたが、ずっとハウスボールで投げていたためマイボールに憧れています。ちょうどその時に地方振興券の支給だったため、私の2万円の使い道はマイボール・マイシューズ・マイバックの3点セット購入でした。

マイボールの購入の年に私のボウリング競技人生のターニングポイントがあったと言っても過言ではない出来事がありました。それは10年前の7月、私が小学4年の時に盛岡スターレーンの佐藤淳氏の勧めで上野副会長が代表の盛岡ボウリングスポーツ少年団に加入することになったのです。そこで今までの自己流のボウリングではなく初めて基礎を習い、またお下がりで曲がるボールを頂くなど、一気に自分の中でボウリング熱が上がっていくのが自分でも感じ取れるほどでした。

私に初めての県外試合のチャンスが廻ってきました。小学5年の秋に宮城県のティサンボウル泉で開催される、東北ジュニア交流競技会の小学生の部に出席することになったのです。1ゲーム目は緊張のしっ放し147のロースコア、しかし2ゲーム目には200アップするなど3ゲーム504点のスコアで優勝しました。この時賞状が無く、私もいつか中高の選手みたいに賞状を手にしたいなと思って岩手に帰って来たことを今でも鮮明に覚えております。

そして中学生になりJBCに入会し、中学1年の8月に山形ファミリーボウルでの第1回東北中学高校選手権大会に参加し、1351点で優勝、次の年には品川プリンスホテルボウリングセンターでの全日本中学選手権大会に出場しました。いきなり279点のハイゲーム賞となる点数が出るとその後も調子が持続し、最終的に5位入賞を果たすことが出来ました。私は初めての全国大会の舞台で様々なボウリングを見ました。周りの選手たちは左側から大きく曲げるボウリングばかりで、自分のようなストレート系のボウリングと言うのは上位では見かけませんでした。実際6人の入賞のうち私以外の選手はみな曲げるタイプのボウラーでした。私も一時期曲げた方がよいのかと悩み、曲げようとした時期もありましたし、曲げることを勧める方もいらっしゃいました。しかし私は『曲げて10番ピンが残り、スプリットも出る。だったら無理して曲げる必要は無いはず』と自分に言い聞かせ、自分のボウリングを貫くことを決意しました。

その後はビックハウススーパーレーンで開催された東北中学選手権で2度目の優勝、高校1年時には東北総体で個人戦・団体戦の両方で2位入賞国体に出場することができました。また吉田会長のご推薦により全日本ジュニア強化指定選手に3度も選んで頂き、東京での合宿にも3度参加させて頂きました。この場をお借りして会長に御礼を申し上げたいと思います。貴重な経験をさせて頂きました。

現在私は3種の公認審判員の資格を取り、大学では日本体育協会のコーチ資格に必要な共通科目の勉強など、選手としてだけではなく大会運営や監督としてボウリングに携われるよう勉強しております。特に私は後輩選手の育成に興味を持っていて、大学では他のスポーツ選手と一緒に指導法などの講義も受けております。全日本ジュニア強化合宿に3度も参加させて頂き、ナショナルチームの方や指導員の方々と人一倍接する機会があったため、様々なことを指導頂きました。このことを何らかの形で活用させたいと考えています。

今後は選手として7年後の岩手国体での優勝、そして各種全国大会で入賞できるように、また全国に通用するような後輩選手の育成にも挑戦するなどボウリングの指導者を見据えて活動を続けます。



ジュニアの育成とその技能・ 技術の向上について

(財)日本体育協会公認ボウリング指導員

JBC第一種公認審判員

副理事長 富 谷 行 雄

ここ10年間少年男子の部において国民体育大会に出場したのは2002年高知大会（岩崎敬人選手と富谷伸行選手）と2005年岡山大会（宇部健選手と小野寺亮太選手）の2回だけです。

上に名前の挙がった4名はすべて盛岡市スポーツ少年団の所属でした。盛岡市スポーツ少年団は月2回の練習会を実施していますが、それだけではなかなか向上は望めません。個々人の取り組みと家族の協力が大きなウエイトを占めているのが現状です。

岩手県全体としてジュニアを育成する必要を感じていますが、その前提としてジュニア会員を増やすことからはじめなければなりません。現在、盛岡市ボウリングスポーツ少年団のような組織があるのは県内で盛岡市だけです。そのため、小学生（またはそれ以前）からボウリングに親しませ、指導によってある程度の技術が身に付く人数は限られており、家庭の力に頼るしかない状態です。また、せっかく小学生でボウリングをやってきても中学校にはボウリング部がないために他の競技に流れてしまいがちです。盛岡市ボウリングスポーツ少年団は小学生から高校生まで組織されていますが、中学生や高校生は毎回参加できないのが現状です。現在できることは、盛岡市ボウリングスポーツ少年団に入団している小学生にボウリングの楽しさ（アベレージを上げることなど）や大会に出場できる機会を増やすことなどを通して、中学・高校でも続けられるようにすることと、参加したときには特性を見極めてその人にあった指導を続け、技能・技術の向上を図ることなどが考えられます。

こうした中でうれしいニュースがありました。盛岡スコーレ高校にボウリング部ができたことです。

学校、指導・監督にあたる教職員、ボウリングを愛する盛岡スコーレ高校の生徒の努力の賜物とスーパーレーンクラブや矢巾支部のサポートがあったればこそできたものと思われます。盛岡スコーレ高校は、県内の県連主催の大会・競技会に出場すると共に、大会の補助員としての活動も光ります。県連としても大切にしなければならない存在の一つです。今後は、盛岡スコーレ高校以外の高校にボウリング部をつくる働きかけも考えなければなりません。ジュニア育成は課題がいっぱいありますが、一つ一つ前進するのみです。

さて、一方でジュニアの「技能・技術」の向上を図らなければなりません。

一般にスポーツや運動技能の指導は、指導者の「示範」→「練習」の反省という過程をとります。これは指導しようとする内容を、指導者の動作によって知覚させ、それを模擬させ、反復練習するという方法です。しかし、選手の自主性や意欲の向上を重視すれば、ただ機械的に模擬させることだけではなく、内容をよく認識させるためにも、「考えること=思考」を過程の中に入れなければなりません。すなわち、「知覚→思考→練習」という過程をとることが大切です。「知覚」は、指導者の示範や他の人の動きを見たり、スライド、ビデオなどを見たり、自分で実際にやってみることによって、動きや技術を認識されることです。「思考」は、選手に考えさせることで、選手同士の話し合い、指導者の助言などによって、技術の要因や個人の問題解決の方向性などを理解させるなどです。「練習」では、常に自分の動き、プレイが正しいかどうかを反省したり、互いに教えあい、修正し合うことによって正しい動きができるよう努力されることです。このようなことをボウリングの中にも取り入れて活動していくけば「技能・技術」の向上にもつながるものと考えられます。2009年7月5日(日)に4年振りに少年男子が新潟国体の出場権を獲得しました。いまからここから・・・・。



盛岡スコーレ高等学校ボウリング部

盛岡スコーレ高等学校

ボウリング部顧問 猿川温久

平成15年3月下旬。新入生に全国大会に参加経験のあるボウリングの上手な生徒が入学していくので、その担当をするようにという話を学校側から受けた。これが私のボウリング部顧問としてのスタートであった。青森県で行われた東北中高選手権、東北総体に引率するも右も左も分からぬ状況だった。

翌年さらに同じように力を持った生徒が入学。生徒たちの希望があり、また岩手県ボウリング連盟の阿部副理事長ご夫妻やビッグハウス・スーパーレーン・インストラクターのサポートを頂いて定期的に同好会として活動することとなった。しかしこの時は基本的に土曜日の投げ込み以外の活動は行ってはいなかった。

その後、一緒に活動を行いたい生徒が増えてくるにつれ、「部」に昇格するよう定期的な活動が必要となった。月予定の作成、活動、部日誌の作成・記入を行うなどして少しでも部活動らしい活動を行った。

生徒が入学して3年目の平成17年。当時2年生の宇部君が盛岡北高校1年の小野寺君と一緒に東北総体少年男子団体戦に参加。息のあった試合運びを見せ、見事国体出場を決めたときは非常な感動であった。またこの年、全国高等学校選手権大会の紹介を受け、初めて参加させていただいた。



部活動練習前の挨拶

これらの活動が認められ、平成18年について同好会から部へ昇格を果たすことができた。この年初めて女子部員が入部。総勢8名のにぎやかな活動となった。この頃から全国高等学校選手権に参加し、少しでも良い結果を残すために平日に学校でのトレーニングを開始した。この年、岩手県選手権で宇部君が高校生初のチャンピオンになった。全国高等学校選手権には男子のみならず女子も初めて参加させていただいた。

翌年この女子が頑張り、東北高校選手権で決勝進出を果たすとともに全国高等学校選手権で10位という成績を残した。

活動の一環として様々な大会の補助員の仕事を仰せつかり、日ごろのサポートに対する感謝の気持ちで活動させていただいたところ、岩手県ボウリング連盟より感謝状を頂いたのが平成20年であった。

学校に練習施設が無い唯一の部活動であるボウリング部。活動の仕方にはまだまだ工夫が必要ではあるが、岩手県ボウリング連盟をはじめ関係方面からのサポートを頂きながら、ますますの活動の発展を目指して取り組んで行きたい。



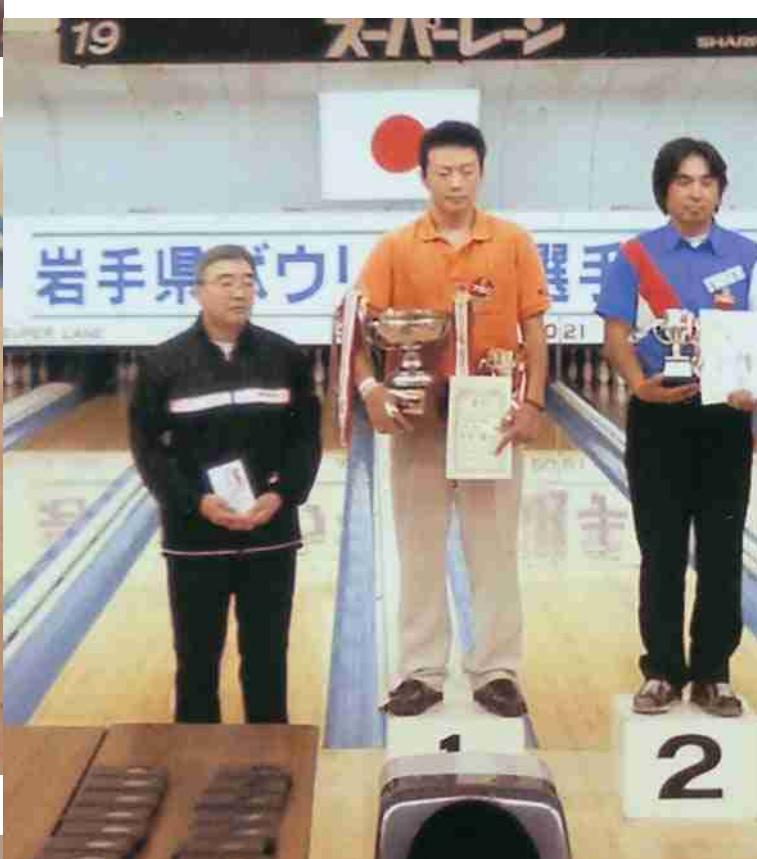
団員を指導する、小林みち子スポーツ少年団認定員



将来の県代表国体選手（？）



指導する小林みち子認定員



高校生岩手県選手権者（2006） 宇部健



盛岡スコーレ高校のチームメイト



全国高校対抗選手権大会の開会式



岩手県予防医学協会ボウリング部の活動

財団法人岩手県予防医学協会

ボウリング部 鈴木和彦

岩手県ボウリング連盟設立40周年おめでとうございます。また、県連役員、関係各位の皆様の永きにわたる運営に対し、実業団会員一同より感謝を申しあげます。

岩手県予防医学協会が実業団会員に登録し20数年になります。それ以前から、協会内でボウリングの好きな仲間達が集まりボウリング同好会として活動しておりましたが、昭和61年にJBC登録会員が5名となったのを機に、翌年の昭和62年より実業団への会員登録変更をしました。

岩手県予防医学協会は県民の健康と福祉に寄与することを目的として設立された県知事認可の公益法人です。具体的な業務内容は、健診班というチームを作り『あおぎり号』という検診車で県内各地を廻り、児童・生徒の各種検査や健康診断、地域住民の健康診断、職場の健康診断、一日人間ドックなどを実施しております。部員が協会の仕事で携わっている職種は様々ですが、職場の一員としての目標達成のためにチームワークをもってそれぞれの業務に従事しております。

実業団会員は「同一の法人または官公庁、団体の役員および社員、職員で構成された5名以上のメンバー」と規定されており、県連盟・地区連合・全日本協会が主催する多くの大会がありますが、



実業団の大会はすべてチーム戦です。ボウリングにおけるチーム戦のスコアは、メンバー個人個人のスコアの積み上げで、ある程度の計算は出来ますが、時として普段以上のスコアを揃って出すことがあります。いわゆる同じ釜の飯を食い、苦楽を共にしている職場の仲間同士のチームワークによるプラスアルファーであると思います。それがチーム戦の楽しさでもあります。

ここ数年、当協会のボウリング部には多くの若い部員達が増えております。彼らはボウリングが大好きで、不規則な勤務体系であるにもかかわらず、時間を見つけては仲間と誘い合って日々の練習に一生懸命励んでおります。また、練習する機会が少ない仲間にボウリングをする機会を増やすため、月1度の部月例会や、納会ボウリング大会、年度チャンピオン決定戦など、様々なイベントを企画し、実施することが定着しております。そして、すべてスコアを記録してアベレージ表をつくり部員同士での競い合いも行われております。まだまだ、スコア面では頑張らなければならないことが多いですが、ボウリングを通じて多くのことを感じてもらえればと思っております。そして、それが仕事面でも生かされれば、実業団ボウリングの活動も意義があるものと周りの人達に認めてもらうことが出来ることでしょう。

ボウリングは生涯スポーツといわれております。今後も、皆で楽しく実業団ボウリング活動を進めて行きたいと思っております。そして東北の選手権チームとなり、全日本の大会でも入賞できるようなチームとなることを目標として活動していきたいと思っております。



選手強化とコミュニケーション

(財)日本体育協会公認ボウリング指導員・コーチ
J B C 第二種公認審判員

常任理事 菊池史和

岩手県連盟に入会し16年が経過しました。

第21回全日本新人選手権大会（平成7年岡山県）の出場権を得て出発準備の始まる頃、阪神大震災が発生し交通手段が限定され断念しようかと迷いましたが諦めず出場しました。前半入賞ラインに達していたのですが後半大崩し、同じボックスの方々に慰められながら予選を終了しました。そして、その悔しさを忘れられず本格的に競技に取り組み始めました。

’97AMFワールドカップ全国決勝大会（京都府）に阿部トミエ選手と出場し、私は全くふるいませんでしたが阿部選手は準決勝ラウンドロピンにトップで進みラスト2ゲームまでトップを走り決勝ステップラダーに残りました。結果は第3位でエジプト・カイロ大会の切符を手に入れることができませんでした。

その後、阿部選手に指導者としての進路を勧められましたが、プレーヤーとしての悔しさを忘れられず二足の草鞋でボウリングにお世話になって現在に至っております。

私は、思い迷い悩んでいる時期にボウリングの先輩方に立ち直らせていただいたので、恩返しのつもりで審判資格を取得し、役員・審判員として微力ながら県連運営に携わってまいりました。

この間3度の国体監督として貴重な経験をさせて頂き感謝いたしております。国体の監督資格制度変更にともない日本体育協会公認スポーツ指導員の資格を取得した現在、岩手県ではただ1人の公認ボウリングコーチです。（東北地区7名）

指導員の主な役割は、競技者としてのボウラーの底辺拡大に努めることであり、コーチの役割は、指導員が目覚めさせた選手を全国・国際大会に出場させることです。

近年、少子化や若者の身体への負荷を伴うスポーツの敬遠等で各競技団体は会員獲得の競争が激化しております。今ボウリングが社会に求められる競技団体になるためには、「多くの人々に望まれる人格形成を目指し、誰とでも会話の出来る社会的協調性を高め、正しく勝とうとする努力と競争ができる」会員組織をめざさなければならないと思います。このような会員組織を形成するには、「公的資格を持ち、新しい知識を選手に伝え、選手を理解しようとする者」が指導に当たるべきだと考えています。企業スポーツに支えられて来た日本の競技団体も、勝つだけのコマーシャル的貢献だけでは企業の利益に合わなくなり、その結果多くの企業が撤退した事は皆様ご承知の事と思います。

私は勝利主義だけで選手育成することには反対で、必ず人間育成を併行させる事が第一だと考えています。ボウリングの場合はJ B C審判員制度を利用しながらの選手育成が最も良い形だと思います。人間育成ばかり唱えると会員募集に影響がでますが、勝利はそのカンフル剤であるべきだと思います。

勝利を目指す事がアスリートの夢実現に向かうことですが、それが実現しなくともそのプロセスが人間育成に役立つでしょうし、努力が次につながる何かを残してあげるのが競技団体だと思います。

国体や国際大会出場の目指すアスリートが競技会で礼儀や人との接し方を学ぶ若年層、生涯スポーツとしてコミュニケーション・生き甲斐の場にしている高齢者等、ボウリングは幅広い範囲の人々が一緒に競技できる数少ないスポーツです。私の父も80歳を過ぎても現役ボウラーで、シニア大会への参加そして孫達との対戦を楽しみにしています。

ボウリング場をコミュニケーションの場所として多くの人々が集い、誰にでも訪れる老いの時期を健康で楽しく過ごすよう、我々ボウラーが高齢化社会のリーダーとしての役割を果たせるようになれば幸いと考えております。

最後にここまでお導き頂きました皆様に感謝いたしますと共に、今後の指導も宜しくお願ひいたします。



私とボウリング

盛岡支部・スターレーンクラブ

大平洋子

父が亡くなった平成八年の秋、何かを始めたくなり、自転車で行ける距離にあったボウリング場へ出掛け、週一回の「奥様ボウリング教室」に申し込みました。

コミュニティー室での、センタープロによる基本勉強と、リーグ戦が交互に有り、そこで学んだ「スペアの取り方」等は、今も効かされています。

教室に入って数ヶ月後に、初めて作ったマイボウルが嬉しくて、投げる事が更に楽しくなりました。教室で親しくなった仲間と、スターレーンに通う様になり、平成十年の春にJBCに誘って頂き、どんな様子かも分からぬまま「競技ボウリング」の世界へ飛び込む事になりました。

会員になって初めて参加した県大会は、緊張の連続で気付けば決勝に残っていて、六位入賞と言う結果に、指導して下さっていた先輩方も驚いていました。

競い合う事、緊張感、集中力、悔しさ、喜び……。そんな感情を四十歳を過ぎてから味わう事が出来るとは、思っていませんでした。

週に一、二回の練習、月に一回の県大会、一泊二日の東北大会、そして全国大会へ参加する事は、仕事と家族を持つ主婦にとって、家族の理解と協力が無ければ不可能です。

仕事も家事も無我夢中でこなし、少しずつ良い成績の報告が出来る様になって、家族も「私の生き甲斐」を、諦めにも似た理解をしてくれる様になりました。

東北大会や全国大会で一流選手のプレーを観戦すると、女性のしなやかさと、勝負強さに圧倒されます。日頃の練習に裏付けされた自信と集中力は、観

ている者にも感動を与えてくれます。メンタル面の強さ…。今の私に欠けている部分だと自覚しています。今後も課題として取り組んで行きたいと思ってます。「生涯スポーツ」であるボウリングを始めて、様々な思いを共感出来る多くの仲間と出会えた事は、私の大きな財産になりました。

最近は家庭の事情で、思う様に練習の時間を作る事が出来なくなっていますが、優先順位をしつかり見つめて、今置かれている現実を後悔する事なく、出来る範囲で大好きなボウリングと関わっていくつもりです。



日本スポーツマスターズ2007滋賀
前列左から大平洋子・吉田美都子
後列左から及川弘代・小林みち子



ドリラーの研鑽と喜び

J B C 公認ドリラー
ビッグハウススーパーレーン支配人
佐々木 聰 昭

岩手県ボウリング連盟創立40周年おめでとうございます。

長きに渡り岩手県ボウリング連盟が存続できるのは役員、会員皆様のボウリングに対する情熱と愛情の賜物であると存じます。その間、競技・練習の場であるボウリング場の閉鎖や営業形態の変化など決して良い環境で活動出来ない中、ボウリングを競技として育んでくださった皆様には頭の下がる思いであります。

ボウリングは競技として大きく認知されるようになり、オリンピックこそまだ競技として参加しておりませんが、アジア大会や国体など大きなスポーツ大会でも採用され、覇を競う場が増えると共に競技のレベルも著しく向上してきております。

その中、岩手県連の選手の活躍も多く聞かれる様になり、選手の日頃の練習の成果が結実し始めた事は大変喜ばしいことであり、誇りにも思っております。

最近ではアジアシニア選手権大会選手権者久慈順子選手、兵庫国体ハイミドル優勝 木村聰選手、2006スポーツマスターズ選手権者 藤原孝至選手 等々…連盟選手の活躍を耳にする度、その選手のドリルに携わったことが非常に嬉しく、結果を出した選手にはその功績を称える気持ちと感謝の念が絶えません。

私はセンター従業員として20年ほどドリルに携わってきましたが、J B Cの公認ドリラーとして10年ほど連盟選手の皆様のボールをドリルさせていただいております。ボウリングボールはこの15年ほどで大きく変化しており、より摩擦の高い表面素材の開発、転がりや走りを調整出来るコアなど日々を追うごとに新しい製品が出され、それに対応したドリルの技術も大きく様変わりしてしております。更にはレーン素材の変化も加わり選手の対応力と投球技術にも様々な要素が要求される様になりました。

ドリル技術としては「フィッティング」そして「バランス」と大きく二つの要素から組み立てを行います。フィッティングはその選手の手の骨格や肉付き、リリース時の軸足とスイングとのバランス、ターンとリフトのタイミングなどによりスパンとピッチを決定します。バランスはそのボールのコア形状と慣性モーメント値、表面摩擦の強弱を考慮の上使用レーンを想定し、どのくらいの走りと曲がりを要求するかにより決定します。これらの技術はボールメーカーなどで、ある程度は修得可能ですが、いざ実際にドリルする際は選手とのイメージの共有がドリルの良し悪しを決定します。選手がどのようなレーンコンディションでの使用を想定しているか、又、他のボールとの使い分けをどのように考えているか等総合的に選手とのコミュニケーションを図り、はじめて競技で使用できるボールが出来上がるを考えます。これからも新しい理論・技術の習得に努め、連盟選手の活躍に少しでも寄与できればと考えております。

連盟のますますの発展はトップの選手が結果を残し、新しい選手に刺激を与えて互いに競い合い、そして語り合い、仲間としての輪を構築していくことではないかと考えます。連盟役員、会員皆様、はそれが出来る良い人員と環境が揃っていると見ております。

岩手県ボウリング連盟のますますの発展を祈念しております。



ボウリングを生涯スポーツとして

J B C 公認審判員
日体協スポーツ少年団認定員

理事 小林みち子

ボウリングとの出会いは、二人の子供が進学のために、仙台、東京と家から離れてしまい、夫婦二人の生活が始まった頃だったと思います。

始めた頃は週一回、ハウスボールで2～3ゲーム投げる程度でした。投げる回数が増えると主人がマイシューズをプレゼントしてくれたのが、後にマイボールを持つきっかけになったと思います。



左から2人目小林恒雄 右端小林みち子

ある日、新聞に国体競技として、ボウリングの記事があり、また全日本年齢別で丸山忠夫選手の優勝の記事を見て感動しました。JBCの岩手県大会を観に何度も会場に足を運び、競技ボウリングに魅せられていきました。

大会を観に行っていた時、阿部副理事長に声を掛けいただき平成11年にJBCに入会しました。

夫婦揃って競技ボウリングのスタートでした。入会3年目に、第一回の日本マスターズ宮崎2001に参加した時の感動が今まで続けている原動力になりました。

初めての九州、修学旅行気分のような遠征でした。2人チーム戦、プレッシャーも無く夢中で投げて、5ゲーム終了時点で入賞ラインにいると聞いた途端ミスが続きメンタルの競技と痛感しました。

主人は日本マスターズ富山2005で2人チーム戦、大平恵介選手と組んで7位入賞となり、マスターズ大会はいろいろな思いのある大会です。

平成16年に古傷再発で膝の手術を受け、それまでとは同じ様に投球できなくなりボウリングとどう付き合うか迷いました。

上野理事長から声を掛けいただきスポーツ少年団指導のお手伝いをしていたので、『スポーツ少年団認定員』の講習を受け、子供達と接しているうちに生涯スポーツとして続けたいと思えるようになりました。

子供達にはピンを倒した時の快感や投げることを楽しいと感じてボウリングを好きになってもらうよう心がけて指導しています。

小学生から大人まで年齢別の大会があり、ハンディキャップ制で一緒に投げる大会もあるなど年齢に関係なく、誰でも気軽にプレーできるボウリングは生涯スポーツとして最適です。

これからも主人とともにボウリング場通いを続けます。



ホームページの開設

JBC公認審判員

理事 高橋宗義

岩手県ボウリング連盟のホームページを開設し8年になりました。JBC加盟団体のHP開設は7番目でしたが最近では14団体となっております。閉鎖する団体もありますが開設する団体は増えつつあります。当連盟の開設この間、大会スケジュール等運営情報・大会結果のお知らせ・組織情報・年度事業計画等、正確な情報を同時に、迅速、且つ公平に関係者にお知らせすることを主目的に活動してきましたが、今回の寄稿にあたり、ホームページ担当として、開設目的や運営状況を振り返ってみたいと思います。

当連盟の開設は平成14年4月ですが、JBC福岡県連や京都府連のホームページが既に開設されていました。事業計画や、主催大会以外にも全国大会、地域大会情報が掲載されており情報源として重宝しておりました。岩手県連にも同様なホームページが有れば良いなと思っていたところ、他



ホームページのTOP

支部の会員から大会要項の問合せを受けたり、また誰々さんが東北大会で優勝したなどと会員の活躍する情報を頂き、今までの役員、支部長経由の回覧伝達方式では会員に全て伝わらない場合もあり、会員の活躍はみんなに知らせたいと思うようになり開設を決意致しました。開設にあたり会長はじめ役員の方々に趣旨説明を行ったところ、必要性を強く意識されており全面支援を受け連盟の主要な広報媒体として開設し現在に至っています。

開設当初のホームページは、知識修得を図りながらの作成であったため一般的な自己満足の域を出ない出来栄えでしたが、会員の方々のご指導、ご要望を頂き

ながら、少しづつ改良、内容の充実に努めてまいりました。現在は、携帯向けのホームページも開設し、連盟事業を中心とし、東北地区全国大会の県代表選手の情報が殆んどですが予想をはるかに上回る利用があり、会員にとって大きな利便性を発揮しています。更なる向上のため、情報入手ルートを確立し各支部情報や県内市町村ボウリング協会の情報をも掲載し、岩手地域ボウリング統轄団体としての情報提供、情報交換を行ってまいります。また、入賞者の成績だけでなく大会成績一覧や会員毎の記録提供も進めます。

以上、過去を振り返りながら現状を直視し、今後の方針について考えてみました。ホームページの作成、更新作業は夜間の限られた時間しかできませんが、会員各位に喜ばれるよう充実させてまいります。ご意見、ご指導、宜しくお願い申し上げます。



スポーツ・ドクターの考察

(財)日本体育協会公認スポーツ・ドクター

顧問 加藤 典博

私が、ボウリング競技に初めて出会ったのは、約35年前の大学生時代である。ボウリングブームの最盛期がやや過ぎ、岩手県ボウリング連盟が発足して5年目くらいであろうか、東北学生連合に加盟していた岩手医科大学ボウリング部に入部したのがきっかけで、フランチャイズであった緑屋のホリデーボウルに昼夜問わずに居続けた記憶がある。当時の東北学生連合の試合はリーグ戦が盛んで、月1～2度、宮城県まで足を運ばなくてはならなかった。現在のような高速道路はなく、一般道を5～6時間かけて往復したものだが詰襟の学生服の着服が義務づけられていた。違和感を感じながらも、しかたがなく体制に従っていた。当日の未明午前3時頃に盛岡を発って行くが、どうしても時間ぎりぎりで会場に着くことが多く、あたふたと所定のレーンに入ると、まもなく練習ボールのフォイッシュル、そしてゲームが始まる。また、試合が終了すると深夜近いため、そそくさとボールを持って会場から帰途につくのが通常であった。したがって、精神統一はおろか、アップ、ストレッチングもなくゲームに入り、終了後のクールダウンもまったくしない状態であった。当時はまだ、20歳の若さでもあり、さほど筋肉をはじめとして身体的ダメージはなかったが、55歳を過ぎた現在はゲーム後の筋肉、関節へのダメージを痛感するようになってきた。

ボウリング競技1ゲームのエネルギー消費量は平均40カロリーといわれ、運動量は予想に反し高く、野球、ゴルフを抜き、テニスの次ぐらいにランクされる。しかし、疲労度はあまり感じられない。これは投球間隔が調整可能で、この間運動を休止できるためである。これが、ボウリングの大きな特徴である。その他全天候型で、技術差があってもハンデキャップをつけることができ、さらに競技方法を変えることで少人数から大人数まで一緒に競い合う事ができるなどの特性もあり、男女問わず、子供から高齢者まで幅広く、健康維持と管理のための生涯スポーツとして広く取り入れられている。

以前から、サッカーやバスケットなど運動量の多いスポーツは、競技が行われないオフの時期には筋力アップを目的としてフィジカルトレーニングが不可欠であったが、最近では、ゴルフなどにも浸透し、プロの試合でもあまりメタボなゴルフ選手は見られなくなってきた。一方、メンタルトレーニングも進歩し、野球ではメジャーリーグのイチローやタイガー・ウッズを始めとするPGAのトッププロは試合で集中力を発揮、持続するために欠かさず行っているという。皆さんも、ボウリングの試合で、なぜか今日は調子がよく、どこに投げても全部ストライクになり、よい成績で入賞してしまった。あるいは、団体戦で同じ組のメンバーに乗せられて、終わってみたら今までにない成績を出していた。などを経験したことがあると思うが、それが精神的に集中し肉体的に最大限の力が発揮できた時で、いわゆる「ゾーンに入る」という状態である。トップアスリート達は試合ですぐそのゾーンに入り持続する方法を身に付けるためにメンタルトレーニングに励んでいる。特に、ゴルフと似ている心技一体のボウリング競技にはこのメンタルトレーニングは必要不可欠であると思われる。しかし、オフがなく、レジャー性とスポーツ性を持っているボウリングではこのフィジカル、メンタルトレーニングはなかなか浸透し難いのは事実である。せめて、過去40年間岩手県ボウリング連盟の歴史の中でオールジャパンに選出されたり、国体で優勝、入賞を果たした選手達に続く若い選手達は創意、工夫をしながら取り入れてほしい。また、健康維持、管理のために行っているボウラー、特に50歳を超えたシニアの選手たちは、これから負荷の多いフィジカルトレーニングで筋力をつけるよりも、ストレッチングすることで、現在の筋力の機能の維持に努めることを勧める。どうぞ、試合の30分以上は早く会場に着き、精神統一とストレッチングを忘れずに！！。

最後に、この40年間、吉田現会長をはじめとして、岩手県ボウリング連盟に御尽力された役員、選手の皆様の御苦労に感謝し、これからさらなる御発展を祈願して稿を終える。

続岩手のスポーツ人〈ボウリング〉

岩手日報社刊（平成15.1.1）より

著者 小田島 隆

久慈が国体準優勝

平成十一年の熊本国体の成年女子年齢別個人戦50歳以上の部で久慈順子（雫石町・小告井乳業）が準優勝に輝いた。ボウリングが国体の正式競技になったのは昭和六十三年の京都大会である。以来県勢は個人戦で六人の入賞者を出しているが、表彰台に上がったのは久慈が最初になる。本県が生んだ唯一のナショナルチーム入りの実績を持ち、「岩手に久慈あり」と全国的にも知られた存在。彼女にとって国体は一つの競技会にすぎないが、岩手の選手として重みのある記録を競技歴に加えたことは胸を張って誇っていい。

国体の模様を再現する。競技初日は予選前半の3ゲームが行われた。久慈の出足は鈍かった。もう一つレーンを読み切れずスコアは伸びない。526点で10位だった。8位までの入賞には手の届く範囲たが、上位は難しいとみられる「黄信号」の初日の結果だった。

一夜が明けてレーンには別人のように変身した久慈の姿があった。予選後半の3ゲームは567点をマークしてトータル1093点。172cmの長身を生かした本来の滑らかなフォームから繰り出されるボールは小気味よくピンをなぎ倒し、完全に本来のリズムを取り戻した動きだった。次々に上に位置していた選手を追い落とし3位に急浮上した。

引き続き決勝の3ゲームに入る。快調なテンポは衰えない。第1ゲームはスタートから4連続ストライクを出し、ついに2位まで上がった。しかし、勢いもここまでだった。首位を走る沖崇子（広島）は予選で1152点をマークし久慈との差は59点と離れていた。決勝に入っても好調に飛ばして高得点を並べていた。久慈は最終ゲームでついに息切れし565点で試合を終える。総得点は1658点。優勝した沖は決勝が591点でトータルは1743点、差は85点に広がっていた。

久慈の国体出場は三度目。前二回の成績は平成二年の福岡大会、八年の広島大会とも予選落ちして実力を発揮できない屈辱を味わった。それだけに三度目にかけた執念はすさまじかった。久慈は「決勝の第1ゲームを4連続ストライクから入ることができたのが大きかった。試合を終えて（2位入賞が決まり）やったという気分になった」と話す。

久慈にとっては国体の成績を最高の“勲章”とみなされるのは不本意であろう。輝かしい競技歴を紹介していくべきが納得がいく。ボウリングに取り組んだのは岩手女子高を出てから数年後の二十三歳ごろになる。友人に誘われて“遊び”で始めたのがきっかけだった。もともと素質があったのだろう。体にも恵まれていた。「遊び」が「競技」に進展していき一段と腕を上げる。衝撃的なデビューを飾る。昭和五十八年八月に名古屋市で開かれたAMFワールドカップ全国決勝大会に東北地区代表として出場。二日間で15ゲームを戦い見事日本一になった。参加者は四十人。予選を経て十六人が決勝ラウンドに進出した。素晴らしい出来を見せた久慈はトータル2919点。1ゲーム平均195点のペース配分で2位の稻岡（関西）に69点の大差をつけた優勝だった。この時三十四歳。「競技を始めたころはストライクの快感に酔っていたが、アベレージを高く保つ意識を重要視するようになった」と心境を語った。この好成績でその年十一月にメキシコで開かれたワールドカップに日本代表の一員として出場する。



久慈順子

平成元年五月の全日本選手権で自己最高の6位に入り、同選手権を基準にした選考会を経てナショナルチーム入りを果たした。メンバーには前年のソウル五輪（公開競技）で銀メダルを獲得した浅井敦子（福岡）らがいた。同年十二月の第二回オールジャパンレディース大会は強豪と競って4位に入賞する。二年七月にはインドネシアのジャカルタで開かれた第十一回F I Qアジアアマチュア選手権に出場した。

平成三年になる。五月の全日本選手権ではまたも6位に終わったが、翌六月に韓国の大田で開かれた第八回F I Q極東選手権大会の代表に選ばれ、彼女自身が納得のいく好成績をマークした。個人戦のマスターズ戦で準優勝に輝く。

この試合は同大会のシングルス、ダブルスなど4種目の総合で上位に入った十六人が争う方式で眞の実力が問われる。久慈は出だしから好調で次々に対戦相手を破り、決勝で地元の韓国選手と優勝をかけて争った。試合は2ゲームを行い、合計得点で決める。

久慈は第1ゲームで7点をリードする。7点差は大きく優勝は目前と思われたが、地元の声援をバックにした韓国選手の猛烈な追い上げに遭った。点差は徐々に縮まり、ついに逆転を許す。しかしその差はわずか3点、惜しまれる準優勝だった。

円熟した技術健在

久慈順子（小岩井乳業）の極東選手権の成績はマスターズ戦準優勝のほかにも日本勢の活躍に寄与している。5人チームで優勝、3人チーム戦は2位になるなど団体戦の一員として立派に貢献した。

戦い終えて帰国後、久慈は県連盟の吉田几生理事長（現・会長）とともに岩手日報社を訪れて大会の模様を報告した。マスターズ戦で優勝を逃した試合については「第1ゲームで7ピンリードしたことが油断につながったのかもしれない。ただ第2ゲームで取れるはずのスペアを落としたのが痛かった。自分のミスだから仕方ないが…」と残念がる。

レベルの高い試合になるほどちょっとしたつまずきが致命傷になる怖さを肝に銘じた。ただ大会全般に関しては「各試合とも特に緊張はしなかった。マスターズ戦では決勝まで行けて満足している」と述べ、過去メキシコ、インドネシア遠征に比べて実りのある海外試合だったことを喜んだ。同行した吉田理事長は「よく頑張ってくれた。次は国体で本県チームが上位に入れるようにみんなを引っ張ってほしい」とエースに対して注文を付けた。

久慈は平成四年以降、対外試合で目立った成績は残していないが、日ごろの練習は怠りなく繰り返し競技への情熱を燃やし続ける。九年十二月の第十回オールジャパンレディース大会で8位に入って復活。十一年二月には第十四回全日本年齢別大会で5位に食い込み四十歳代最後の試合を飾った。同年九月の熊本国体で準優勝。十二年十二月には第十三回オールジャパンレディース大会シニアの部で4位になり、円熟した技術は依然健在である。



吉田几生 久慈順子

話題を一転させて本県におけるボウリング競技の歩みを簡潔にまとめておきたい。競技の発祥地は欧州である。中世の時代から各国でそれぞれ独自のルールと用具で楽しんできたが、最も今日に近い形は十七世紀になってオランダの移民船によって米国に上陸してから広まったとされる。わが国では文久元（1861）年に長崎の出島に近い英國居留地内にボウリング場が開場したのがスター

トである。大正六（1917）年に東京・神田のY M C A 体育館の地下室に2レーンのボウリング場が開設され、米国人の体育教師がコーチとして指導に当たりにぎわった。営業用の第一号は昭和二十七年に東京・神宮外苑に23レーンの東京ボウリングセンターが開場、競技が行われるようになった。

【注】日本体育協会が出したスポーツ用語事典（昭和50年6月発刊）から要約抜粋。

アマ・ボウラー組織の全日本ボウリング協会（J B C）の設立は東京五輪の年の昭和三十九年であり、遅れること四年後の昭和四十三年に県連盟が結成された。J B Cの日本体育協会（以下体協）加盟は昭和四十八年になる。

県連盟の最初の大仕事は県体育協会（以下県体協）への加盟運動だった。連盟発足時から役員の一人として競技の普及、発展に努めた吉田几生（吉田会計事務所）は五十一年に理事長に選任されるなり県議、遠野市長を務めた小原正巳会長とともに奔走することになる。

しかし、事は思惑通りには運ばず運動は長引く。時期が悪かった。オイルショックに端を発する景気低迷、経済環境の変化がもろに打撃となる。競技の性格上、練習や試合は民間施設に頼らざるを得ない。普及し始めたころはレジャー産業の花形としてブームを巻き起こしたが、不況の波はボウリング場から客足を遠のかせ、多くの施設を閉鎖に追い込んだ。

日体協に加盟したJ B Cの国体参加運動が低滯を余儀なくされると地方組織にも影響が波及する。県連盟が県体協に加盟を認められたのは昭和五十九年四月だった。連盟創設から十六年を経過した。吉田ら県連盟関係者の粘り強い努力と熱意のたまものである。県民体育大会（以下県体）への参加は素早かった。県体協加盟の一年後、六十年の第三十七回大会に三十五番目の正式競技としてデビューする。

県体中期の七月十四、十五日の両日、都南村（現・盛岡市）のベルプラザスーパーレーンが会場だった。団体戦、個人戦が実施され、どちらも男女混合で争われた。女子の参加が極端に少なかつたための苦肉の策である。

団体戦には十八市町村から三十四チームが出場して9ゲームを競った。予選6ゲームの結果十七チームが決勝に進出。予選では首位の北上市Aに61点差をつけられて5位にいた盛岡市Aが決勝の3ゲームで急追し逆転、トータル6786点で記念すべき最初の大会の覇者に輝いた。メンバーは川原重治郎、丸山忠夫、佐々木和夫、太田繁夫の四人である。2位には6756点で都南村Aが入り、3位は6752点の北上市Aだった。

二日目の個人戦は29歳以下の部が小国孝喜（北上市）、30歳代の部が久慈順子（零石町）、40歳代の部が大ヶ生登美子（盛岡市）、50歳以上の部が丸山忠夫（盛岡市）。全部門を通した最高得点は第一人者である久慈の1886点だった。

強化の必要を認識

国民体育大会（以下国体）にボウリング競技が登場したのは昭和六十二年の第四十二回沖縄大会になる。この時は公開競技の扱いで成年男女は団体戦と4部門の年齢別個人戦、少年男女は団体戦と個人戦が行われた。実施されたのは夏季大会である。競技の性格からみれば秋季大会だが、秋季大会は競技種目が膨れ上がる一方のため、競技数の少ない夏季大会に繰り入れられた。

翌六十三年の京都大会が正式競技のスタートになる。本県から出場したのは連盟理事長の吉田几生が率いる工藤文彰（盛岡工高）、嶋廻克彦（盛岡南高）の少年男子の二人。東北地区予選の東北総合体育大会（以下東北総体）で3位に食い込んで出場権を獲得した。しかし、残念ながら入賞には届かなかった。成年男女は東北地区予選を突破できず、県連盟の関係者はあらためて本県の実力を知り、強化に一段と力を入れる必要性を認識させられた。

平成元年の北海道大会では二人の入賞者を出した。頑張ったのは成年男子一部の年齢別個人戦50歳以上の部の丸山忠夫（丸山板金）である。予選の6ゲームは1121点をマークして6位で通過した。決勝の3ゲームは552点を出しトータル1673点で順位を一つ上げ5位に食い込んだ。6位とは1点差の際どい勝負だった。優勝した河北勝利（山口）は1758点である。

もう一人の入賞者は成年男子二部の佐藤喜三郎（日通盛岡支店）。予選は1155点と丸山をしのぐ出来で6番目でバス、入賞を決めた。しかし二日目の決勝では443点とスコアが伸びず合計1598点で8位にとどまる。佐藤は「体調はよかったです、やはり決勝ということで緊張した。しかし8位以内入賞の目標は最低限達成したので満足した」と笑顔を見せた。

一部40歳代で期待された川原重治郎（青山経営経理研究所）は予選19位で決勝進出を逃し、丸山、川原に木村聰（鈴久）、浅野周三（アサノ電気）を加えた四人による団体戦は予選24位にとどまった。チームを率いた監督は菊地賢（菊建設）である

平成二年の福岡大会は初出場の女性陣が健闘した。監督は熊谷礼子（盛岡市）で選手は成年一部が上村優子（玉山村）、三浦巳代子（回進堂）、久慈順子（小岩井乳業）、小笠原ケイ子（盛岡市）、成年二部は後藤秀子（ゴトーアクセス）だった。

一部30歳代の部で三浦が7位入賞を果たした。予選6ゲーム中、前半の3ゲームは514点で危ない位置にいたが、後半の3ゲームで懸命に盛り返した。183点、180点、190点で計553点をマークして1067点とし一気に4位に浮上した。上位八人に絞られた決勝に臨む。だが、予選後半の勢いを持続できなかった。3ゲームで挙げた得点は463点に終わりトータルスコアは1530点。三浦は「予選の後半は出来過ぎ。決勝は頑張ったけれどダメだった」と表情を曇らせた。

二部に出場した後藤は8位に入った。予選6ゲームは975点。8位で際どかったが入賞を確定した。決勝の3ゲームは464点をマークし合計1439点になった。

誤算だったのはナショナルチーム入りしている40歳代の部の久慈。予選15位と振るわなかった。50歳代の部の小笠原は予選前半で546点を出し2位に付けたが後半崩れて13位に落ちてしまった。

八年の広島大会で六年ぶりに入賞者が誕生した。成年男子29歳以下の部で8位になった工藤文彰（第一ビル用品）である。盛岡工高時代に京都大会に出場している。出だしは素晴らしい。予選前半の3ゲームが699点の高得点で2位。後半は600点と急降下しトータルは1299点で7位。そして決勝の567点をプラスして1866点だった。試合が進むにつれてスコアが落ちたことが反省材料になる。九年の大坂大会では成年男子50歳以上の部で佐々木和夫（薰山工房）が6位入賞を果たした。予選前半は669点で3位。後半は伸びなかったが4位で決勝に残る。総トータルは1803点だった。

国体以外の主な戦績をみる。丸山がいい仕事をしている。六十一年六月の第六回東日本シニア選手権で個人総合優勝を遂げた。得点は3028点で2位に37点差をつけた。15ゲームのうち12ゲームまでは4位。トップに70点の大差をつけられていたが、残り3ゲームで大逆転した。丸山は平成八年の全日本年齢別大会60歳以上の部でも優勝している。十年十月の全日本シニア選手権ハイシニアの部2人チーム戦では廣瀬功（日本林業土木）と組んで4位。同年七月の東日本シニア選手権男子4人チーム戦は丸山のほか川原、佐々木、藤村他可夫（清水建設）のメンバーで優勝した。

十一年二月には女子のホープ小笠原由美子（ムラタ）が第十四回全日本年齢別大会の20歳代の部で3位、八月の東北総体では優勝している。



丸山忠夫



栄光の記録

岩手県ボウリング選手権大会 歴代選手権者名簿

	男子	女子
第1回 (昭和45年)	千葉明彦	入江登美子
第2回 (昭和46年)	谷地哲郎	村上とし子
第3回 (昭和47年)	矢羽々清美	久慈順子
第4回 (昭和52年)	古館勇光	久慈順子
第5回 (昭和53年)	千田勝郎	久慈順子
第6回 (昭和54年)	千田勝郎	久慈順子
第7回 (昭和55年)	伊藤誠	久慈順子
第8回 (昭和56年)	阿部勝弘	久慈順子
第9回 (昭和57年)	佐藤義明	久慈順子
第10回 (昭和58年)	丸山忠夫	久慈順子
第11回 (昭和59年)	太田繁夫	久慈順子
第12回 (昭和60年)	平野信雄	久慈順子
第13回 (昭和61年)	木村聰	久慈順子
第14回 (昭和62年)	丸山忠夫	久慈順子
第15回 (昭和63年)	藤原隆孝	小笠原ケイ子
第16回 (平成1年)	木村聰	久慈順子
第17回 (平成2年)	川原重治郎	久慈順子
第18回 (平成3年)	工藤文彰	久慈順子
第19回 (平成4年)	伊藤誠	桜井ゆかり
第20回 (平成5年)	木村聰	久慈順子
第21回 (平成6年)	木村聰	桜井ゆかり
第22回 (平成7年)	山田浩幸	久慈順子
第23回 (平成8年)	工藤文彰	久慈順子
第24回 (平成9年)	藤村他可夫	畠山由美子
第25回 (平成10年)	藤原孝至	小笠原由美子
第26回 (平成11年)	赤沢清	佐藤結香
第27回 (平成12年)	工藤文彰	久慈順子
第28回 (平成13年)	木村聰	久慈順子
第29回 (平成14年)	小笠原賢	阿部トミエ
第30回 (平成15年)	工藤文彰	阿部トミエ
第31回 (平成16年)	工藤文彰	久慈順子
第32回 (平成17年)	村上齊	高橋久美子
第33回 (平成18年)	宇部健	鈴木ゆかり
第34回 (平成19年)	工藤文彰	阿部暁美
第35回 (平成20年)	沼田聰	久慈順子

岩手県民体育大会

第37回大会の成績

昭和60年7月13日・14日
(ボウリング競技初参加)

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選手名	スコア(36G)
優勝	盛岡市A	丸山 忠夫・太田 繁夫・川原重治郎・佐々木和夫	6,768
準優勝	都南村A	飯塚 隆・小泉 俊男・小笠原 勝・大倉 和男	6,756
第3位	北上市A	八重樫 功・小田島正利・浅野 周三・平野 信雄	6,752
第4位	矢巾町	阿部 勝弘・中村孝一郎・菊池 安彦・中村 三郎	6,750
第5位	都南村B	佐藤喜三郎・佐藤 裕・石田 良子・熊谷 重勝	6,714
第6位	石鳥谷町	畠山 正志・似内 正紀・藤原 良造・菊池 正勝	6,637
第7位	水沢市A	及川 宏孝・石川 浩志・後藤 正三・木村 聰	6,617
第8位	盛岡市B	藤原 正夫・藤原 妙子・今野カナ子・小笠原ケイ子	6,606

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	13
第2位	水沢市	10
第3位	北上市	9
第4位	一関市	8
第5位	久慈市	7
第6位	花巻市	6
第7位	釜石市	5
第8位	大船渡市	4

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	都南村	13
第2位	矢巾町	10
第3位	石鳥谷町	9
第4位	零石町	8
第5位	和賀町	7
第6位	大迫町	6
第7位	紫波町	5
第8位	玉山村	4

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	小国 孝喜	北上市	1,717	優勝	久慈 順子	零石町	1,886
準優勝	小笠原 勝	都南村	1,690	準優勝	佐々木信夫	玉山村	1,775
第3位	田村 一彦	都南村	1,687	第3位	大鹿糠 清	久慈市	1,755
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	大ヶ生登美子	盛岡市	1,766	優勝	丸山 忠夫	盛岡市	1,801
準優勝	八重樫 功	北上市	1,754	準優勝	太田 繁夫	盛岡市	1,756
第3位	菊池レイ子	盛岡市	1,732	第3位	畠山 正志	石鳥谷町	1,746

第38回大会の成績

昭和61年7月12日・13日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選手名	スコア(36G)
優勝	盛岡市C	佐々木菊夫・川原重治郎・佐々木文彦・佐々木和夫	6,853
準優勝	盛岡市B	小山田二郎・武田アイ子・藤原妙子・太田繁夫	6,843
第3位	花巻市A	伊藤誠・鎌田次男・新田晃・藤本智隆	6,836
第4位	都南村A	小笠原勝・大倉和男・飯塚隆・小泉俊男	6,835
第5位	北上市A	平野信雄・石川義男・小田島正利・倉内嘉則	6,788
第6位	一関市A	佐藤一二・武田礼治・遠藤正美・千葉一郎	6,613
第7位	大迫町	嶋廻敏夫・瀬川忠男・鎌田敬一・佐藤義明	6,590
第8位	矢巾町	阿部勝弘・菊池安彦・中村三郎・中野正孝	6,553

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	13
第2位	北上市	10
第3位	一関市	9
第4位	水沢市	8
第5位	釜石市	7
第6位	花巻市	6
第7位	久慈市	5
第8位	大船渡市	4

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	都南村	13
第2位	紫波町	10
第3位	矢巾町	9
第4位	大迫町	8
第5位	零石町	7
第6位	玉山村	6
第7位	石鳥谷町	5
第8位	胆沢町	4

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	間泰勝	久慈市	1,822	優勝	久慈順子	零石町	1,877
準優勝	小山田二郎	盛岡市	1,769	準優勝	石川義男	北上市	1,814
第3位	佐々木文彦	盛岡市	1,755	第3位	大塚徹	零石町	1,748
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	倉内嘉則	北上市	1,733	優勝	藤原妙子	盛岡市	1,692
準優勝	阿部勝弘	矢巾町	1,715	準優勝	佐藤義明	大迫町	1,686
第3位	熊谷礼子	盛岡市	1,706	第3位	畠山正志	石鳥谷町	1,669

第39回大会の成績

昭和62年7月11日・12日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市B	佐々木菊夫・川原重治郎・佐々木文彦・佐々木和夫	6,942
準優勝	大迫町	佐藤 義明・鎌田 敬一・瀬川 忠男・嶋廻 敏夫	6,913
第3位	花巻市A	伊藤 誠・新田 晃・藤本 智隆・佐々木忠夫	6,896
第4位	矢巾町A	阿部 弘樹・高橋 文和・藤原 隆孝・阿部 勝弘	6,883
第5位	都南村A	小笠原 勝・飯塚 隆・大倉 和男・小泉 俊男	6,825
第6位	釜石市	熊谷 充善・中田 義幸・菊池 啓一・佐藤 和典	6,697
第7位	盛岡市C	赤沢 清・上野 吉朗・黒沢 吏・小山田二郎	6,684
第8位	都南村C	工藤 文彰・斎藤 啓子・藤沢 正志・高橋 克見	6,681

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	13
第2位	花巻市	10
第3位	釜石市	9
第4位	一関市	8
第5位	水沢市	7
第6位	久慈市	6
第7位	北上市	5
第8位	大船渡市	4

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	大迫町	13
第2位	矢巾町	10
第3位	都南村	9
第4位	紫波町	8
第5位	和賀町	7
第6位	零石町	6
第7位	石鳥谷町	5
第8位	胆沢町	4

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	小笠原 勝	都南村	1,952	優勝	久慈 順子	零石町	1,906
準優勝	佐々木文彦	盛岡市	1,845	準優勝	千葉 周	花泉町	1,843
第3位	木村 聰	水沢市	1,792	第3位	佐々木菊夫	盛岡市	1,820
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	嶋廻 敏夫	大迫町	1,761	優勝	佐藤 義明	大迫町	1,816
準優勝	中山 昭二	盛岡市	1,730	準優勝	太田 繁夫	盛岡市	1,748
第3位	鎌田 敬一	大迫町	1,723	第3位	佐々木忠夫	花巻市	1,670

第40回大会の成績

昭和63年7月9日・10日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市B	佐々木文彦・佐々木菊夫・川原重治郎・丸山忠夫	6,957
準優勝	盛岡市C	佐々木和夫・藤村他可夫・小笠原ケイ子・小山田二郎	6,928
第3位	久慈市A	奥瀬幸男・間泰勝・大久保和佳・大鹿糠清	6,841
第4位	都南村A	工藤文彰・大倉和男・小笠原勝・小泉俊男	6,793
第5位	盛岡市A	黒沢吏・藤原妙子・藤原正夫・太田繁夫	6,727
第6位	大迫町	佐藤義明・鎌田敬一・瀬川忠男・嶋廻敏夫	6,684
第7位	花巻市A	新田晃・藤本智隆・伊藤誠・大平恵介	6,683
第8位	一関市A	菊池誠之・佐藤一二・菅野満・武田礼治	6,674

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	40
第2位	久慈市	35
第3位	花巻市	30
第4位	一関市	25
第5位	水沢市	20
第6位	北上市	15
第7位	大船渡市	10
第8位	釜石市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	都南村	40
第2位	大迫町	35
第3位	零石町	30
第4位	矢巾町	25
第5位	玉山村	20
第6位	石鳥谷町	15
第7位	滝沢村	10
第8位	胆沢町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	木村聰	水沢市	1,897	優勝	小笠原勝	都南村	1,837
準優勝	工藤文彰	都南村	1,888	準優勝	久慈順子	零石町	1,832
第3位	高橋文和	矢巾町	1,846	第3位	佐々木菊夫	盛岡市	1,743
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	嶋廻敏夫	大迫町	1,841	優勝	佐藤義明	大迫町	1,813
準優勝	奥瀬幸男	久慈市	1,840	準優勝	黒沢吏	盛岡市	1,803
第3位	小泉俊男	都南村	1,760	第3位	小笠原ケイ子	盛岡市	1,768

第41回大会の成績

平成1年6月10日・11日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	都南村 A	工藤 文彰・大倉 和男・小笠原 勝・佐藤喜三郎	6,935
準優勝	大迫町	瀬川 忠男・佐藤 義明・鎌田 敬一・嶋廻 敏夫	6,878
第3位	矢巾町 A	阿部 弘樹・藤原 隆孝・佐々木敏彦・阿部 勝弘	6,872
第4位	北上市 A	及川 洋治・浅野 周三・齊田 敏雄・小田島正利	6,763
第5位	盛岡市 B	佐々木文彦・菅原 純一・川原重治郎・丸山 忠夫	6,747
第6位	久慈市 A	間 泰勝・菅野 幸雄・奥瀬 英夫・大鹿糠 清	6,713
第7位	都南村 B	藤原 秋夫・鈴木 和彦・飯塚 隆・高橋 克見	6,701
第8位	盛岡市 A	黒沢 吏・藤原 妙子・武田亜希子・藤原 正夫	6,685

●市対抗の部

順位	市 名	得 点
第1位	北上市	40
第2位	盛岡市	35
第3位	久慈市	30
第4位	花巻市	25
第5位	水沢市	20
第6位	一関市	15
第7位	二戸市	10
第8位	大船渡市	5

●町村対抗の部

順位	市 名	得 点
第1位	都南村	40
第2位	大迫町	35
第3位	矢巾町	30
第4位	紫波町	25
第5位	零石町	20
第6位	石鳥谷町	15
第7位	玉山村	10
第8位	滝沢村	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	工藤 文彰	都南村	1,812	優勝	佐藤 稔	北上市	1,899
準優勝	間 泰勝	久慈市	1,804	準優勝	沼田 秀世	玉山村	1,800
第3位	佐々木文彦	盛岡市	1,736	第3位	石川 浩志	水沢市	1,784
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	久慈順子	零石町	1,847	優勝	丸山 忠夫	盛岡市	1,877
準優勝	川原重治郎	盛岡市	1,782	準優勝	藤原 妙子	盛岡市	1,858
第3位	嶋廻 敏夫	大迫町	1,735	第3位	佐藤喜三郎	都南村	1,755

第42回大会の成績

平成2年7月14日・15日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	水沢市B	三浦巳代子・後藤秀子・土井涼子・土井英明	7,107
準優勝	盛岡市B	佐々木文彦・小笠原ケイ子・熊谷礼子・赤沢清	7,005
第3位	矢巾町A	佐々木敏彦・高橋文和・藤原隆孝・阿部勝弘	6,946
第4位	都南村A	工藤文彰・鈴木和彦・飯塚隆・佐藤喜三郎	6,835
第5位	盛岡市C	佐々木和夫・藤村他可夫・川原重治郎・丸山忠夫	6,833
第6位	石鳥谷町	似内正紀・菊池正勝・藤原孝至・藤原良造	6,827
第7位	北上市A	菊池洋二・佐藤稔・斎田敏雄・清水清幸	6,788
第8位	盛岡市A	太田繁夫・小山田ミイ・金野カナ子・松田昭子	6,716

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	水沢市	40
第2位	盛岡市	35
第3位	北上市	30
第4位	久慈市	25
第5位	花巻市	20
第6位	一関市	15
第7位	大船渡市	10
第8位	二戸市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	矢巾町	40
第2位	都南村	35
第3位	石鳥谷町	30
第4位	紫波町	25
第5位	花泉町	20
第6位	大迫町	15
第7位	玉山村	10
第8位	和賀町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	高橋文和	矢巾町	1,949	優勝	三浦巳代子	水沢市	1,801
準優勝	佐々木敏彦	矢巾町	1,936	準優勝	清水清幸	北上市	1,797
第3位	庄子裕之	一関市	1,795	第3位	斎藤孝也	水沢市	1,775
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	藤村他可夫	盛岡市	1,798	優勝	小笠原ケイ子	盛岡市	1,765
準優勝	松田昭子	盛岡市	1,787	準優勝	太田繁夫	盛岡市	1,731
第3位	川原重治郎	盛岡市	1,779	第3位	佐藤義明	大迫町	1,731

第43回大会の成績

平成3年7月13日・14日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市A	川原重治郎・丸山忠夫・佐々木和夫・藤村他可夫	7,116
準優勝	盛岡市B	落合康司・熊谷礼子・小笠原ケイ子・赤沢清	7,061
第3位	都南村B	工藤文彰・根田光朗・高橋克見・大倉和男	6,924
第4位	水沢市A	三浦巳代子・土井涼子・柄沢健一・土井英明	6,883
第5位	北上市B	斎田敏雄・高橋栄幸・小国孝喜・清水清幸	6,883
第6位	都南村A	鈴木和彦・加藤典博・飯塚隆・佐藤喜三郎	6,714
第7位	北上市A	伊藤博志・佐藤稔・菊池洋二・小田島正利	6,708
第8位	一関市A	庄子裕之・佐藤泰吉・千葉清一・佐藤一二	6,704

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	40
第2位	水沢市	35
第3位	北上市	30
第4位	一関市	25
第5位	久慈市	20
第6位	大船渡市	15
第7位	花巻市	10
第8位	陸前高田市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	都南村	40
第2位	玉山村	35
第3位	石鳥谷町	30
第4位	矢巾町	25
第5位	紫波町	20
第6位	滝沢村	15
第7位	大迫町	10
第8位	花泉町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	工藤文彰	都南村	1,930	優勝	柳村正実	滝沢村	1,839
準優勝	根田光朗	都南村	1,737	準優勝	大久保和佳	久慈市	1,794
第3位	鈴木和彦	都南村	1,716	第3位	武田礼治	一関市	1,759
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	川原重治郎	盛岡市	1,794	優勝	佐藤喜三郎	都南村	1,815
準優勝	峯崎登美夫	花巻市	1,772	準優勝	小笠原ケイ子	盛岡市	1,795
第3位	藤村他可夫	盛岡市	1,772	第3位	熊谷礼子	盛岡市	1,752

第44回大会の成績

平成4年7月4日・5日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市A	佐々木和夫・工藤文彰・川原重治郎・丸山忠夫	7,047
準優勝	一関市A	武田礼治・佐藤一二・千葉一郎・千葉清一	6,992
第3位	花巻市A	伊藤誠・新田晃・高橋一彦・大平恵介	6,970
第4位	盛岡市B	加藤典博・西葛康裕・熊谷礼子・小笠原ケイ子	6,846
第5位	北上市C	菊池洋二・桜井ゆかり・浅野周三・及川洋治	6,835
第6位	久慈市A	奥瀬幸男・菅野幸雄・大久保和佳・大鹿糠清	6,827
第7位	矢巾町A	高橋文和・稻垣譲治・立花利夫・藤原隆孝	6,787
第8位	北上市A	小国孝喜・清水清幸・小田島正利・佐藤稔	6,747

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	40
第2位	一関市	35
第3位	花巻市	30
第4位	北上市	25
第5位	久慈市	20
第6位	水沢市	15
第7位	大船渡市	10
第8位	釜石市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	矢巾町	40
第2位	岩手町	35
第3位	滝沢村	30
第4位	大迫町	25
第5位	玉山村	20
第6位	紫波町	15
第7位	西根町	10
第8位	花泉町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	工藤文彰	盛岡市	1,825	優勝	佐々木文彦	西根町	1,807
準優勝	小笠原賢	矢巾町	1,729	準優勝	武田礼治	一関市	1,778
第3位	桜井ゆかり	北上市	1,714	第3位	土井英明	水沢市	1,775
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	大鹿糠清	久慈市	1,815	優勝	丸山忠夫	盛岡市	1,836
準優勝	川原重治郎	盛岡市	1,803	準優勝	熊谷礼子	盛岡市	1,775
第3位	伊藤誠	花巻市	1,728	第3位	小笠原ケイ子	盛岡市	1,753

第45回大会の成績

平成5年7月3日・4日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市A	加藤 典博・小笠原ケイ子・熊谷 札子・西葛 康裕	7,379
準優勝	盛岡市B	佐々木和夫・工藤 文彰・川原重治郎・丸山 忠夫	7,076
第3位	大迫町	嶋廻 敏夫・瀬川 忠男・沢田 敏道・鎌田 敬一	6,900
第4位	紫波町	菅原 国男・下脇 良英・築田 幸司・佐藤 三彦	6,895
第5位	水沢市A	斎藤 孝也・後藤 秀子・後藤 正三・木村 聰	6,859
第6位	陸前高田市A	千葉 秀一・小松テチ子・佐々木忠光・吉田 安廣	6,846
第7位	一関市A	高橋 宗義・千葉 清一・庄子 裕之・千葉 一郎	6,822
第8位	花泉町	千葉 周・今野 公一・千葉 司・小野寺幸江	6,809

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	40
第2位	水沢市	35
第3位	陸前高田市	30
第4位	一関市	25
第5位	釜石市	20
第6位	北上市	15
第7位	久慈市	10
第8位	花巻市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	大迫町	40
第2位	紫波町	35
第3位	花泉町	30
第4位	矢巾町	25
第5位	西根町	20
第6位	石鳥谷町	15
第7位	玉山村	10
第8位	滝沢村	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	工藤 文彰	盛岡市	1,822	優勝	高野 元幸	水沢市	1,966
準優勝	小野寺誠之	一関市	1,773	準優勝	田中 幸夫	水沢市	1,849
第3位	村松 敦子	矢巾町	1,761	第3位	吉田 兼	滝沢村	1,802
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	加藤 典博	盛岡市	1,907	優勝	小笠原ケイ子	盛岡市	1,763
準優勝	西葛 康裕	盛岡市	1,828	準優勝	菅原 英治	水沢市	1,758
第3位	菅原 純一	盛岡市	1,821	第3位	濱田勝太郎	大船渡市	1,753

第46回大会の成績

平成6年7月2日・3日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市A	佐々木和夫・工藤文彰・川原重治郎・丸山忠夫	7,009
準優勝	水沢市B	後藤正三・後藤秀子・菅原栄・木村聰	6,964
第3位	矢巾町	高橋文和・稻垣譲治・藤原隆孝・阿部勝弘	6,944
第4位	盛岡市C	西葛康裕・加藤典博・村井恵・大倉和男	6,704
第5位	盛岡市B	赤沢清・小笠原ケイ子・山田政行・藤村他可夫	6,702
第6位	釜石市A	刈谷剛・佐藤直子・熊谷充善・佐藤和典	6,620
第7位	紫波町	菅原国男・阿部純也・山田浩幸・佐藤三彦	6,584
第8位	水沢市A	高野元幸・菅野和子・田中幸夫・三浦巳代子	6,559

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	40
第2位	水沢市	35
第3位	釜石市	30
第4位	大船渡市	25
第5位	花巻市	20
第6位	北上市	15
第7位	久慈市	10
第8位	一関市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	矢巾町	40
第2位	紫波町	35
第3位	大迫町	30
第4位	滝沢村	25
第5位	花泉町	20
第6位	玉山村	15
第7位	西根町	10
第8位	岩手町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	工藤文彰	盛岡市	1,790	優勝	刈谷剛	釜石市	1,813
準優勝	高橋勇一	北上市	1,721	準優勝	桜井ゆかり	北上市	1,737
第3位	中新井田理	久慈市	1,659	第3位	藤原孝至	石鳥谷町	1,730
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	加藤典博	盛岡市	1,760	優勝	小笠原ケイ子	盛岡市	1,827
準優勝	伊藤誠	花巻市	1,713	準優勝	丸山忠夫	盛岡市	1,744
第3位	藤村他可夫	盛岡市	1,701	第3位	小沢重行	花巻市	1,696

第47回大会の成績

平成7年7月1日・2日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市A	佐々木和夫・小笠原ケイ子・大橋絹子・丸山忠夫	7,019
準優勝	北上市A	平野信雄・小国孝喜・桜井ゆかり・浅野周三	6,893
第3位	水沢市A	斎藤孝也・後藤秀子・後藤正三・木村聰	6,878
第4位	盛岡市B	加藤典博・菅原純一・赤沢清・大倉和男	6,798
第5位	久慈市A	奥瀬幸男・奥瀬英夫・菅野幸雄・中新井田理	6,782
第6位	北上市B	高橋栄幸・高橋久美子・高橋勇一・菊池洋二	6,773
第7位	大迫町	嶋廻敏夫・瀬川忠男・鎌田敬一・嶋廻克彦	6,750
第8位	水沢市B	千葉勉・小原謙一・田中幸夫・小野寺力雄	6,710

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	40
第2位	北上市	35
第3位	水沢市	30
第4位	久慈市	25
第5位	一関市	20
第6位	花巻市	15
第7位	遠野市	10
第8位	釜石市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	大迫町	40
第2位	玉山村	35
第3位	矢巾町	30
第4位	滝沢村	25
第5位	西根町	20
第6位	紫波町	15
第7位	金ヶ崎町	10
第8位	岩手町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	佐藤結香	釜石市	1,827	優勝	鈴木高	盛岡市	1,928
準優勝	阿部弘樹	矢巾町	1,704	準優勝	木村聰	水沢市	1,814
第3位	菅原崇史	盛岡市	1,701	第3位	桜井ゆかり	北上市	1,786
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	佐藤直子	釜石市	1,909	優勝	吉田優	盛岡市	1,840
準優勝	伊藤誠	花巻市	1,795	準優勝	大倉和男	盛岡市	1,782
第3位	阿部トミエ	矢巾町	1,785	第3位	小笠原ケイ子	盛岡市	1,765

第48回大会の成績

平成8年7月6日・7日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	矢巾町	小笠原 賢・阿部トミエ・藤原 隆孝・阿部 勝弘	6,862
準優勝	西根町	畠山由美子・伊藤 寿・伊藤 錦一・佐々木文彦	6,802
第3位	紫波町	菅原 国男・築田 幸司・佐藤あつ子・山田 浩幸	6,767
第4位	花巻市A	伊藤 誠・大平 恵介・陳田 康夫・新田 晃	6,757
第5位	盛岡市B	工藤 文彰・鈴木 高・岩泉 優・大倉 和男	6,649
第6位	盛岡市A	川原重治郎・菅原 純一・佐々木盛徳・藤村他可夫	6,627
第7位	大迫町	嶋廻 敏夫・瀬川 忠男・鎌田 敬一・嶋廻 克彦	6,627
第8位	久慈市A	菅野 幸男・大橋 学・岩山 文雄・奥瀬 幸男	6,622

●市対抗の部

順位	市 名	得 点
第1位	花巻市	40
第2位	盛岡市	35
第3位	久慈市	30
第4位	釜石市	25
第5位	水沢市	20
第6位	北上市	15
第7位	一関市	10
第8位	遠野市	5

●町村対抗の部

順位	市 名	得 点
第1位	矢巾町	40
第2位	西根町	35
第3位	紫波町	30
第4位	大迫町	25
第5位	岩手町	20
第6位	玉山村	15
第7位	滝沢村	10
第8位	金ヶ崎町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	畠山由美子	西根町	1,928	優勝	鈴木 高	盛岡市	1,781
準優勝	和泉 七穂	盛岡市	1,693	準優勝	川村富士美	玉山村	1,777
第3位	大橋 学	久慈市	1,681	第3位	小山田節子	盛岡市	1,776
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	小谷地巳代子	水沢市	1,880	優勝	藤村他可夫	盛岡市	1,905
準優勝	菅原 純一	盛岡市	1,830	準優勝	佐々木和夫	盛岡市	1,873
第3位	佐藤 直子	釜石市	1,808	第3位	嶋廻 敏夫	大迫町	1,772

第49回大会の成績

平成9年7月5日・6日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
優勝	盛岡市A	工藤文彰・山崎義夫・川原重治郎・藤村他可夫	7,385
準優勝	矢巾町	小笠原賢・高橋文和・阿部トミエ・阿部勝弘	7,320
第3位	北上市A	小國孝喜・林崎淑子・佐藤祐輔・平野信雄	7,123
第4位	釜石市A	刈谷剛・佐藤和典・佐藤直子・松崎秀司	6,998
第5位	水沢市A	大橋学・小野寺力雄・菅原栄・木村聰	6,911
第6位	西根町	畠山由美子・伊藤寿・伊藤錦一・佐々木文彦	6,841
第7位	一関市A	千葉勝則・小野寺力・千葉清一・佐々木健三	6,828
第8位	久慈市A	奥瀬英夫・藤潤・菅野幸雄・中新井田理	6,806

●市対抗の部

順位	市名	得点
第1位	盛岡市	40
第2位	北上市	35
第3位	釜石市	30
第4位	水沢市	25
第5位	一関市	20
第6位	久慈市	15
第7位	花巻市	10
第8位	大船渡市	5

●町村対抗の部

順位	市名	得点
第1位	矢巾町	40
第2位	西根町	35
第3位	金ヶ崎町	30
第4位	滝沢村	25
第5位	紫波町	20
第6位	大迫町	15
第7位	岩手町	10
第8位	石鳥谷町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	畠山由美子	西根町	1,773	優勝	木村聰	水沢市	2,010
準優勝	工藤文彰	盛岡市	1,765	準優勝	山崎義夫	盛岡市	1,963
第3位	伊藤巧	花巻市	1,764	第3位	鈴木高	盛岡市	1,907
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	佐々木高夫	岩手町	1,815	優勝	佐々木健三	一関市	1,827
準優勝	千葉勝則	一関市	1,795	準優勝	熊谷礼子	盛岡市	1,818
第3位	伊藤誠	花巻市	1,792	第3位	阿部勝弘	矢巾町	1,798

第50回大会の成績

平成10年7月4日・5日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	盛岡市	工藤文彰・村上齊・鈴木高・山崎義夫	6,916	40
準優勝	久慈市	間泰勝・藤潤・皆川隆夫・中新井田理	6,805	35
第3位	北上市	平野信雄・高橋久美子・佐藤祐輔・浅野周三	6,800	30
第4位	大船渡市	田代猛・濱田勝太郎・長谷川和重・橋場一男	6,613	25
第5位	一関市	岩崎京子・柏山真一・平沢茂吉・佐々木健三	6,610	20
第6位	花巻市	伊藤文明・照井忠志・陳田康夫・畠福孝康	6,439	15
第7位	水沢市	佐々木博幸・高橋徹・千田登志雄・佐々木政市	6,370	10
第8位	遠野市	菊池史和・佐々木順子・菊池晃・滝沢和夫	6,322	5

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	矢巾町	阿部弘樹・阿部トミエ・藤原隆孝・阿部勝弘	6,865	40
準優勝	零石町	吉田勝弘・根沢由則・大塚徹・久慈順子	6,825	35
第3位	大迫町	瀬川忠男・鎌田敬一・嶋廻克彦・嶋廻敏夫	6,800	30
第4位	玉山村	助川公一・川村富士美・沼田秀世・佐々木信夫	6,687	25
第5位	金ヶ崎町	飯塚隆・小沢寧・佐藤公夫・菅原和郎	6,584	20
第6位	石鳥谷町	佐々木春男・瀬川善春・似内正紀・藤原孝至	6,536	15
第7位	平泉町	武田礼治・東稻正子・吉田晴雄・東稻知司	6,466	10
第8位	紫波町	山田浩幸・佐藤あつ子・佐藤三彦・佐々木敏彦	6,449	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	村上齊	盛岡市	1,837	優勝	川村富士美	玉山村	1,938
準優勝	佐藤祐輔	北上市	1,825	準優勝	助川公一	玉山村	1,821
第3位	佐藤結香	釜石市	1,732	第3位	千葉清一	一関市	1,748
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	久慈順子	零石町	1,886	優勝	阿部勝弘	矢巾町	1,909
準優勝	小山田節子	盛岡市	1,775	準優勝	阿部トミエ	矢巾町	1,781
第3位	千葉司	花泉町	1,775	第3位	中山昭二	盛岡市	1,769

第51回大会の成績

平成11年7月3日・4日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	北上市	小國 孝喜・佐藤 祐輔・高橋久美子・小原 勝弘	6,927	40
準優勝	盛岡市	加藤 典博・山崎 義夫・小笠原ケイ子・赤沢 清	6,898	35
第3位	一関市	千葉 勝則・千葉 清一・平澤 茂吉・佐々木健三	6,841	30
第4位	花巻市	陳田 康夫・畠福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	6,799	25
第5位	水沢市	菊池 英明・佐藤 信也・高橋 宗康・木村 聰	6,767	20
第6位	大船渡市	田代 猛・浜田勝太郎・田中 英治・佐藤 勝也	6,660	15
第7位	釜石市	坂本 貢・五十嵐孝志・楢山 直一・松崎 秀司	6,604	10
第8位	久慈市	岩山 文雄・高屋敷定実・大橋 学・菅野 幸男	6,404	5

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	矢巾町	山崎 登幸・阿部トミエ・稻垣 譲治・阿部 勝弘	6,786	40
準優勝	胆沢町	福井 洋・沢村 久・菅野 義裕・千葉 和夫	6,643	35
第3位	金ヶ崎町	飯塚 隆・小沢 寧・佐藤 公夫・及川 仁	6,629	30
第4位	大迫町	瀬川 忠男・鎌田 敬一・嶋廻 克彦・嶋廻 敏夫	6,558	25
第5位	紫波町	菅原 国男・築田 幸司・山田 浩幸・佐々木敏彦	6,544	20
第6位	岩手町	山口 忠司・三浦 明年・丹内 忠・中村 光夫	6,498	15
第7位	石鳥谷町	佐々木春男・瀬川 善春・似内 正紀・藤原 孝至	6,433	10
第8位	玉山村	助川 公一・村山 聖英・沼田 秀世・佐々木信夫	6,380	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	村上 斎	盛岡市	1,844	優勝	山田 浩幸	紫波町	1,887
準優勝	山崎 登幸	矢巾町	1,720	準優勝	根澤 由則	零石町	1,887
第3位	佐藤 祐輔	北上市	1,712	第3位	佐藤 勝也	大船渡市	1,884
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	小國 孝喜	北上市	1,915	優勝	小笠原ケイ子	盛岡市	1,935
準優勝	高橋 宗康	水沢市	1,834	準優勝	久慈順子	零石町	1,844
第3位	加藤 典博	盛岡市	1,818	第3位	阿部トミエ	矢巾町	1,825

第 52 回 大 会 の 成 績

平成12年7月1日・2日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	盛岡市	鈴木 高・岩崎 敬人・川原重治郎・藤村他可夫	7,178	40
準優勝	花巻市	伊藤 誠・陳田 康夫・畠福 孝康・照井 忠志	6,719	35
第3位	久慈市	高屋敷定実・藤 潤・皆川 隆夫・菅野 幸男	6,454	30
第4位	一関市	岩崎 京子・佐々木健三・柏山 真一・高橋 宗義	6,429	25
第5位	北上市	小國 孝喜・林崎 淑子・高橋三千男・小原 勝弘	6,387	20
第6位	大船渡市	田代 猛・小野寺睦子・長谷川和重・田中 英治	6,362	15
第7位	遠野市	菊池 史和・多田 保信・菊池巳之吉・滝沢 和夫	6,242	10
第8位	陸前高田市	小松テチ子・藤井 幸治・佐藤 哲雄・田代 一宏	6,188	5

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	矢巾町	山崎 登幸・沼田 聰・稻垣 譲治・阿部 勝弘	6,708	40
準優勝	平泉町	武田 礼治・束稻 知司・束稻 正子・千葉 力	6,503	35
第3位	金ヶ崎町	菅原 和郎・小沢 寧・佐藤 公夫・及川 仁	6,314	30
第4位	紫波町	菅原 国男・築田 幸司・山田 浩幸・佐々木敏彦	6,269	25
第5位	花泉町	川島 三男・佐々木 薫・千葉 幸男・千葉 司	6,232	20
第6位	大迫町	瀬川 忠男・鎌田 敬一・嶋廻 克彦・嶋廻 敏夫	6,189	15
第7位	石鳥谷町	佐々木春男・平沢 啓一・似内 正紀・藤原 孝至	6,162	10
第8位	岩手町	山口 忠司・三浦 明年・外山 了一・中村 光夫	6,043	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	富谷 伸行	盛岡市	1,841	優勝	小野寺睦子	大船渡市	1,768
準優勝	岩崎 敬人	盛岡市	1,769	準優勝	助川 公一	玉山村	1,736
第3位	佐藤 明美	一関市	1,746	第3位	橋場 一男	大船渡市	1,716
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	小山田節子	盛岡市	1,761	優勝	川原重治郎	盛岡市	1,869
準優勝	稻垣 譲治	矢巾町	1,751	準優勝	阿部トミエ	矢巾町	1,816
第3位	伊藤 誠	花巻市	1,682	第3位	高橋三千男	北上市	1,794

第53回大会の成績

平成13年7月7日・8日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	盛岡市	岩崎 敬人・鈴木 高・柄内 秀士・大倉 和男	6,967	40
準優勝	一関市	佐藤 明美・高橋 宗義・千葉 清一・佐々木健三	6,901	35
第3位	花巻市	畠福 孝康・城守 和幸・大平 恵介・伊藤 誠	6,784	30
第4位	久慈市	菅野 幸男・皆川 隆夫・佐々木孝造・高屋敷定実	6,675	25
第5位	釜石市	米澤 結香・昆 英生・阿部 曜美・坂本 貢	6,664	20
第6位	陸前高田市	藤井 幸治・小松テチ子・白江 達夫・佐藤 哲雄	6,655	15
第7位	遠野市	菊池巳之吉・滝沢 和夫・多田 保信・菊池 史和	6,603	10
第8位	水沢市	菅野 利勝・菅原 栄・千葉 勉・長田 訓明	6,593	5

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優勝	零石町	佐々木めぐみ・佐野峯英子・吉田 勝弘・久慈 順子	7,061	40
準優勝	矢巾町	山崎 登幸・阿部トミエ・稻垣 譲治・阿部 勝弘	6,901	35
第3位	紫波町	菅原 国男・中村 慶二・築田 幸司・山田 浩幸	6,760	30
第4位	花泉町	川島 三男・佐々木 薫・加藤 弘治・千葉 幸男	6,536	25
第5位	石鳥谷町	似内 正紀・佐々木春男・平沢 啓一・藤原 孝至	6,489	20
第6位	金ヶ崎町	菅原 和郎・高橋 徹・及川 仁・佐藤 公夫	6,465	15
第7位	玉山村	助川 公一・沼田 秀世・佐々木信夫・丹内 忠	6,353	10
第8位	大迫町	鎌田 敬一・佐々木純子・嶋廻 克彦・嶋廻 敏夫	6,320	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	佐藤 明美	一関市	1,816	優勝	黒澤 誠	盛岡市	1,866
準優勝	富谷 伸行	盛岡市	1,741	準優勝	築田 幸司	紫波町	1,801
第3位	佐藤 祐輔	北上市	1,686	第3位	阿部 曜美	釜石市	1,755
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
優勝	伊藤 誠	花巻市	1,816	優勝	阿部トミエ	矢巾町	1,931
準優勝	米沢 正	矢巾町	1,742	準優勝	田代 猛	大船渡市	1,901
第3位	束稲 正子	平泉町	1,720	第3位	久慈 順子	零石町	1,891

第 54 回 大会 の 成 績

平成14年 7月 6日・7日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	久 慈 市	中新井田理・大橋 学・皆川 隆夫・間 泰勝	7,088	40
準優勝	花 卷 市	城守 和幸・畠福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	7,031	35
第 3 位	盛 岡 市	新沼 幸枝・小林みち子・小林 恒雄・上野 吉朗	6,988	30
第 4 位	遠 野 市	滝沢 和夫・菊池巳之吉・多田 保信・菊池 史和	6,895	25
第 5 位	一 関 市	高橋 宗義・千田喜久雄・千葉 清一・佐々木健三	6,842	20
第 6 位	北 上 市	小國 孝喜・林崎 淑子・高橋 和生・小原 勝弘	6,788	15
第 7 位	水 沢 市	菊池 英明・菅野 利勝・長田 訓明・佐藤 信也	6,605	10
第 8 位	陸前高田市	藤井 幸治・白江 達夫・小松テチ子・田代 一宏	6,579	5

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	矢 巾 町	高橋 文和・稻垣 譲治・阿部トミエ・阿部 勝弘	7,253	40
準優勝	零 石 町	吉田 勝弘・佐野峯英子・大塚 徹・久慈 順子	7,019	35
第 3 位	石 鳥 谷 町	似内 正紀・佐々木春男・平沢 啓一・藤原 孝至	6,783	30
第 4 位	紫 波 町	佐藤 三彦・中村 慶二・築田 幸司・山田 浩幸	6,778	25
第 5 位	岩 手 町	丹内 忠・下平 優・山口 忠司・外山 了一	6,744	20
第 6 位	平 泉 町	武田 礼治・束稻 知司・小野寺 章・束稻 正子	6,737	15
第 7 位	花 泉 町	川島 三男・千葉 司・千葉 幸男・加藤 弘治	6,631	10
第 8 位	滝 沢 村	広田 雄司・藤倉 邦男・柳村 正実・山本 和行	6,477	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	中新井田理	久慈市	1,897	優 勝	菊池 英明	水沢市	1,899
準 優 勝	岩崎 敬人	盛岡市	1,842	準 優 勝	根田 光朗	盛岡市	1,882
第 3 位	三浦 明寿	花巻市	1,837	第 3 位	新沼 幸枝	盛岡市	1,832
40 歳 代				50 歳 以 上			
順位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	小國 孝喜	北上市	1,914	優 勝	阿部トミエ	矢巾町	1,904
準 優 勝	佐藤 和典	釜石市	1,867	準 優 勝	久慈 順子	零石町	1,900
第 3 位	鈴木 高	盛岡市	1,849	第 3 位	吉田 勝弘	零石町	1,875

第55回大会の成績

平成15年7月5日・6日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第1位	盛岡市	小笠原由美子・鈴木高・川原重治郎・藤村他可夫	7,061	40
第2位	花巻市	伊藤誠・大平恵介・菅野健美・三浦明寿	6,803	35
第3位	一関市	岩崎京子・千葉清一・千葉勇・佐々木健三	6,736	30
第4位	水沢市	菊池英明・金山秀敏・高橋次男・鈴木ゆかり	6,599	25
第5位	陸前高田市	佐藤哲雄・高澤公省・田代一宏・白江百合子	6,585	20
第6位	北上市	佐藤稔・林崎淑子・高橋和生・小國孝喜	6,513	15
第7位	久慈市	間泰勝・大橋学・皆川隆夫・中新井田理	6,477	10
第8位	遠野市	菊池巳之吉・滝沢和夫・菊池晃・菊池史和	6,444	5

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第1位	矢巾町	高橋文和・稻垣讓治・阿部トミエ・阿部勝弘	6,817	40
第2位	零石町	大塚徹・佐野峯英子・根澤由則・久慈順子	6,668	35
第3位	玉山村	助川公一・佐々木信夫・沼田信男・沼田秀世	6,597	30
第4位	大迫町	鎌田敬一・佐々木純子・鎌田茜・嶋廻敏夫	6,309	25
第5位	岩手町	山口忠司・丹内忠・中村真一・外山了一	6,302	20
第6位	滝沢村	広田雄司・及川めぐみ・及川勝幸・沼田聰	6,231	15
第7位	金ヶ崎町	藤原将臣・鈴木薰・菅原和郎・大石勝男	6,228	10
第8位	石鳥谷町	似内正紀・瀬川善春・平沢啓一・藤原孝至	6,169	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	外山了一	岩手町	1,851	第1位	沼田聰	滝沢村	1,874
第2位	中村真一	岩手町	1,757	第2位	築田幸司	紫波町	1,775
第3位	佐藤信也	水沢市	1,696		阿部暁美	釜石市	
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	山口忠司	岩手町	1,808	第1位	久慈順子	零石町	1,850
第2位	小山田節子	盛岡市	1,801	第2位	田代猛	大船渡市	1,842
第3位	大平恵介	花巻市	1,769	第3位	上野千枝子	一関市	1,779

第 56 回 大 会 の 成 績

平成16年7月3日・4日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第1位	水沢市	菊池 英明・金山 秀敏・鈴木ゆかり・木村 聰	※7,447	40
第2位	盛岡市	柄内 秀士・山崎 剛志・黒澤 誠・赤澤 清	6,955	35
第3位	北上市	小國 孝喜・伊藤 博志・林崎 淑子・高橋 和生	6,784	30
第4位	久慈市	皆川 隆夫・中新井田 理・瀬野 重信・岩山 文雄	6,772	25
第5位	遠野市	菊池巳之吉・菊池 進・菊池 晃・菊池 史和	6,722	20
第6位	花巻市	城守 和幸・畠福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	6,720	15
第7位	陸前高田市	田代 一宏・佐藤 実・白江百合子・白江 達夫	6,653	10
第8位	釜石市	阿部 晓美・坂本 貢・久保 勝・千葉 達夫	6,627	5

◆水沢市は14年ぶり2回目の優勝

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第1位	滝沢村	及川 勝幸・藤倉 邦男・佐藤 誠・沼田 聰	7,186	40
第2位	矢巾町	高橋 文和・稻垣 譲治・阿部トミエ・阿部 勝弘	7,145	35
第3位	花泉町	千葉 周・今野 公一・千葉 司・加藤 弘治	6,782	30
第4位	平泉町	小岩 信・束稻 知司・小野寺 章・束稻 正子	6,677	25
第5位	零石町	吉田 勝弘・佐野峯英子・大塚 徹・久慈 順子	6,654	20
第6位	玉山村	沼田 信男・助川 公一・佐々木信夫・沼田 秀世	6,492	15
第7位	岩手町	丹内 忠・中村 真一・外山 了一・山口 忠司	6,441	10
第8位	金ヶ崎町	藤原 将臣・鈴木 薫・菅原 和郎・大石 勝男	6,381	5

◆滝沢村は初優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	大橋 学	久慈市	1,833	第1位	中新井田理	久慈市	1,913
第2位	山崎剛志	盛岡市	1,823	第2位	沼田 聰	滝沢村	1,878
第3位	佐藤 信也	水沢市	1,741	第3位	黒澤 誠	盛岡市	1,768
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	木村 聰	水沢市	※2,028	第1位	柄内 秀士	盛岡市	※1,983
第2位	鈴木 高	盛岡市	※2,011	第2位	佐藤 和典	釜石市	※1,975
第3位	大塚 徹	零石町	1,887	第3位	田代 猛	大船渡市	※1,959

○女子選手には1ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※は大会新記録

第 57 回 大会 の 成 績

平成17年 7月 9日・10日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第1位	花巻市	城守 和幸・畠福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	7,318	40
第2位	一関市	岩崎 善助・芦川 宏・千葉 清一・佐々木健三	7,307	35
第3位	盛岡市	小笠原由美子・鈴木 高・柄内 秀士・大倉 和男	7,285	30
第4位	北上市	小國 孝喜・高橋久美子・伊藤 博志・小原 勝弘	7,274	25
第5位	水沢市	佐々木博幸・菊池 英明・鈴木ゆかり・木村 聰	7,162	20
第6位	大船渡市	佐藤 勝也・田代みち子・佐藤 秀喜・田代 猛	7,077	15
第7位	久慈市	岩山 文雄・間 泰勝・中新井田理・佐々木孝造	6,844	10
第8位	遠野市	滝沢 和夫・菊池千佳子・佐々木高弘・菊池 史和	6,640	5

◆花巻市は7年ぶり2回目優勝

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第1位	滝沢村	及川 勝幸・藤倉 邦男・佐藤 誠・沼田 聰	※7,380	40
第2位	矢巾町	高橋 文和・佐々木敏彦・阿部トミエ・阿部 勝弘	※7,379	35
第3位	石鳥谷町	似内 正紀・佐々木春男・柏原 正勝・藤原 孝至	7,206	30
第4位	零石町	吉田 勝弘・佐野峯英子・大塚 徹・久慈 順子	7,019	25
第5位	岩手町	中村 真一・四日市 一・丹内 忠・山口 忠司	6,988	20
第6位	紫波町	阿部恵利子・築田 幸司・山田 浩幸・加藤 典博	6,968	15
第7位	花泉町	千葉 周・今野 公一・川島 三男・千葉 司	6,808	10
第8位	玉山村	沼田 信男・村上 聖英・佐々木信夫・沼田 秀世	6,664	5

◆滝沢村は2年連続2回目優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	小野寺亮太	盛岡市	1,924	第1位	佐々木博幸	水沢市	1,996
第2位	山崎 剛志	盛岡市	1,890	第2位	小笠原由美子	盛岡市	1,937
第3位	宇部 健	盛岡市	1,781	第3位	佐藤 誠	滝沢村	1,885
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	木村 聰	水沢市	※2,113	第1位	佐々木健三	一関市	※2,046
第2位	柏原 正勝	石鳥谷町	1,948	第2位	伊藤 誠	花巻市	※2,031
第3位	鈴木ゆかり	水沢市	1,908	第3位	阿部トミエ	矢巾町	※1,998

○女子選手には1ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※は大会新記録

第58回大会の成績

平成18年7月8日・9日

●団体戦 市対抗の部

順位	チーム名	選手名	スコア(36G)	県体得点
第1位	盛岡市	黒澤 誠・小笠原ケイ子・川原重治郎・藤村他可夫	※7,755	40
第2位	奥州市	佐々木博幸・鈴木ゆかり・菊池 英明・木村 聰	※7,557	35
第3位	久慈市	間 泰勝・中新井田理・皆川 隆夫・大橋 学	※7,555	30
第4位	花巻市	峯崎登美夫・畠福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	※7,468	25
第5位	一関市	菅原 修明・小野寺 章・菅原 里江・菅原 俊江	7,299	20
第6位	大船渡市	佐藤 秀喜・葉澤 秀平・及川 竜也・田代 猛	7,205	15
第7位	陸前高田市	藤井 孝治・佐藤 実・白江 達夫・田代 一宏	7,041	10
第8位	北上市	千葉 恒一・林崎 淑子・伊藤 博志・小國 孝喜	6,914	5

◆盛岡市は、3年ぶり14回目の優勝

●団体戦 町村対抗の部

順位	チーム名	選手名	スコア(36G)	県体得点
第1位	矢巾町	高橋 文和・佐々木敏彦・阿部トミエ・阿部 勝弘	※7,532	40
第2位	零石町	吉田 勝弘・佐野峯英子・大塚 徹・久慈 順子	7,287	35
第3位	岩手町	中村 真一・高橋 良美・四日市 一・丹内 忠	7,183	30
第4位	滝沢村	及川 勝幸・菊地 葵・武田 和宏・沼田 聰	7,148	25
第5位	紫波町	山田 浩幸・中村 慶二・築田 幸司・加藤 典博	6,892	20
第6位	金ヶ崎町	鈴木 薫・菅原 和郎・佐藤 公夫・藤原 将臣	6,763	15
第7位				10
第8位				5

◆矢巾町は3年ぶり11回目の優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	小野寺亮太	盛岡市	※2,063	第1位	丹内 忠	岩手町	1,859
第2位	宇部 健	盛岡市	※1,993	第2位	中村 真一	岩手町	1,829
第3位	菅原 修明	一関市	※1,983	第3位	中新井田理	久慈市	1,822
40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	木村 聰	奥州市	2,020	第1位	佐々木健三	一関市	※2,076
第2位	小笠原 賢	盛岡市	1,968	第2位	田代 猛	大船渡市	※2,043
第3位	高橋 文和	矢巾町	1,957	第3位	久慈 順子	零石町	1,966

○女子選手には1ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※大会新記録

第 59 回 大 会 の 成 績

平成19年7月7日・8日

●団体戦

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
第1位	滝沢村 A	及川 勝幸・菊地 葵・武田 和宏・沼田 聰	※7,772
第2位	盛岡市 A	柄内 秀士・山崎 剛志・小野寺亮太・佐々木和夫	7,608
第3位	花巻市 A	柏原 正勝・藤原 孝至・大平 恵介・伊藤 誠	7,477
第4位	北上市 A	阿部 年彦・佐藤 稔・伊藤 博志・小原 勝弘	7,420
第5位	矢巾町 A	高橋 文和・阿部トミエ・佐々木敏彦・阿部 勝弘	7,400
第6位	奥州市 A	菅原 勝則・佐々木博幸・鈴木ゆかり・木村 聰	7,368
第7位	花巻市 B	城守 和幸・菅野 和郎・薄衣 純一・畠福 孝康	7,264
第8位	盛岡市 B	黒澤 誠・山崎 悟・川原重治郎・小林 恒雄	7,236

※大会新記録

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	小野寺亮太	盛岡市	2,027	第1位	中新井田 理	久慈市	※2,074
第2位	菊地 葵	滝沢村	1,963	第2位	工藤 文彰	盛岡市	1,960
第3位	佐藤 信也	奥州市	1,879	第3位	小原 誠光	花巻市	1,921

※3年連続3回目優勝

※3年ぶり2度目優勝

40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	木村 聰	奥州市	※2,178	第1位	佐々木和夫	盛岡市	2,043
第2位	菊池 史和	遠野市	※2,134	第2位	山田 政行	盛岡市	2,019
第3位	鈴木ゆかり	奥州市	2,086	第3位	丸山 忠夫	盛岡市	1,963

※4年連続4回目優勝

※初優勝

○女子選手には1ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※大会新記録

第 60 回 大 会 の 成 績

平成20年7月12日・13日

●団体戦

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
第1位	奥州市 A	菅原 勝則・高橋 宗康・鈴木ゆかり・木村 聰	※7,795
第2位	盛岡市 A	小笠原由美子・山崎 剛志・山崎 悟・小笠原 賢	7,696
第3位	矢巾町 B	佐々木敏彦・稻垣 讓治・藤原 隆孝・高橋 文和	7,501
第4位	花巻市 A	柏原 正勝・藤原 孝至・大平 恵介・伊藤 誠	7,346
第5位	盛岡市 C	小野寺亮太・村松 春道・大平 洋子・中村 栄治	7,340
第6位	奥州市 B	佐藤 信也・菊池 英明・高橋久美子・佐々木博幸	7,284
第7位	滝沢村 A	及川 勝幸・山本 和行・武田 和宏・沼田 聰	7,283
第8位	一関市 A	千葉 清一・東稻 正子・岩崎 京子・佐々木健三	7,171

※大会新記録

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	山崎 剛志	盛岡市	1,915	第1位	大橋 学	久慈市	※ 1,911
第2位	小野寺亮太	盛岡市	1,914	第2位	中新井田理	久慈市	1,822
第3位	佐藤 信也	奥州市	1,789	第3位	熊谷 良幸	奥州市	1,715

※初優勝

※初優勝

40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	沼田 聰	滝沢村	※ 2,013	第1位	阿部トミエ	矢巾町	※ 2,072
第2位	木村 聰	奥州市	1,970	第2位	中村 栄治	盛岡市	2,053
第3位	山崎 悟	盛岡市	1,928	第3位	藤村他可夫	盛岡市	1,941

※初優勝

※6年ぶり3回目優勝

○女子選手には1ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

第 61 回 大 会 の 成 績

平成21年7月11日・12日

●団体戦

順位	チーム名	選 手 名	スコア(36G)
第1位	盛岡市 C	柄内 秀士・工藤 文彰・山崎 剛志・佐々木和夫	※ 7,489
第2位	盛岡市 B	小笠原由美子・小林 恒雄・大平 洋子・黒澤 誠	7,428
第3位	奥州市 A	佐藤 信也・高橋 宗康・鈴木ゆかり・木村 聰	7,396
第4位	岩手町 A	丹内 忠・中村 真一・助川 公一・山口 忠司	7,287
第5位	滝沢村 A	及川 勝幸・菊地 明美・武田 和宏・沼田 聰	7,255
第6位	盛岡市 A	小野寺亮太・山崎 悟・川原重治郎・小笠原 賢	7,237
第7位	一関市 A	千葉 勇・細川 広章・菅原 里江・千葉 清一	7,218
第8位	盛岡市 D	中村 栄治・小林みち子・藤村他可夫・丸山 忠夫	7,165

※ 3年ぶり、15回目の優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29歳以下				30歳代			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	山崎 剛志	盛岡市	※ 2,041	第1位	阿部 年彦	北上市	※ 1,931
第2位	兼平 彩夏	滝沢村	1,915	第2位	小原 誠光	花巻市	1,752
第3位	小野寺亮太	盛岡市	1,718	第3位	大橋 学	久慈市	1,716

※ 2年連続2回目の優勝

※初優勝

40歳代				50歳以上			
順位	選手名	市町村名	スコア(9G)	順位	選手名	市町村名	スコア(9G)
第1位	鈴木 ゆかり	奥州市	※ 2,006	第1位	佐々木和夫	盛岡市	*2,174
第2位	黒澤 誠	盛岡市	1,997	第2位	千葉 勇	一関市	2,136
第3位	白澤 一成	一関市	1,993	第3位	菅原 国男	紫波町	2,061

※初優勝

※6年ぶり3回目優勝

○ 50歳以上の選手ならびに女子選手には規定によるハンディキャップを含む。



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧(1)

回 数	第1回 昭和49年6月1・2日	第2回 昭和50年6月21・22日	第3回 昭和51年9月25・26日	第4回 昭和52年5月14・15日
会 場	山形県東武ボウル 山形県(山形市)	郡山エンゼルボウル 福島県(郡山市)	白河ナイスボウル 福島県(白河市)	金萬ボウリングセンター 秋田県(秋田市)

■男 子

選手権者	渡辺勝栄 (福島県) 2,371	佐藤三男 (学生連合) 2,400	三上偉二 (秋田県) 2,362	丸尾豊 (福島県) 2,984
4人チーム	佐藤武司 坂正樹 保坂 仲島 (秋田県) 2,318	佐藤義明 板垣嘉明 今野清志 児玉正一 (宮城県) 2,192	山野辺勝 斎藤勝 渡辺照 佐川夫 (福島県) 2,216	菊地春二 橋本健 三藤原堅 (秋田県) 4,557
2人チーム	門間守 渡辺富 (宮城県) 1,175	広江千賀志 小西馨 (学生連合) 1,196	国伊豆昭 藤英寛 (福島県) 1,201	斎藤行豊 丸尾豊 (福島県) 2,364
シングルス	高橋勝生 (福島県) 646	穂入孝吉 (山形県) 637	穂入孝吉 (山形県) 630	
ハイゲーム	鴨博 (福島県) 276	松沢正啓 (学生連合) 277	穂入孝吉 (山形県) 255	長内一男 (青森県) 256
ハイシリーズ	渡辺勝栄 (福島県) 657	松沢正啓 (宮城県) 654	穂入孝吉 (山形県) 630	佐藤武司 (秋田県) 639

■女 子

選手権者	鴨恵子 (福島県) 2,226	鴨恵子 (福島県) 2,169	藁谷圭子 (福島県) 2,178	西村久子 (山形県) 2,765
4人チーム	佐藤ミヨ子 高橋和子 森口知恵子 鴨恵子 (福島県) 2,334	佐藤ミヨ子 高橋和子 森口知恵子 鴨恵子 (福島県) 2,017	藁谷圭子 藤谷浪敬子 森口知恵子 鴨恵子 (福島県) 2,022	渡部康子 西村久子 斎藤勝子 青山登志子 (山形県) 3,893
2人チーム	小西和子 佐藤貞子 (秋田県) 1,049	藤原美樹子 佐藤貞子 (秋田県) 1,121	藁谷圭子 鴨恵子 (福島県) 1,142	一ノ関節子 日景夕キ子 (秋田県) 2,120
シングルス	佐藤啓子 (宮城県) 562	松平トミ (秋田県) 609	藁谷圭子 (福島県) 576	
ハイゲーム	小西和子 (秋田県) 228	藤原美樹子 (秋田県) 243	鴨恵子 (福島県) 255	西村久子 (山形県) 231
ハイシリーズ	鴨恵子 (福島県) 581	藤原美樹子 (秋田県) 624	鴨恵子 (福島県) 624	一ノ関節子 (秋田県) 615



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧(2)

回 数	第5回 昭和53年5月20・21日	第6回 昭和54年6月23・24日	第7回 昭和55年5月24・25日	第8回 昭和56年6月27・28日
会 場	古牧ボウル 青森県(三沢市)	ナイスボウル 宮城県(仙台市)	常磐セントラルボウル 福島県(いわき市)	古牧ボウル 青森県(三沢市)

■男子

選手権者	大友節夫(宮城県) 1,810	松沢正啓(宮城県) 1,837	猪又秀雄(宮城県) 1,754	留目勲(青森県) 1,744
4人チーム	猪又秀雄 大友節夫 佐藤真 高橋秀一 (宮城県) 4,442	猪又秀雄 大友節夫 松沢正啓 高橋秀一 (宮城県) 4,344	高橋勝生 鎌田幸博 山野辺豊 渡辺勝栄 (福島県) 4,370	幸林周逸 今作治郎 山西照雄 谷地忠秋 (青森県) 4,445
2人チーム	久保尚士 幸林周逸 (青森県) 2,360	渡辺雅司 赤間義彦 (宮城県) 2,300	山野辺豊 渡辺勝栄 (福島県) 2,311	高橋博 会田淳 (山形県) 2,533
ハイゲーム	佐藤武文(宮城県) 244	千葉明彦(岩手県) 253	山本寛男(青森県) 257	会田淳(山形県) 267
ハイシリーズ	丸尾豊(福島県) 635	菅野力(福島県) 648	難波猛(山形県) 689	高橋博(山形県) 695

■女子

選手権者	一ノ関節子(秋田県) 1,585	鴨恵子(福島県) 1,703	鴨恵子(福島県) 1,596	片桐俊子(山形県) 1,550
4人チーム	一ノ関節子 伊藤朋子 石上好子 伊藤良子 (秋田県) 4,041	一ノ関節子 伊藤朋子 藤原美樹子 伊藤良子 (秋田県) 4,053	橋本洋子 御代恵美子 佐藤みさお 鴨恵子 (福島県) 3,926	柳田君子 森口知恵子 太田フク子 鴨恵子 (福島県) 3,769
2人チーム	鴨恵子 藤浪敬子 (福島県) 2,078	一ノ関節子 伊藤朋子 (秋田県) 2,103	御代恵美子 鴨恵子 (福島県) 1,991	伊藤良子 佐藤加代子 (秋田県) 2,143
ハイゲーム	鴨恵子(福島県) 228	藤原美樹子(秋田県) 226	伊藤良子(秋田県) 230	佐藤加代子(秋田県) 243
ハイシリーズ	伊藤朋子(秋田県) 568	一ノ関節子(秋田県) 565	久慈順子(岩手県) 582	佐藤加代子(秋田県) 586

■男子シニア

選手権者				伊藤照三(秋田県) 1,684
4人チーム				豊川善太郎 工藤賢一 柏木勇 中村明秀 (青森県) 4,033
2人チーム				根本清 鴨博 (福島県) 2,360
ハイゲーム				鴨博(福島県) 254
ハイシリーズ				工藤賢一(青森県) 625



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧(3)

回 数	第9回 昭和57年6月26・27日	第10回 昭和58年6月18・19日	第11回 昭和59年6月16・17日	第12回 昭和60年8月24・25日
会 場	ダイマツボウル 福島県(白河市)	多賀城スターレーン 宮城県(多賀城市)	ベルプラザスーパーレーン 岩手県(盛岡市)	青森ボウリングセンター 青森県(青森市)

■男子

選手権者	斎藤勝行(福島県) 1,822	小泉豊美(青森県) 1,863	熊谷芳行(山形県) 1,888	長内一男(青森県) 1,869
4人チーム	高木茂雄 山野辺豊 斎藤勝行 渡辺勝栄 (福島県) 4,511	元木大二 佐藤武文 小野米治 結城一志 (宮城県) 4,583	高橋正男 黒沢紀美男 伊藤親弘 佐藤浩之 (宮城県) 4,699	武内正寿 小林一夫 渡辺兵次 浅野敏栄 (福島県) 4,722
2人チーム	伊豆田一二 会田淳 (山形県) 2,368	元木大二 佐藤武文 (宮城県) 2,361	佐藤捷利 菅原友民 (秋田県) 2,386	前本隆 片川秀雄 (青森県) 2,402
ハイゲーム	佐藤義明(岩手県) 268	幸林周逸(青森県) 268	黒沢紀美男(宮城県) 277	三浦暢明(青森県) 257
ハイシリーズ	佐藤義明(岩手県) 724	佐々木能道(秋田県) 658	菅原友民(秋田県) 694	佐藤浩之(宮城県) 696

■女子

選手権者	伊藤良子(秋田県) 1,701	片桐俊子(山形県) 1,650	鴨恵子(福島県) 1,758	久慈順子(岩手県) 1,875
4人チーム	橋本洋子 森口知恵子 柳田君子 鴨恵子 (福島県) 4,044	橋本洋子 柳田君子 御代恵美子 鴨恵子 (福島県) 4,059	御代恵美子 柳田君子 井上恵子 鴨恵子 (福島県) 4,261	小笠原ケイ子 金野力ナ子 熊谷礼子 久慈順子 (岩手県) 4,171
2人チーム	熊谷礼子 久慈順子 (岩手県) 2,132	鴨恵子 御代恵美子 (福島県) 2,208	柳田君子 井上恵子 (福島県) 2,200	木村芳美 松浦美恵 (青森県) 2,183
ハイゲーム	熊谷礼子(岩手県) 237	樋口照子(青森県) 247	間山洋子(青森県) 234	渡辺きよみ(宮城県) 243
ハイシリーズ	佐藤ミヨ(福島県) 575	片桐俊子(山形県) 632	御代恵美子(福島県) 586	伊藤良子(秋田県) 640

■男子シニア

選手権者	菅原醇(山形県) 1,625	鈴木三郎(福島県) 1,737	佐々木成造(秋田県) 1,775	丸山忠夫(岩手県) 1,842
4人チーム	佐藤昭四郎 小坂栄一 浅見国松 伊藤昭三 (秋田県) 4,132	佐藤昭四郎 佐々木成造 伝野与三郎 伊藤照三 (秋田県) 4,339	佐々木成造 斎藤勝治 浅見国松 古谷亥太郎 (秋田県) 4,548	梅田清人 小松伝治 中根正吉 北川次郎 (宮城県) 4,540
2人チーム	根本清 鴨博 (福島県) 2,520	畠山幸一 北川次郎 (宮城県) 2,322	佐々木成造 浅見国松 (秋田県) 2,286	佐藤義明 丸山忠夫 (岩手県) 2,277
ハイゲーム	根本清(福島県) 267	佐藤勝太郎(秋田県) 267	菅谷勝也(秋田県) 234	佐々木成造(秋田県) 262
ハイシリーズ	根本清(福島県) 618	安野鉄雄(山形県) 634	佐々木成造(秋田県) 646	梅田清人(宮城県) 667



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧 (4)

回 数	第13回 昭和61年10月25・26日	第14回 昭和62年10月24・25日	第15回 昭和63年10月15・16日	第16回 平成元年10月7・8日
会 場	ダイマツボウル 福島県(郡山市)	山形ファミリーボウル 山形県(山形市)	多賀城スターレーン 宮城県(多賀城市)	三沢ボウル 青森県(三沢市)

■男 子

選手権者	三輪正啓 (宮城県) 1,886	三輪正啓 (宮城県) 1,845	三輪正啓 (宮城県) 1,879	高木茂雄 (福島県) 1,901
4人チーム	沢井栄八 広江千賀志 浜名亨 浅野敏栄 (福島県) 4,677	千葉誠 阿部誠 三輪正啓 赤間義彦 (宮城県) 4,630	三輪正啓 阿部誠 遠藤欣二 木昌之 (宮城県) 4,662	鈴木昌之 島松三輪正啓 赤間義彦 (宮城県) 4,784
2人チーム	三輪正啓 赤間義彦 (宮城県) 2,519	黒田仙雄 沼沢真一 (山形県) 2,398	幸林周逸 対馬拓 (青森県) 2,426	渡部伸一 小林力 (山形県) 2,357
ハイゲーム	赤間義彦(宮城県) 児玉正一(宮城県) 久保尚士(青森県) 258	阿部誠 (宮城県) 259	佐藤武司 (秋田県) 266	三輪正啓 (宮城県) 279
ハイシリーズ	三輪正啓 (宮城県) 688	三輪正啓 (宮城県) 676	浅野敏栄 (福島県) 651	松島誠 (宮城県) 684

■女 子

選手権者	藁谷圭子 (福島県) 1,584	久慈順子 (岩手県) 1,651	我妻みきえ (青森県) 1,650	久慈順子 (岩手県) 1,799
4人チーム	鴨鈴木智子 藁谷圭子 井上政子 (福島県) 4,112	鈴木智子 藁谷圭子 橋本洋子 鴨恵子 (福島県) 4,158	小野寺洋子 小笠原ケイ子 熊谷礼子 久慈順子 (岩手県) 4,277	藤村真由美 我妻みきえ 郡場幸子 宮腰行子 (青森県) 4,274
2人チーム	鴨井上政子 (福島県) 2,171	熊谷礼子 久慈順子 (岩手県) 2,167	富樫宣子 今野美代子 (山形県) 2,291	一ノ関節子 日景夕キ子 (秋田県) 2,182
ハイゲーム	久慈順子 (岩手県) 246	貝山智子 (宮城県) 222	小野寺洋子 (岩手県) 236	一ノ関節子 (秋田県) 240
ハイシリーズ	久慈順子 (岩手県) 634	木村好由 (青森県) 583	小野寺洋子 (岩手県) 627	西村久子 (山形県) 659



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧(5)

回 数	第17回 平成2年10月6・7日	第18回 平成3年10月5・6日	第19回 平成4年10月3・4日	第20回 平成5年10月2・3日
会 場	ピッグハウススパーレーン 岩手県(盛岡市)	金萬ボウリングセンター 秋田県(秋田市)	金萬ボウリングセンター 秋田県(秋田市)	多賀城スタークレーン 宮城県(多賀城市)

■男 子

選手権者	川原重治郎 (岩手県) 1,996	赤間義彦 (宮城県) 1,829	久保尚士 (青森県) 1,754	三輪正啓 (宮城県) 2,006
4人チーム	手島利行 三輪正啓 松島誠 赤間義彦 (宮城県) 4,824	三輪正啓 渡辺雅司 松島誠 赤間義彦 (宮城県) 4,667	三輪正啓 渡辺雅司 松島誠 赤間義彦 (宮城県) 4,647	三輪正啓 渡辺雅司 松島誠 赤間義彦 (宮城県) 5,108
2人チーム	斎藤千代久 山本治男 (青森県) 2,590	小林操 小泉豊美 (青森県) 2,434	斎藤三郎 佐藤安広 (山形県) 2,367	滝沢豊和 小林力 (山形県) 2,659
ハイゲーム	渡辺雅司 (宮城県) 300	武内正寿 (宮城県) 267	今田純一 (青森県) 258	久保尚士 (青森県) 300
ハイシリーズ	赤間義彦(宮城県) 斎藤純(山形県) 719	小泉豊美 (青森県) 694	高橋良夫 (山形県) 653	久保尚士 (青森県) 729

■女 子

選手権者	久慈順子 (岩手県) 1,897	藤村真由美 (青森県) 1,669	鈴木智子 (福島県) 1,714	澤田順子 (宮城県) 1,783
4人チーム	鈴木智子 鈴木英子 井上恵子 渡辺きよみ (福島県) 4,527	北村ツガ子 武田京子 石井祥子 桂田久美子 (秋田県) 4,217	藤村真由美 鳥谷部エイ子 我妻みきえ 郡場幸子 (青森県) 4,314	鈴木由記子 澤田順子 吉田千佳子 辻千代子 (宮城県) 4,425
2人チーム	三浦巳代子 後藤秀子 (岩手県) 2,250	藤村真由美 鳥谷部エイ子 (青森県) 2,301	鳥谷部エイ子 藤村真由美 (青森県) 2,216	小野久美子 北村ツガ子 (秋田県) 2,290
ハイゲーム	久慈順子 (岩手県) 249	久慈順子 (岩手県) 241	藤村真由美 (青森県) 240	北村ツガ子 (秋田県) 251
ハイシリーズ	今野美代子 (山形県) 633	久慈順子 (岩手県) 659	藤村真由美 (青森県) 629	鈴木由記子 (宮城県) 642



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧 (6)

回 数	第21回 平成6年10月15・16日	第22回 平成7年10月14・15日	第23回 平成8年9月28・29日	第24回 平成9年11月15・16日
会 場	山形ファミリーボウル 山形県(山形市)	アオモリボウル 青森県(青森市)	ダイマツボウル 福島県(郡山市)	多賀城スターレーン 宮城県(多賀城市)

■男 子

選手権者	三輪正啓 (宮城県) 2,107	三輪正啓 (宮城県) 2,067	久保尚士 (青森県) 2,098	黒田仙雄 (山形県) 2,056
4人チーム	滝沢豊和 黒田仙雄 小林力 五十嵐賢一 (山形県) 5,283	手島利行 島木昌之 三輪正啓 島島誠 (宮城県) 5,074	氣下田勝弘 田昭博 崎則光 今田純一 (青森県) 5,074	手島利行 島木昌之 三輪正啓 赤間義彦 (宮城県) 5,092
2人チーム	三輪正啓 松島誠 (宮城県) 2,745	三輪正啓 松島誠 (宮城県) 2,715	中田明雄 高木茂雄 (福島県) 2,593	三輪正啓 赤間義彦 (宮城県) 2,537
ハイゲーム	五十嵐賢一 (山形県) 290	工藤精一郎 (青森県) 279	吉田卓 (学生連合) 298	伊藤丈 (福島県) 277
ハイシリーズ	下田昭博 (青森県) 754	三輪正啓 (宮城県) 750	河野通和 (学生連合) 757	手島利行 (宮城県) 740

■女 子

選手権者	鈴木由記子 (宮城県) 1,862	布施尚美 (宮城県) 1,830	澤田順子 (宮城県) 1,823	小野久美子 (秋田県) 1,745
4人チーム	鈴木由記子 吉田千佳子 澤田順子 辻千代子 (宮城県) 4,583	鈴木英子 鈴木智子 渡辺きよみ 柳沼妙子 (福島県) 4,477	鈴木由記子 澤田順子 吉田千佳子 笠森玲子 (宮城県) 4,811	鈴木由記子 澤田順子 吉田千佳子 笠森玲子 (宮城県) 4,576
2人チーム	鈴木由記子 辻千代子 (宮城県) 2,355	布施尚美 笠森玲子 (宮城県) 2,267	畠山由美子 久慈順子 (岩手県) 2,310	吉田千佳子 笠森玲子 (宮城県) 2,372
ハイゲーム	久慈順子 (岩手県) 254	鈴木英子 (福島県) 266	吉田千佳子 (宮城県) 258	鈴木英子 (福島県) 253
ハイシリーズ	久慈順子 (岩手県) 652	鈴木英子 (福島県) 673	吉田千佳子 (宮城県) 704	吉田千佳子 (宮城県) 670



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧 (7)

回 数	第25回 平成10年11月21・23日	第26回 平成11年11月20・21日	第27回 平成12年11月25・26日	第28回 平成13年11月17・18日
会 場	台由ボウル 秋田県(横手市)	ビッグハウススーパーーレーン 岩手県(盛岡市)	山形ファミリーボウル 山形県(山形市)	アオモリボウル 青森県(青森市)

■男 子

選手権者	黒田仙雄 (山形県) 2,065	手島利行 (宮城県) 2,058	木村聰 (岩手県) 2,012	三輪正啓 (宮城県) 2,002
4人チーム	手島利行 鈴木昌之 三輪正啓 赤間義彦 (宮城県) 5,102	下田昭博 葛西美智雄 小林操 小松井裕之 (青森県) 5,015	藤井希成 津川優 平塚太朗 柿崎秀夫 (秋田県) 5,041	早坂文英 平木亮平 早坂友伸 高橋健 (宮城県) 5,240
2人チーム	高橋宗義 阿部勝弘 (岩手県) 2,671	手島利行 三輪正啓 (宮城県) 2,505	小笠原賢 木村聰 (岩手県) 2,645	手島利行 三輪正啓 (宮城県) 2,597
ハイゲーム	鈴木昌之 (宮城県) 278	手島利行(宮城県) 黒田仙雄(山形県) 268	津川優 (秋田県) 278	早坂文英 (宮城県) 287
ハイシリーズ	早坂友伸 (宮城県) 742	黒田仙雄 (山形県) 741	斎藤孝志 (山形県) 771	松井裕之(青森県) 佐々木昭夫(福島県) 785

■女 子

選手権者	小笠原由美子 (岩手県) 1,776	久慈順子 (岩手県) 1,812	鳥谷部エイ子 (青森県) 2,020	松坂真由美 (宮城県) 1,924
4人チーム	後藤恵 小野久美子 河田アサ子 北村ツガ子 (秋田県) 4,559	橋本好子 室井めぐみ 白岩優子 鈴木英子 (福島県) 4,473	早坂よう子 手島由美 松坂真由美 鈴木由記子 (宮城県) 4,873	早坂よう子 手島由美 松坂真由美 鈴木由記子 (宮城県) 4,419
2人チーム	片岡敦子 鳥谷部エイ子 (青森県) 2,362	小笠原由美子 久慈順子 (岩手県) 2,345	蝦名純子 鳥谷部エイ子 (青森県) 2,501	小島多恵子 鳥谷部エイ子 (青森県) 2,322
ハイゲーム	鈴木英子 (福島県) 274	佐藤結香 (岩手県) 244	鳥谷部エイ子 (青森県) 279	鳥谷部エイ子 (青森県) 253
ハイシリーズ	澤田順子 (宮城県) 692	佐藤結香 (岩手県) 651	早坂よう子 (宮城県) 707	鳥谷部エイ子 (青森県) 707



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧 (8)

回 数	第29回 平成14年11月21・22日	第30回 平成15年11月20・21日	第31回 平成16年10月16・17日	第32回 平成17年11月26・27日
会 場	ダイマツボウル 福島県(郡山市)	多賀城スタークーン 宮城県(多賀城市)	台由ボウル 秋田県(横手市)	山形ファミリーボウル 山形県(山形市)

■男 子

選手権者	鈴木昌之 (宮城県) 2,038	中田明 (福島県) 2,082	三輪正啓 (宮城県) 2,047	伊藤丈 (福島県) 2,149
4人チーム	鈴木大介 鈴木昌之 手島利行 三輪正啓 (宮城県) 5,168	村上齊 木村聰 沼田聰 佐々木和夫 (岩手県) 5,149	伊藤丈 林勇介 浅野敏栄 中田明 (福島県) 5,167	鈴木大介 石塚知明 松尾弘幸 梅澤雅史 (学生連合) 5,269
2人チーム	千葉達也 高橋健 (宮城県) 2,732	手島利行 三輪正啓 (宮城県) 2,870	相田祐樹 斎藤孝志 (山形県) 2,665	林勇介 浅野敏栄 (福島県) 2,531
ハイゲーム	黒田仙雄 (山形県) 278	手島利行 (宮城県) 290	手島利行(宮城県) 中田明(福島県) 279	早坂友伸 (宮城県) 285
ハイシリーズ	早坂友伸 (宮城県) 771	中田明 (福島県) 785	中田明 (福島県) 772	伊藤丈 (福島県) 755

■女 子

選手権者	鈴木英子 (福島県) 1,757	佐藤多美 (山形県) 1,896	佐藤まさみ (学生連合) 1,978	石塚香織 (福島県) 1,942
4人チーム	小林佐登美 藤田玲 松橋裕美 鳥谷部エイ子 (青森県) 4,548	蝦名純子 鳥谷部エイ子 小林佐登美 寺澤裕美子 (青森県) 4,697	河原麻由 河原麻衣 松本祥子 鈴木由記子 (宮城県) 4,822	古堅葉月 古菊池愛 佐藤まさみ 和田京美 (学生連合) 4,695
2人チーム	河原麻由 鈴木由記子 (宮城県) 2,271	河原麻由 鈴木由記子 (宮城県) 2,567	古堅葉月 古菊池愛 (学生連合) 2,546	河原麻由 河原麻衣 (宮城県) 2,352
ハイゲーム	鳥谷部エイ子 (青森県) 253	千葉久恵 (秋田県) 259	菊池愛 (学生連合) 268	河原麻由 (宮城県) 267
ハイシリーズ	小林佐登美 (青森県) 645	千葉久恵 (秋田県) 703	菊池愛 (学生連合) 700	和田京美 (学生連合) 689



東北ボウリング選手権大会



栄光の記録・歴代優勝者一覧(9)

回 数	第33回 平成18年10月28・29日	第34回 平成19年10月27・28日	第35回 平成20年11月8・9日	第36回 平成 年 月 ・ 日
会 場	ビッグハウススーパーーン 岩手県(盛岡市)	ワヤマボウル八戸 青森県(八戸市)	ボウルアピア郡山 福島県(郡山市)	

■男 子

選手権者	三輪正啓 (宮城県) 2,074	手島利行 (宮城県) 2,021	鈴木大介 (宮城県) 2,114	(県)
4人チーム	早坂文英 早坂友伸 佐藤高章 三輪正啓 (宮城県) 5,212	木村聰 佐々木和夫 千葉勇志 山崎剛志 (岩手県) 5,145	林勇介 中田明彦 角田彦丈 伊藤丈 (福島県) 5,178	(県)
2人チーム	佐藤高章 三輪正啓 (宮城県) 2,632	林勇介 中田明 (福島県) 2,630	遠藤充朗 遠藤嘉幸 (福島県) 2,716	(県)
ハイゲーム	伊藤丈 (福島県) 300	工藤文彰 (岩手県) 290	相馬敏行 (宮城県) 279	(県)
ハイシリーズ	早坂友伸 (宮城県) 792	村上齊 (宮城県) 767	相馬敏行 (宮城県) 805	(県)

■女 子

選手権者	河原麻由 (宮城県) 1,904	大石奈緒 (山形県) 2,071	早坂よう子 (宮城県) 1,802	(県)
4人チーム	和田京美 蝦名純子 鳥谷部エイ子 小林佐登美 (青森県) 4,777	河原麻由 岩本梨沙 河原麻衣 鈴木由記子 (宮城県) 4,961	桑原のぶ 遠藤明日香 松本祥子 澤田順子 (宮城県) 4,739	(県)
2人チーム	半田彩子 佐藤由佳子 (秋田県) 2,413	岩本梨沙 鈴木由記子 (宮城県) 2,446	岩本梨沙 鈴木由記子 (宮城県) 2,438	(県)
ハイゲーム	大石奈緒 (山形県) 277	斎藤忍 (青森県) 298	鈴木由記子 (宮城県) 275	(県)
ハイシリーズ	大石奈緒 (山形県) 761	大石奈緒 (山形県) 759	鈴木由記子 (宮城県) 710	(県)

東北総合体育大会の成績

総合記録

栄光の記録 (1)

回	開催地	成績	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
第14回	秋田県(ボウリング初参加) 金萬ボウリングセンター S62.8.22~23(秋田市)	順位 得点	5 68.0	4 93.0	3 98.0	2 99.0	1 104.0	6 65.0
第15回	福島県 ダイマツボウル S63.7.23~24(郡山市)	順位 得点	1 102.0	4 82.0	5 80.0	2 100.0	6 77.0	3 90.0
第16回	宮城県 多賀城スタークーン H1.7.22~23(多賀城市)	順位 得点	2 92.5	4 80.0	1 111.5	6 74.0	3 89.5	5 79.5
第17回	山形県 山形ファミリー・ボウル H2.7.28~29(山形市)	順位 得点	2 98.0	4 79.0	3 91.0	5 78.0	1 107.0	6 75.0
第18回	青森県 ワヤマボウル八戸 H3.7.20~21(八戸市)	順位 得点	3 97.0	4 71.0	2 106.5	6 62.5	1 117.0	5 67.0
第19回	岩手県 ビッグハウススーパーレーン H4.7.18~19(盛岡市)	順位 得点	3 94.0	5 74.0	2 99.0	6 65.0	1 107.0	4 89.0
第20回	福島県 ダイマツボウル H5.7.10~11(郡山市)	順位 得点	6 73.0	4 75.0	2 101.0	5 74.0	1 114.0	3 94.0
第21回	宮城県 多賀城スタークーン H6.7.16~17(多賀城市)	順位 得点	5 80.0	4 87.0	2 100.0	6 76.0	3 88.0	1 103.0
第22回	秋田県 横手台由ボウル H7.7.15~16(横手市)	順位 得点	5 75.0	3 91.0	2 103.0	6 70.0	4 82.0	1 113.0
第23回	山形県 山形ファミリー・ボウル H8.7.20~21(山形市)	順位 得点	2 93.0	5 68.0	3 75.0	6 47.0	1 103.0	3 75.0
第24回	青森県 ゆりの木ボウル H9.7.19~20(八戸市)	順位 得点	4 77.5	6 66.5	5 75.0	3 78.0	1 89.0	2 8.02
第25回	岩手県 ビッグハウススーパーレーン H10.7.18~19(盛岡市)	順位 得点	4 76.0	5 67.0	1 94.0	6 63.0	2 85.0	3 83.0
第26回	宮城県 多賀城スタークーン H11.7.17~18(多賀城市)	順位 得点	5 72.0	3 83.0	2 88.0	6 57.0	1 93.0	4 75.0
第27回	秋田県 金萬ボウリングセンター H12.7.15~16(秋田市)	順位 得点	4 78.0	5 77.5	1 85.5	6 64.0	3 78.5	2 84.5
第28回	福島県 ダイマツボウル H13.7.14~15(郡山市)	順位 得点	4 75.0	5 62.0	1 106.0	6 47.0	3 80.0	2 98.0
第29回	山形県 山形ファミリー・ボウル H14.7.12~14(山形市)	順位 得点	4 72.0	5 70.0	1 98.0	6 58.0	3 82.0	2 88.0
第30回	青森県 イーストボウル H15.7.18~20(青森市)	順位 得点	1 146.5	6 88.5	2 145.5	4 117.5	5 100.5	3 133.5
第31回	岩手県 ビッグハウススーパーレーン H16.7.16~18(盛岡市)	順位 得点	2 130.0	5 104.0	3 121.0	4 113.5	6 104.0	1 159.5
第32回	秋田県 横手台由ボウル H17.7.15~17(横手市)	順位 得点	3 126.0	5 111.0	2 139.0	4 115.0	6 101.0	1 140.0
第33回	宮城県 勝山ボウリングクラブ H18.7.15~17(仙台市)	順位 得点	3 119.0	6 100.0	4 118.0	5 116.0	2 131.0	1 148.0
第34回	福島県 ボウルアピア郡山 H19.7.21~22(郡山市)	順位 得点	4 112.0	6 92.0	2 137.0	5 104.0	3 119.0	1 168.0
第35回	山形県 山形ファミリー・ボウル H20.7.18~20(山形市)	順位 得点	2 145.0	5 109.5	3 128.0	4 121.0	6 107.0	1 145.5
第36回	青森県 アオモリボウル H21.7.3~5(青森市)	順位 得点	2 132.0	4 117.0	1 167.5	4 117.0	3 123.0	6 99.5

栄光の記録(2)

成年男子

第13回	団体戦第1位	青森県 (三浦 暁明・韋山 勝利・山本 寛男・幸林 周逸) 7,106					
	個人戦第1位	29歳以下 遠藤 欣次 (宮城県) 1,847	30歳代 三輪 正啓 (宮城県) 1,862				
第14回	団体戦第1位	40歳代 山本 寛男 (青森県) 1,875	50歳以上 幸林 周逸 (青森県) 1,850				
	個人戦第1位	2部 千葉 誠 (宮城県) 1,747					
第15回	団体戦第1位	秋田県 (日景 徳文・中川 正仁・高橋 巍・佐藤勝太郎) 7,106					
	個人戦第1位	29歳以下 小林 力 (山形県) 1,699	30歳代 柳田 靖夫 (宮城県) 1,785				
第16回	団体戦第1位	40歳代 島廻 敏夫 (岩手県) 1,691	50歳以上 佐藤 義明 (岩手県) 1,664				
	個人戦第1位	2部 斎藤千代久 (青森県) 1,656					
第17回	団体戦第1位	青森県 (今田 純一・対馬 拓・斎藤千代久・幸林 周逸) 6,999					
	個人戦第1位	29歳以下 今田 純一 (青森県) 1,727	30歳代 対馬 拓 (青森県) 1,745				
第18回	団体戦第1位	40歳代 佐藤 捷利 (秋田県) 1,750	50歳以上 幸林 周逸 (青森県) 1,724				
	個人戦第1位	2部 安部 一郎 (秋田県) 1,682					
第19回	団体戦第1位	青森県 (井福 徹・松井 裕之・斎藤千代久・幸林 周逸) 6,852					
	個人戦第1位	29歳以下 原 浩二 (宮城県) 1,784	30歳代 松井 裕之 (青森県) 1,806				
第20回	団体戦第1位	40歳代 柴田 健治 (宮城県) 1,833	50歳以上 石上 勝 (福島県) 1,786				
	個人戦第1位	2部 菅原 充 (宮城県) 1,799					
第21回	団体戦第1位	福島県 (菅原 芳則・中田 明・竹内 正寿・田山 満) 7,031					
	個人戦第1位	29歳以下 小原 修 (秋田県) 1,739	30歳代 中田 明 (福島県) 1,895				
第22回	団体戦第1位	40歳代 斎藤千代久 (青森県) 1,900	50歳以上 丸山 忠夫 (岩手県) 1,848				
	個人戦第1位	2部 佐々木能道 (秋田県) 1,880					
第23回	団体戦第1位	青森県 (鰐田 悟・松井 裕之・小泉 豊美・幸林 周逸) 7,505					
	個人戦第1位	29歳以下 新目 巍 (山形県) 1,792	30歳代 松井 裕之 (青森県) 1,941				
第24回	団体戦第1位	40歳代 松島 誠 (宮城県) 2,006	50歳以上 幸林 周逸 (青森県) 1,821				
	個人戦第1位	2部 渡辺 雅司 (宮城県) 1,966					
第25回	団体戦第1位	山形県 (新目 巍・板垣 孔之・五十嵐賢一・石塚 賢二) 7,272					
	個人戦第1位	29歳以下 新目 巍 (山形県) 1,910	30歳代 中田 明 (福島県) 1,836				
第26回	団体戦第1位	40歳代 五十嵐賢一 (山形県) 1,992	50歳以上 鈴木 三郎 (福島県) 1,881				
	個人戦第1位	2部 須藤 真宏 (山形県) 1,880					
第27回	団体戦第1位	宮城県 (中條 桂一・手島 利行・松島 誠・木村 益次) 6,805					
	個人戦第1位	29歳以下 新目 巍 (山形県) 1,892	30歳代 手島 利行 (宮城県) 1,831				
第28回	団体戦第1位	40歳代 五十嵐賢一 (山形県) 1,876	50歳以上 吉見 幹夫 (青森県) 1,709				
	個人戦第1位	2部 原 清文 (山形県) 1,626					
第29回	団体戦第1位	宮城県 (佐々木生文・手島 利行・松島 誠・木村 益次) 7,415					
	個人戦第1位	29歳以下 角田 照彦 (福島県) 1,902	30歳代 三浦 暁明 (青森県) 1,889				
第30回	団体戦第1位	40歳代 佐藤 安広 (山形県) 1,953	50歳以上 丸山 忠夫 (岩手県) 1,800				
	個人戦第1位	2部 茂泉 敏明 (宮城県) 1,895					
第31回	団体戦第1位	岩手県 (工藤 文彰・木村 聰・川原重治郎・吉田 優) 4,985					
	個人戦第1位	ユース 伊藤 丈 (福島県) 1,182	ミドル 板垣 孔之 (山形県) 1,246				
第32回	団体戦第1位	ハイミドル 松島 誠 (宮城県) 1,214	マスターズ 木村 益夫 (宮城県) 1,250				
	個人戦第1位	2部 高橋 健 (宮城県) 1,305					
第33回	団体戦第1位	山形県 (黒川 義久・黒田 仙夫・五十嵐賢一・石塚 賢二) 4,880					
	個人戦第1位	ユース 伊藤 丈 (福島県) 1,383	ミドル 黒田 仙雄 (山形県) 1,318				
第34回	団体戦第1位	ハイミドル 松島 誠 (宮城県) 1,400	マスターズ 藤村他可夫 (岩手県) 1,171				
	個人戦第1位						
第35回	団体戦第1位	青森県 (成田 慎・下田 昭博・松井 裕之・佐々木誠二) 4,990					
	個人戦第1位	ユース 茂泉 敏明 (宮城県) 1,349	ミドル 宗像 邦勝 (福島県) 1,228				
第36回	団体戦第1位	ハイミドル 高橋 洋二 (秋田県) 1,332	マスターズ 佐々木和夫 (岩手県) 1,189				
	個人戦第1位						
第37回	団体戦第1位	福島県 (末永 隆夫・角田 照彦・高木 茂雄・渡辺 兵次) 4,798					
	個人戦第1位	ユース 沖田 真一 (山形県) 1,291	ミドル 角田 照彦 (福島県) 1,244				
第38回	団体戦第1位	ハイミドル 高木 茂雄 (福島県) 1,278	マスターズ 渡辺 兵次 (福島県) 1,281				
	個人戦第1位						
第39回	団体戦第1位	福島県 (佐藤 豊・角田 照彦・高木 茂雄・浅野 敏栄) 5,189					
	個人戦第1位	ユース 村上 斎 (岩手県) 1,222	ミドル 菊池 直人 (宮城県) 1,232				
第40回	団体戦第1位	ハイミドル 高木 茂雄 (福島県) 1,308	マスターズ 浅野 敏栄 (福島県) 1,356				
	個人戦第1位						
第41回	団体戦第1位	福島県 (伊藤 丈・角田 照彦・中田 明・浅野 敏栄) 5,108					
	個人戦第1位	ユース 鷹野 哲也 (山形県) 1,251	ミドル 斎藤 孝志 (山形県) 1,249				
第42回	団体戦第1位	ハイミドル 小林 力 (山形県) 1,365	マスターズ 佐々木和夫 (岩手県) 1,326				
	個人戦第1位						

第28回	団体戦第1位	福島県 (伊藤 丈・角田 照彦・中田 明・浅野 敏栄)	5,488
	個人戦第1位	ユース 伊藤 丈 (福島県) 1,334 ハイミドル 三輪 正啓 (宮城県) 1,428	ミドル 角田 照彦 (福島県) 1,428 マスターズ 石塚 賢二 (山形県) 1,284
第29回	団体戦第1位	福島県 (伊藤 丈・高野 征弘・中田 明・浅野 敏栄)	4,927
	個人戦第1位	ユース 高橋 健 (宮城県) 1,392 ハイミドル 中田 明 (福島県) 1,370	ミドル 下田 昭博 (青森県) 1,321 マスターズ 高橋 巍 (秋田県) 1,194
第30回	団体戦第1位	福島県 (伊藤 丈・角田 照彦・中田 明・浅野 敏栄)	4,765
	個人戦第1位	ユース 鈴木 大介 (宮城県) 1,168 ハイミドル 新山 勝男 (青森県) 1,393	ミドル 斎藤 孝志 (山形県) 1,255 マスターズ 高橋 巍 (秋田県) 1,224
第31回	団体戦第1位	山形県 (大瀧 義智・斎藤 孝志・高橋 仁・佐藤 弘)	5,225
	個人戦第1位	ユース 伊藤 丈 (福島県) 1,346 ハイミドル 小笠原 賢 (岩手県) 1,326	ミドル 角田 照彦 (福島県) 1,374 マスターズ 久保 尚士 (青森県) 1,394
第32回	団体戦第1位	青森県 (葛西 貴之・田中 真英・藤森 俊彦・久保 尚士)	5,221
	個人戦第1位	ユース 高橋 健 (宮城県) 1,275 ハイミドル 藤森 俊彦 (青森県) 1,371	ミドル 佐藤 博也 (秋田県) 1,297 マスターズ 垣内 泰 (福島県) 1,382
第33回	団体戦第1位	山形県 (相田 祐樹・阿部 龍也・斎藤 孝志・五十嵐賢一)	5,035
	個人戦第1位	ユース 相田 祐樹 (山形県) 1,290 ハイミドル 五十嵐正一 (福島県) 1,354	ミドル 阿部 龍也 (山形県) 1,266 マスターズ 中田 明 (福島県) 1,301
第34回	団体戦第1位	福島県 (大塚 正・伊藤 丈・五十嵐正一・中田 明)	5,149
	個人戦第1位	ユース 相田 祐樹 (山形県) 1,326 ハイミドル 手島 利行 (宮城県) 1,383	ミドル 阿部 龍也 (山形県) 1,275 マスターズ 高橋 巍 (秋田県) 1,327
第35回	団体戦 2人チーム	青森県 (藤森 達・藤森 俊彦)	2,510
	4人チーム	秋田県 (櫻田 大喜・藤田 一春・伊藤 守・落合 長行)	2,440
	個人戦第1位	福島県 (中田 明)	1,472
第36回	団体戦 2人チーム	青森県 (小鹿 大樹・花田正史)	2,679
	4人チーム	岩手県 (工藤文彰・菅原修明・沼田 聰・木村 聰)	2,586
	個人戦第1位	岩手県 (木村 聰)	1,377

男子最高記録

【成年男子】 ※第35回大会以降の成績（年令区分の廃止による。）

団体戦	2人チーム	青森県 (小鹿大樹・花田正史) 第36回 (平成21年・青森県・アオモリボウル)	2,679点
	4人チーム	岩手県 (工藤文彰・菅原修明・沼田 聰・木村 聰) 第36回 (平成21年・青森県・アオモリボウル)	2,586点
	個人戦	福島県 (中田 明) 第35回 (平成20年・山形県・山形ファミリーボウル)	1,472点

【少年男子】 ※第13回大会以降の成績

団体戦	青森県 (工藤 壽紀・工藤純一郎) 第36回 (平成21年・青森県・アオモリボウル)	2,737点
個人戦	山形県 (越後 拓真) 第35回 (平成20年・山形県・山形ファミリーボウル)	1,524点

栄光の記録(3)

成年女子

第13回	団体戦第1位	岩手県 (中村恵子・久慈順子・熊谷礼子・小笠原ケイ子) 6,404				
	個人戦第1位	29歳以下 中村 恵子 (岩手県) 1,576	30歳代 久慈 順子 (岩手県) 1,727			
第14回	団体戦第1位	40歳代 梶口 輝子 (青森県) 1,673	50歳以上 山内よしえ (宮城県) 1,726			
	個人戦第1位	2部 藤村真由美 (青森県) 1,611				
第15回	団体戦第1位	秋田県 (桂田久美子・石井 祥子・佐藤 範子・伊藤 良子) 6,343				
	個人戦第1位	29歳以下 斎藤 祥子 (山形県) 1,610	30歳代 久慈 順子 (岩手県) 1,712			
第16回	団体戦第1位	40歳代 笹森 玲子 (宮城県) 1,571	50歳以上 片桐 俊子 (山形県) 1,599			
	個人戦第1位	2部 我妻みきえ (青森県) 1,515				
第17回	団体戦第1位	福島県 (鈴木 智子・藁谷 圭子・橋本 洋子・鴨 恵子) 6,257				
	個人戦第1位	29歳以下 藤村真由美 (青森県) 1,628	30歳代 石井 祥子 (秋田県) 1,661			
第18回	団体戦第1位	40歳代 郡場 幸子 (青森県) 1,516	50歳以上 片桐 俊子 (山形県) 1,563			
	個人戦第1位	2部 佐原みき子 (秋田県) 1,578				
第19回	団体戦第1位	青森県 (藤村真由美・工藤 成子・我妻みきえ・宮越 行子) 6,234				
	個人戦第1位	29歳以下 鈴木 智子 (福島県) 1,714	30歳代 佐原みき子 (秋田県) 1,614			
第20回	団体戦第1位	40歳代 我妻みきえ (青森県) 1,711	50歳以上 宮越 行子 (青森県) 1,602			
	個人戦第1位	2部 平山紀美子 (宮城県) 1,620				
第21回	団体戦第1位	青森県 (小笠原裕美子・鳥谷部エイ子・澤田 順子・木村 芳美) 6,295				
	個人戦第1位	29歳以下 桂田久美子 (秋田県) 1,717	30歳代 三浦巳代子 (岩手県) 1,668			
第22回	団体戦第1位	40歳代 久慈 順子 (岩手県) 1,611	50歳以上 小笠原ケイ子 (岩手県) 1,734			
	個人戦第1位	2部 石橋 友子 (青森県) 1,730				
第23回	団体戦第1位	山形県 (大田 尚美・大沼 稔子・阿部サダ子・片桐 俊子) 6,398				
	個人戦第1位	29歳以下 藤村真由美 (青森県) 1,756	30歳代 三浦巳代子 (岩手県) 1,693			
第24回	団体戦第1位	40歳代 橋本 洋子 (宮城県) 1,681	50歳以上 武田 京子 (秋田県) 1,581			
	個人戦第1位	2部 鈴木由美子 (山形県) 1,715				
第25回	団体戦第1位	岩手県 (櫻井ゆかり・三浦巳代子・久慈 順子・熊谷 礼子) 6,671				
	個人戦第1位	29歳以下 藤村真由美 (青森県) 1,777	30歳代 鳥谷部エイ子 (青森県) 1,633			
第26回	団体戦第1位	40歳代 我妻みきえ (青森県) 1,722	50歳以上 郡場 幸子 (青森県) 1,774			
	個人戦第1位	2部 斎藤八重子 (青森県) 1,709				
第27回	団体戦第1位	山形県 (大田 尚美・大沼 稔子・阿部サダ子・今野美代子) 6,047				
	個人戦第1位	29歳以下 福田奈緒美 (秋田県) 1,647	30歳代 大沼 稔子 (山形県) 1,658			
第28回	団体戦第1位	40歳代 久慈 順子 (岩手県) 1,643	50歳以上 今野巳代子 (山形県) 1,537			
	個人戦第1位	2部 手島 由美 (宮城県) 1,600				
第29回	団体戦第1位	宮城県 (黒崎 千尋・鈴木由記子・平山紀美子・辻 千代子) 6,607				
	個人戦第1位	29歳以下 鈴木 節子 (青森県) 1,772	30歳代 鈴木由記子 (宮城県) 1,859			
第30回	団体戦第1位	40歳代 久慈 順子 (岩手県) 1,850	50歳以上 辻 千代子 (宮城県) 1,742			
	個人戦第1位	2部 原 明美 (宮城県) 1,659				
第31回	団体戦第1位	宮城県 (布施 尚美・吉田千佳子・澤田 順子・辻 千代子) 4,496				
	個人戦第1位	ユース 細谷 泰美 (山形県) 1,146	ミドル 鈴木 英子 (福島県) 1,252			
第32回	団体戦第1位	ハイミドル 我妻みきえ (青森県) 1,185	マスター 郡場 幸子 (青森県) 1,084			
	個人戦第1位	2部 福田未央子 (青森県) 1,072				
第33回	団体戦第1位	岩手県 (畠山由美子・櫻井ゆかり・久慈 順子・熊谷 礼子) 4,659				
	個人戦第1位	ユース 円谷 博美 (福島県) 1,170	ミドル 佐藤 多美 (山形県) 1,180			
第34回	団体戦第1位	ハイミドル 我妻みきえ (青森県) 1,147	マスター 郡場 幸子 (青森県) 1,162			
	個人戦第1位	青森県 (片岡 敦子・小笠原裕美子・鳥谷部エイ子・斎藤八重美) 4,632				
第35回	団体戦第1位	ユース 掘 千尋 (山形県) 1,309	ミドル 鈴木 英子 (福島県) 1,226			
	個人戦第1位	ハイミドル 久慈 順子 (岩手県) 1,274	マスター 斎藤八重美 (青森県) 1,073			
第36回	団体戦第1位	宮城県 (杉山 和美・飯野みね子・澤田 順子・辻 千代子) 4,363				
	個人戦第1位	ユース 片岡 敦子 (青森県) 1,128	ミドル 鈴木 英子 (福島県) 1,222			
第37回	団体戦第1位	ハイミドル 久慈 順子 (岩手県) 1,149	マスター 藤間美栄子 (福島県) 1,154			
	個人戦第1位	青森県 (蝦名 純子・田沢 艶子・鳥谷部エイ子・我妻みきえ) 4,779				
第38回	団体戦第1位	ユース 小笠原由美子 (岩手県) 1,210	ミドル 鈴木 英子 (福島県) 1,240			
	個人戦第1位	ハイミドル 鳥谷部エイ子 (青森県) 1,148	マスター 久慈 順子 (岩手県) 1,356			
第39回	団体戦第1位	福島県 (室井めぐみ・鈴木 英子・松崎ひろ子・藤間美栄子) 4,587				
	個人戦第1位	ユース 五十嵐沙智 (山形県) 1,281	ミドル 小笠原裕美子 (青森県) 1,087			
第40回	団体戦第1位	ハイミドル 鈴木由記子 (宮城県) 1,048	マスター 澤田 順子 (宮城県) 1,142			

第28回	団体戦第1位	福島県 (室井めぐみ・鈴木 英子・松崎ひろ子・藤間美栄子)	4,796
	個人戦第1位	ユース 五十嵐沙智 (山形県) 1,307 ミドル 阿部ことえ (宮城県) 1,171 ハイミドル 松崎ひろ子 (福島県) 1,206 マスターズ 北村ツガ子 (秋田県) 1,199	
第29回	団体戦第1位	青森県 (和田 京美・寺澤裕美子・鳥谷部エイ子・菊田多津子)	4,631
	個人戦第1位	ユース 河原 麻衣 (宮城県) 1,182 ミドル 鈴木ゆかり (岩手県) 1,170 ハイミドル 鳥谷部エイ子 (青森県) 1,211 マスターズ 藤間美栄子 (福島県) 1,139	
第30回	団体戦第1位	宮城県 (河原 麻由・吉田千佳子・鈴木由記子・澤田 順子)	4,475
	個人戦第1位	ユース 河原 麻由 (宮城県) 1,202 ミドル 鈴木 英子 (福島県) 1,164 ハイミドル 鈴木由記子 (宮城県) 1,150 マスターズ 鳥谷部エイ子 (青森県) 1,139	
第31回	団体戦第1位	青森県 (番沢亜貴子・蝦名 純子・番沢 孝子・鳥谷部エイ子)	4,577
	個人戦第1位	ユース 河原 麻由 (宮城県) 1,236 ミドル 菅野 紅美 (福島県) 1,156 ハイミドル 吉田千佳子 (宮城県) 1,240 マスターズ 久慈 順子 (岩手県) 1,233	
第32回	団体戦第1位	宮城県 (河原 麻由・松本祥子・吉田千佳子・澤田 順子)	4,718
	個人戦第1位	ユース 五十嵐沙智 (山形県) 1,314 ミドル 松本 祥子 (宮城県) 1,239 ハイミドル 吉田千佳子 (宮城県) 1,181 マスターズ 阿部トミエ (岩手県) 1,207	
第33回	団体戦第1位	福島県 (石塚 香織・大内 幸枝・鈴木 英子・藤間美栄子)	4,366
	個人戦第1位	ユース 大石 奈緒 (山形県) 1,198 ミドル 蝦名 純子 (青森県) 1,123 ハイミドル 鈴木 英子 (福島県) 1,288 マスターズ 久慈 順子 (岩手県) 1,177	
第34回	団体戦第1位	福島県 (石塚 香織・角田 美香・鈴木 英子・志賀 幸子)	4,706
	個人戦第1位	ユース 千葉 久恵 (秋田県) 1,383 ミドル 佐藤由佳子 (秋田県) 1,140 ハイミドル 鈴木 英子 (福島県) 1,356 マスターズ 志賀 章子 (福島県) 1,246	
第35回	団体戦 2人チーム	福島県 (鈴木 英子・志賀 幸子)	2,439
	4人チーム	宮城県 (河原 麻由・桑原 のぶ・岩本 梨沙・河原 麻衣)	2,246
	個人戦第1位	福島県 (鈴木 英子)	1,234
第36回	団体戦 2人チーム	山形県 (大石 奈緒・佐藤 千尋)	2,687
	4人チーム	青森県 (新山 沙織・根深 澄・小泉陽子・野呂優美子)	2,423
	個人戦第1位	山形県 (大石 奈緒)	1,287

女子最高記録

【成年女子】 ※第35回大会以降の成績（年令区分の廃止による。）

団体戦	2人チーム	山形県 (大石 奈緒・佐藤 千尋)	2,687点 第36回 (平成21年・青森県・アオモリボウル)
	4人チーム	青森県 (新山 沙織・根深 澄・小泉陽子・野呂優美子)	2,423点 第36回 (平成21年・青森県・アオモリボウル)
	個人戦	山形県 (大石 奈緒)	1,287点 第36回 (平成21年・青森県・アオモリボウル)

【少年女子】 ※第13回大会以降の成績

団体戦	宮城県 (遠藤明日香・浅野 真唯)	2,659点 第36回 (平成21年・青森県・アオモリボウル)
個人戦	福島県 (竹俣 茉耶)	1,262点 第34回 (平成19年・福島県・ボウルアピア郡山)

栄光の記録(4)

少年男子

第13回	団体戦第1位	秋田県 (野村清彦・工藤一成)	1,940
	個人戦第1位	岩手県 (阿部弘樹)	1,057
第14回	団体戦第1位	宮城県 (中條桂一・横山浩治)	2,117
	個人戦第1位	宮城県 (横山浩治)	1,127
第15回	団体戦第1位	岩手県 (工藤文彰・島廻克彦)	2,088
	個人戦第1位	山形県 (須藤真宏)	1,103
第16回	団体戦第1位	山形県 (吉村和武・設楽啓一)	2,118
	個人戦第1位	宮城県 (中條桂一)	1,162
第17回	団体戦第1位	青森県 (工藤寿大・小野晃靖)	2,092
	個人戦第1位	山形県 (設楽啓一)	1,139
第18回	団体戦第1位	青森県 (小野裕季・斎藤昌大)	2,271
	個人戦第1位	山形県 (設楽啓一)	1,161
第19回	団体戦第1位	宮城県 (酒井正和・熊谷 崇)	2,388
	個人戦第1位	宮城県 (熊谷 崇)	1,225
第20回	団体戦第1位	山形県 (大場竜彦・吉田 卓)	2,176
	個人戦第1位	福島県 (西牧拓也)	1,171
第21回	団体戦第1位	福島県 (伊藤 丈・須藤勝昭)	2,288
	個人戦第1位	宮城県 (高橋 健)	1,166
第22回	団体戦第1位	福島県 (武内裕也・遠藤武和)	2,262
	個人戦第1位	福島県 (遠藤武和)	1,159
第23回	団体戦第1位	山形県 (平田和宏・大場秀治)	2,407
	個人戦第1位	青森県 (松田 実)	1,158
第24回	団体戦第1位	宮城県 (阿部修也・佐々木健)	2,409
	個人戦第1位	宮城県 (阿部修也)	1,206
第25回	団体戦第1位	宮城県 (佐々木健・阿部修也)	2,465
	個人戦第1位	宮城県 (佐々木健)	1,177
第26回	団体戦第1位	宮城県 (阿部修也・阿部 徹)	2,563
	個人戦第1位	山形県 (矢萩大士)	1,273
第27回	団体戦第1位	宮城県 (早坂友伸・小松三矢)	2,373
	個人戦第1位	青森県 (宮野 大)	1,226
第28回	団体戦第1位	福島県 (林 勇介・佐藤広明)	2,572
	個人戦第1位	宮城県 (早坂友伸)	1,331
第29回	団体戦第1位	福島県 (大塚 正・遠藤 純)	2,547
	個人戦第1位	宮城県 (鈴木大介)	1,331
第30回	団体戦第1位	宮城県 (早坂文英・千葉達也)	2,335
	個人戦第1位	宮城県 (千葉達也)	1,154
第31回	団体戦第1位	青森県 (田沢広也・米田健士郎)	2,707
	個人戦第1位	宮城県 (鈴木亮平)	1,344
第32回	団体戦第1位	宮城県 (手島大地・早坂文英)	2,578
	個人戦第1位	宮城県 (早坂文英)	1,421
第33回	団体戦第1位	福島県 (大塚裕二・阿曾孝敏)	2,358
	個人戦第1位	福島県 (大塚裕二)	1,315
第34回	団体戦第1位	福島県 (遠藤充朗・大塚裕二)	2,516
	個人戦第1位	福島県 (大塚裕二)	1,352
第35回	団体戦第1位	山形県 (越後拓真・白井雅彦)	2,469
	個人戦第1位	山形県 (越後拓真)	1,524
第36回	団体戦第1位	青森県 (工藤壽紀・工藤純一郎)	2,737
	個人戦第1位	青森県 (工藤壽紀)	1,371

少年女子

青森県 (千葉あゆみ・木村美奈)	1,396
岩手県 (武田亜希子)	1,021
秋田県 (伊藤和恵・山川香愛)	1,745
岩手県 (武田亜希子)	988
秋田県 (伊藤和恵・大石友恵)	2,031
秋田県 (伊藤和恵)	980
山形県 (松浦悦美・鈴木由美子)	1,828
福島県 (円谷博美)	998
山形県 (堀 千尋・鈴木由美子)	2,122
山形県 (鈴木由美子)	1,049
山形県 (堀 千尋・金子由紀)	1,995
山形県 (金子由紀)	1,005
山形県 (堀 千尋・小林直子)	2,017
山形県 (堀 千尋)	1,160
山形県 (伊藤小緒里・小林直子)	1,801
山形県 (伊藤小緒里)	1,021
福島県 (二本松亜希・大和田仁子)	2,155
山形県 (伊藤小緒里)	1,152
福島県 (大和田仁子・斎藤恵子)	1,965
山形県 (渋谷美穂)	1,081
山形県 (斎藤香澄・渋谷美穂)	2,152
山形県 (渋谷美穂)	1,121
山形県 (五十嵐沙智・菖蒲 緑)	1,904
山形県 (五十嵐沙智)	1,065
福島県 (河原麻衣・平山明日香)	2,113
宮城県 (河原麻衣)	1,083
宮城県 (河原麻衣・熊谷幸子)	2,296
宮城県 (河原麻衣)	1,080
宮城県 (河原麻由・河原麻衣)	2,200
秋田県 (千葉久恵)	1,088
宮城県 (河原麻由・平野 静)	2,292
宮城県 (河原麻由)	1,237
福島県 (石塚香織・渡辺未来)	2,350
山形県 (斎藤絃子)	1,221
青森県 (番沢亜貴子・福士千尋)	2,069
山形県 (大石奈緒)	1,141
福島県 (石塚香織・林さおり)	2,468
福島県 (石塚香織)	1,214
福島県 (竹俣茉耶・林さおり)	2,316
福島県 (竹俣茉耶)	1,209
秋田県 (池田美樹・半田彩子)	2,174
福島県 (竹俣茉耶)	1,198
福島県 (斎藤あ咲・竹俣茉耶)	2,260
福島県 (竹俣茉耶)	1,262
秋田県 (池田美樹・田口はるか)	2,139
青森県 (根深 澪)	1,174
宮城県 (遠藤明日香・浅野真唯)	2,659
青森県 (坂井里衣)	1,243

信じる道 決意新た

岩手日報文化賞

3人が受賞

第五十九回岩手日報文化賞・体育賞の贈呈式は三日、盛岡市内丸の岩手日報社五階ホールで行われ、文化賞三人、体育賞一団体、七人の功績をたたえた。社会、学芸、産業部門で

【受賞者の業績と言葉2面、関連記事19面に】

体育賞は 7人1団体

市内丸の岩手日報社五階ホールで行われ、文化賞三人、体育賞一団体、七人の功績をたたえた。社会、学芸、産業部門で

(82) 大船渡市、産業部門の東京電波会長・熊谷秀男氏(75)、久慈市出身、埼玉県和光市在住、山岳競技の高橋良卓・斎藤大樹選手(盛岡南高三年)、ボウリング競技の木村聰選手(45)、奥州市水沢区、ボクシング競技の小原佳太選手(東洋大二年)、黒沢尻工高出、体育賞特別賞のカヤック競技の北田智充・水本圭輝氏(65)、奥州市衣川区、学芸部門の津波災害研究者・山下文男氏

贈呈式には文化賞社会部門のNPO法人太平洋戦史館会長理事・岩淵宣輝氏(65)、奥州市衣川区、学芸部門の津波災害研究者・山下文男氏

慎樹主将(三年)、来賓ら約百五十人が出席した。

岩手日報社の三浦宏社長が文化賞受賞者に賞状と正賞の独鉛筆、体育賞受賞者に賞状と大理石力

ップを贈り、「岩手日報創刊百三十周年の記念の年古里岩手への思い、日々の精進の成果をたたえ活躍を祈念する」とあいさつした。上村俊一県出納

樹IIBC岩手放送社長が

祝辞を述べた。岩淵氏は戦没者の遺骨帰還活動を約四十年間続け、太平洋戦史館を開設し恒久平和を訴えていた。

業の経営者として県内三工場の立地を進め、郷里の起業家も支援している。

戸羽選手は全日本男子弓道選手権大会で県勢として初優勝した。高橋・斎藤選手は国民体育大会

山岳少年男子縦走で優勝。木村選手は国民体育大会ボクシング成年ウエルターフレードで優勝した。北田・水本選手は全国高校総合体育大会と国民体育大会のカヤックで優勝。福岡中

は全国中学校体育大会軟式野球で初出場初優勝を

果たし、県民に感動を与えた。



右写真は授賞式の木村聰選手

老若男女が楽しめる魅力

県ボウリング連盟会長 吉田さん 生涯スボーツで注目

税理士の
吉田さん

県ボウリング連盟会
長

吉田几生

の魅力」と話す。

長で税理士の吉田几生
(やすお)さん(68)
=盛岡市本町通2丁目
=は、社会体育の分野
で表彰を受けた。19
68年、発足間もない
県ボウリング連盟の理
事に就いたのを皮切り
に、全国的なボウリン
グチーム、70年代後半
の低迷期を経て、生涯
スポーツとしての普及
に貢献してきた。「ス
トライクが出たときの
さわやかな感動。何と
いっても老若男女が樂
しめるのがボウリング

ング場がオープンした
のが67年。同年、税理
士として開業した吉田

さんは、税理士の仲間
とボウリング場に通う
うち夢中になった。人
気女子プロの競技がテ
レビ中継されたころ

下火になる。競技人口
の減少。吉田さんに
とつても厳しい時代だ
ったが「生涯続けられ
る素晴らしいスポー

ルームだったが、オイ
ルショックなどを経て
で、盛岡のボウリング
場も2時間、3時間待
ちは普通だった。

84年に県体育協会に
加盟、87年の沖縄国体
で活躍する選手を育
て、本県からアジアシ
ニア選手権大会の日本
代表も出している。

近年は年齢を問わな
い生涯スポーツ、気軽に
に楽しめるレジャーと
してのボウリングも注
目されている。05年度

には、本県が会場とな
る全国スポーツ・レクリエーション祭で壮年
ボウリング大会が開か
れることになった。

「競技でもレジャー
でも年齢を問わずに自
分のペースでできる。
個人競技でありながら
チームワークが生かせ
るのがボウリング」と
目を輝かせる。



吉田几生さん

県教育表彰に17人9団体

2003年度県教育

表彰は、事績顕著者に
17人9団体、永年勤続
者に388人が表彰さ
れる。事績顕著者は、

学校教育、学校保健、

社会教育、社会体育、

学術文化、教育行政で

功績のある個人と団

体

一関市立市野々小

立角浜小(地域交流教

育)(特定非営利活動法人

吉位(宮古市野球協会

▽教育行政=足澤輝

市)

が参加する。

事績顕著者表彰者は

詔子(同)

▽社会教育=熊上真

会

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

崎剣道スポーツ少年団

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

登(岩手マスターズ陸

上競技連理事)駒井

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽社会教育=種市町

▽学校教育=種市町

▽社会教育=熊上真

会

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

長)佐々木健(新里村文

化財調査委員会委員)

幸田神樂保存会(花巻

市)

▽学校保健=学校歯

科医=阿曾沼肇(前沢

町)学校薬剤師=本館

佳代子(花巻市)大森

嶺小中PTA、花巻町

立花泉南中PTA、花

巻市立花巻幼稚園つく

しの会

▽社会体育=吉田几

生(県ボウリング連盟

会長)中村啓治(県野

球連理事長)小野寺

皆様へ紹介したい「私の所感」その2

ボウリングの魅力は?

文部科学大臣表彰を受賞して

吉田几生

(32J)



動量に匹敵する。

(スポーツ医学豊田章教授)

「ボウリングの魅力は何ですか?」メディアの取材で必ず問われる。「ストライクの快感ですか?」あの心地よい音響とともに十本のピンが一瞬にして消え

れる。「ボウリングの魅力は何ですか?」メディアの取材で必ず問われる。「ストライクの快感ですか?」あの心地よい音響とともに十本のピンが一瞬にして消え

の日の由来である。

明治から大正にかけてYMC

勝した。

「手首に付けている用具は何ですか?」もよくある質問だ。

「あなた方はボウリング保存会の方々ですか」と声を掛けられ

A体育館にボウリング設備が設置されたが、国民に広く愛好されるようになったのは昭和二十

七年十二月の東京ボウリングセンターの開設以来である。当時はピンボーカイが投球後のピンを並べ直していたが昭和三十六年

オートマチックピンセッターが設置されゲームの回転率が良く

なった。大きなボールが十八メートルに於いて九ピンボウリン

が発見されている。中世のヨーロッパに於いて九ピンボウリン

が宗教儀式として大流行した

がルールが異なっていた。十六世紀にその統一を図ったのが宗

教改革で有名なマルチンルター

がルールを離す(リリース)

が発見され、これがボウリング

が軽く感じられるときが

タイミングを一致させること。

先のピンに向かってレーンを走

る。ピンが飛び散る。はじめて

ボウルが軽く感じられるとき

が発見され、これがボウリング

が軽く感じられるときが

タイミングを一致させること。

普で板倉奈智美が女子の部で優勝した。

「手首に付けている用具は何ですか?」もよくある質問だ。

「あなた方はボウリング保存会の方々ですか」と声を掛けられ

る。リスタイル、手首が外側に折れな

りのように固定、親指を抜け易く

しボウルの曲がりを良くする。

一番多いのは「上手になる秘訣を教えて欲しい」だ。足の踏み

を教えて欲しい」だ。足の踏み

を教えて欲しい」だ。

先まで夜間押し掛けたり言葉で返す言葉を失ったこと、又県体

育協会加盟の陳情に会長の出張

に正式参加を前提とした公開競

技に全国の仲間と参加すること

が出来ました。マリンブルーの

海、ボランティアの心暖まる歓

迎は折にふれ蘇る忘れられない

思い出となりました。

病気のため二度休学、卒業は

叶わなかつたものの熊谷岱藏先

生のおかげで健康を回復し、簿

記を学んでいないことを承知で

(岩手県ボウリング連盟会長)



吉田几生会長 文部科学大臣表彰（2005）
ゲスト 櫻山文枝さん



吉田几生会長 文部科学大臣表彰（2005）



木村聰常理事 岩手日報体育賞（2006）



吉田几生会長 東北総合体育大会功労賞（2008）



久慈順子常理事 霊石町民栄誉賞（2005）



吉田几生会長 岩手県教育表彰（2003）千代子夫人とともに

カメラスケッチ



名司会者 山田真利子会員



審判員は高い席から注視する。大橋学公認審判員



チーム戦は心を一つに！



参加選手の受付通過確認



各選手のスコアカードとアウトプットデータとの照合



参加選手の全記録をパソコンに入力 兼平彩夏会員

資料



年 表

文久元年 (1861)	わが国に初めてのボウリング場が長崎の出島に開設された。
昭和27年 (1952)	東京青山に「東京ボウリングセンター」が開場し、競技として発足した。
昭和30年 (1955)	全日本ボウリング協会の前身といえる「日本ボウリング連盟」が創立した。
昭和36年 (1961)	ボウリング競技者の世界組織F. I. Q (Fédération Internationale des Quilleurs) 日本語名「国際柱技者連盟」に加盟。
昭和39年 (1964)	「全日本ボウリング協会」(Japn Bowling Congress) が誕生された。
昭和43年 (1968)	前年盛岡市内にボウリング場が開設されたのを機に「岩手県ボウリング連盟」が創立され、第1回岩手県ボウリング選手権大会開催。
昭和48年 (1973)	全都道府県に加盟団体が組織された。
昭和52年 (1977)	全日本ボウリング協会が財団法人として認可を受け日本のボウリング競技界を統括し代表する団体として再発足した。(寄付行為第3条)
昭和58年 (1983)	第6回全国都道府県対抗ボウリング競技大会、古館勇光男子個人優勝。(全国大会初入賞)
昭和58年 (1983)	(財)全日本ボウリング協会が(財)日本体育協会に加盟承認された。
昭和59年 (1984)	AMFワールドカップメキシコ大会久慈順子日本代表として国際大会初出場。
昭和60年 (1985)	(財)岩手県体育協会に加盟承認された。
昭和61年 (1986)	第11回東北ボウリング選手権大会主管開催。
昭和62年 (1987)	第37回岩手県民体育大会に初参加。
昭和63年 (1988)	第6回東日本シニアボウリング選手権大会主管開催。丸山忠夫男子個人総合優勝。
平成1年 (1989)	第42回沖縄国体に公開競技として初参加。成年男子の部監督吉田几生。選手小笠原勝、佐々木菊夫、嶋廻敏夫、佐藤義明。
平成2年 (1990)	第43回京都国体(2巡目国体)に正式競技として参加。
平成3年 (1991)	第44回北海道国体丸山忠夫50歳以上の部第5位、佐藤喜三郎男子2部第8位。(国体初入賞)
平成3年 (1991)	第45回福岡国体三浦巳代子30歳代の部第7位、後藤秀子女子2部第8位。
平成5年 (1993)	第4回全国健康福祉祭(ねんりんピック'91いわて)ボウリング競技主管開催。
平成6年 (1994)	第8回FIQ極東選手権大会(韓国)久慈順子ナショナルチームの一員として出場個人マスターズ戦準優勝。
平成10年 (1998)	第13回東日本シニア選手権大会熊谷礼子、小笠原ケイ子女子2人戦優勝。
平成17年 (2005)	全国ファミリンピックいわて大会ボウリング競技主管開催。
平成17年 (2005)	第18回東日本シニア選手権大会佐々木和夫、藤村他可夫、川原重治郎、丸山忠夫男子4人戦優勝。
平成17年 (2005)	第18回全国スポーツ・レクリエーション祭(スポレクいわて2005)壯年ボウリング大会主管開催。丸山忠夫、小笠原ケイ子60歳以上混合2人戦優勝。
平成17年 (2005)	吉田几生会長スポーツ普及振興功労により文部科学大臣表彰。
平成18年 (2006)	第5回日本スポーツマスターズ久慈順子女子選手権者。
平成18年 (2006)	第61回兵庫国体男子ハイミドルの部木村聰優勝。

平成18年（2006）	第6回日本スポーツマスターズ藤原孝至男子選手権者。
平成18年（2006）	第21回全日本年齢別競技大会久慈順子50代優勝。
平成19年（2007）	第9回アジアシニア選手権大会（日本）久慈順子女子マスターズ戦優勝。
平成19年（2007）	第40回全日本シニア選手権大会久慈順子女子50歳代個人優勝。

ボウリング用語 (抜粋)

アジャスティング adjusting 調整すること

普通は、ストライクアジャスティングとスペアアジャスティングを指す。レーン状態によってボールを交換するボーラーアジャスティング、リリースで力の入れ方を変えるフィジカルアジャスティングなどもある。日常生活でも便利な言葉になっており、ちょっとでも工夫を加えると「アジャストした」などといったりしている。

オフバランス off balance バランスを崩す

ボールのドリルでルールの範囲にあること。または、ルール内で故意にボールのバランス配分を崩して、曲がりや回転を変える工夫などを指すことがある。投球フォームでは、右肩が極端に落ちたり、腰高で下半身と上半身のバランスが悪いときにいうことがある。

パーフェクトストライク perfect strike

完全なストライクを生むには、2つの条件がある。1つはボールの中心が17.5枚目か、それよりやや薄め方向(板目で1枚以内)を打つこと、次にストライクゾーンを広げるために3度から6度の入射角度を保つことである。パーフェクトストライクのピンアクションは、①→③ポケットを打ったボールが①→②→④→⑦番の順にドミノアクション(将棋倒し)を発生させており、次に③番ピンは③→⑥→⑩番を、⑤番ピンは⑧番を倒している。このとき、ボールがピンを直接倒すのは①→③→⑤→⑨番のみ。①番ピンを打つボールの位置、入射角度が最も大切なことがわかる。

スキッドスナップ

PBAのプロがよく口走る言葉で、ものすごく速く直進して、ピンの直前で急激にフックする球質を指す。曲がり幅が小さい割りに、大きな入射角度が得られる理想的タイプで、レーンコンディションに左右されにくく、アングルを広げずに幅広いストライクゾーンが得られるという大きなメリットがある。

ローダウン
low down

高速リリースまたは高速回転を意味する和製英語。PBAプロは「フリスピーまたはプッシュ&プル」と呼ぶが、およそ2~3種類の投法がある。通常の数十倍も多い回転数をともなるので、ピンの手前で劇的に曲がり、驚異的なピンアクションを見せる。すべてのボウラーにとって「永遠の憧れ」であるが、レーン変化による曲がりを抑制するため、基本的に初速を大きく早める必要がある。

そこで「より大きなバックスイング」をするために、肩を開くオープンバックスイング、回転数を大きくするカップリスト、ブローケンリストなどのリストワークを駆使すること、さらにボールドリルなどもマスターしなければならない。

結局、ボール速度を自由に変えるため、リリース時の手首や前腕の形を使い分け、そのときどきの最適なボールチョイス、レーンコンディションへの対応など、最高のアジャスティング技術に行きつくのである。

ボウリングの歴史

日本で初めてのボウリング場は文久元年（1861）6月22日オランダ人によって長崎の出島に開設された。現在6月22日が「ボウリングの日」と定められている。

紀元前5000年前後のものと思われるエジプトの墓から木でできたボールとピンが発掘されロンドンの博物館に展示されている。ボウリング競技の発祥は、明確ではないが中世の宗教の儀式に使われ、投げる球を善、約18メートル先に立っているピンを悪にたとえ、それを倒すことにより、悪をはらうという宗教儀式をルール化しヨーロッパ人の9本のピンのボウリングが娯楽として広まった。16世紀に宗教改革で著名なマルティンルターがボウリングのルールを統一し制定したといわれている。

その後アメリカに移住したオランダ人により広められ、現在のような10本のピンのボウリング競技として世界的に普及した。

日本では大正の初め東京、大阪、京都その他の都市のYMCAの体育館にスポーツ施設として小規模なものが設置されている。民間で最初のボウリング場は昭和27年（1952）東京青山に東京ボウリングセンターが開設された。

当時はまだ自動のピンセッターはなく、人手でピンをセットしていた。

昭和30年（1955）全日本ボウリング協会の前身といえる「日本ボウリング連盟」が創立され、昭和36年（1961）にはボウリング競技者の世界組織F.I.Q（Fédération Internationale des Quilleurs）日本語名「国際柱技者連盟」に加盟、国際大会参加を目指すことになる。

この年、自動ピンセッターが輸入され、ゲームの進行が早くなり愛好者も急増し次々とボウリング場が開設され爆発的なブームを迎えた。

昭和39年（1964）全日本ボウリング協会（Japan Bowing Congress）が創立されスポーツボウリングの普及に取り組み、全都道府県ボウリング愛好者の指導、組織化を図り各県ボウリング連盟が誕生した。

昭和48年（1973）文部省より財団法人として認可を受け日本のボウリング競技を統轄し代表する団体として再発足した。（寄付行為第3条）

昭和58年（1983）財団法人日本体育協会に加盟承認される。

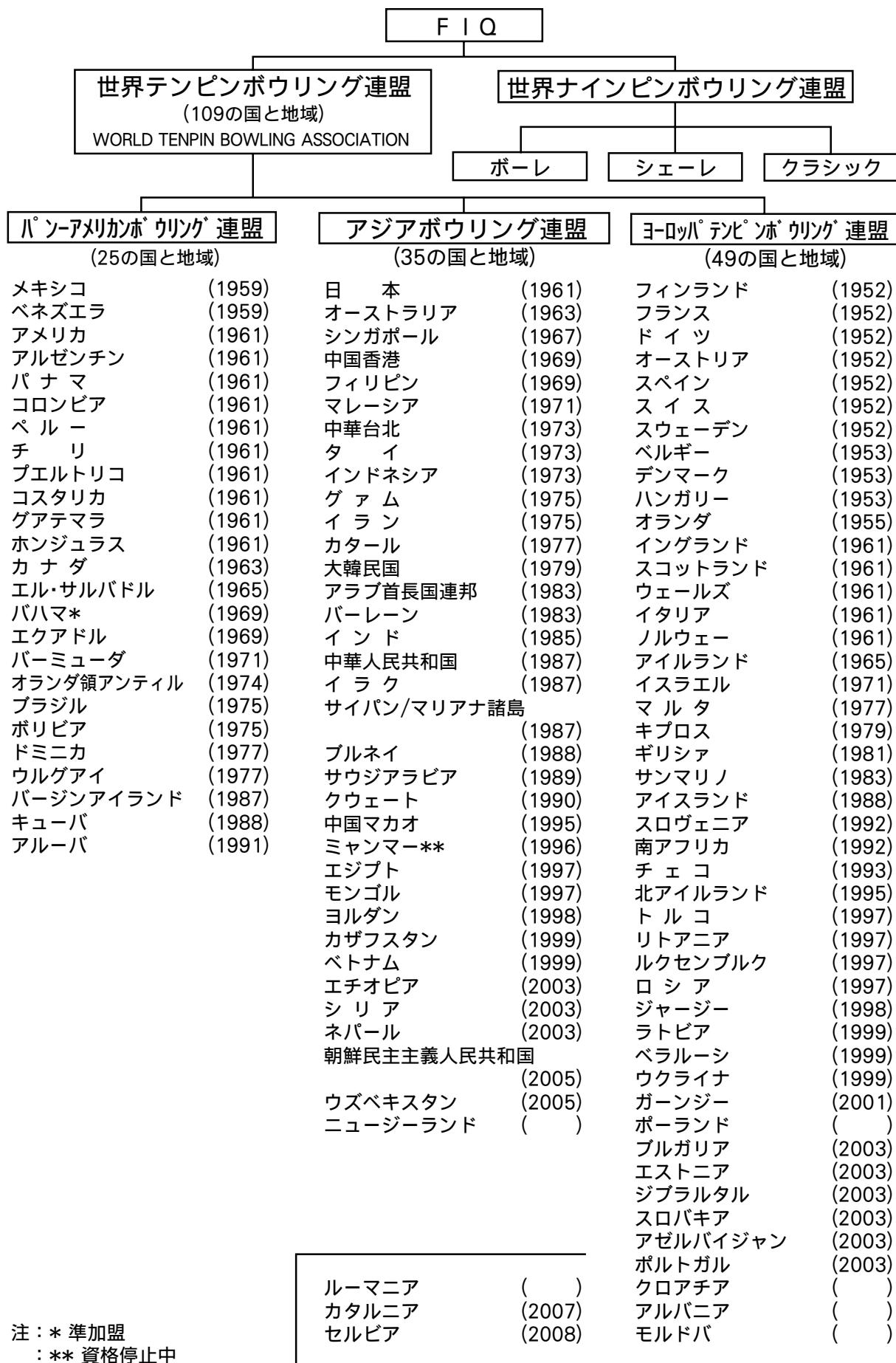
昭和62年（1987）第42回沖縄国体夏季大会に公開競技として初参加、昭和63年（1988）第43回国民体育大会夏季大会（京都国体）に正式競技として参加した。

同年ソウル市で開催された第24回オリンピック競技大会にエキシビションゲームとして採用され日本代表として男女各1名が派遣された。以後の国際大会でも目覚ましい活躍をしている。

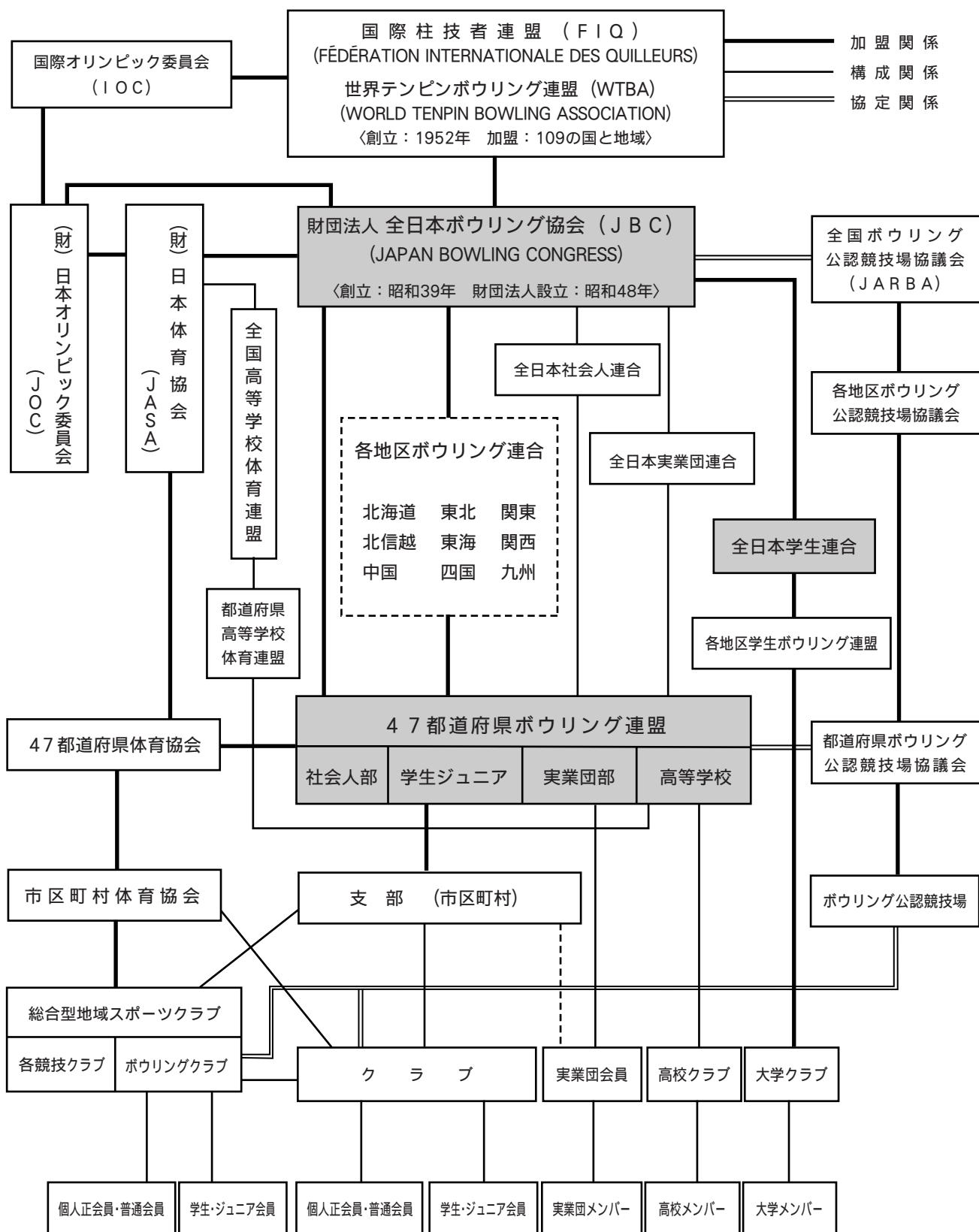
JBCは現在競技スポーツ、生涯スポーツとしてのボウリングの普及振興と組織の拡充を図り新しい時代に向って前進している。

F・I・Q (国際柱技者連盟) 組織図
FÉDÉRATION INTERNATIONALE DES QUIILLEURS

2008年5月18日現在



(財) 全日本ボウリング協会 組織図



岩手県ボウリング連盟歴代役員名簿

歴代会長



初代会長 岩動道行
(1968～1970)



二代会長 山崎忠保
(1971～1975)



三代会長 小原正巳
(1976～1994)



四代会長 吉田几生
(1995～現在)

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S43 (1968)		岩動道行	村谷昭六	長谷川史郎				矢羽々保 千葉明彦 吉田几生 山崎忠保 村松 実 村上 功 上野吉朗		
S44 (1969)		岩動道行	村谷昭六	長谷川史郎				矢羽々保 千葉明彦 吉田几生 山崎忠保 村松 実 村上 功		
S45 (1970)		岩動道行	村谷昭六	長谷川史郎				矢羽々保 千葉明彦 吉田几生 山崎忠保 村松 実 村上 功		
S46 (1971)		山崎忠保	村松 実 吉田几生	江藤征二	伊藤 顕		山口三郎 奥山和夫 村谷昭六 富士田徳治 工藤俊雄 三並和雄	矢羽々保 千葉明彦 藤斎武夫 中田芳郎 吉田 正		岩動道行
S47 (1972)		山崎忠保		江藤征二	伊藤 顕	村松 実 吉田几生	山口三郎 奥山和夫 村谷昭六 富士田徳治 工藤俊雄 千葉明彦	矢羽々保 大宮 進 中田芳郎 吉田 正 千田勝郎		岩動道行
S48 (1973)		山崎忠保		江藤征二	伊藤 顕 吉田几生	村松 実	山口三郎 奥山和夫 千葉明彦	矢羽々保 大宮 進 中田芳郎 千田勝郎		岩動道行

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S49 (1974)		山崎忠保		江藤征二	吉田几生 富士田徳治		山口三郎 奥山和夫 千葉明彦 矢羽々 保 大宮 進 中田芳郎	千田勝郎 伊藤新一 藤斎武夫 千葉茂人 畠山正志 永山勝隆 古館勇光 瓦田義生 中川 猛 高橋政一		岩動道行
S50 (1975)		山崎忠保		江藤征二	吉田几生 富士田徳治		山口三郎 千葉明彦 矢羽々 保 大宮 進	千田勝郎 伊藤新一 藤斎武夫 千葉茂人 畠山正志 永山勝隆 古館勇光 瓦田義生 中川 猛 高橋政一		岩動道行
S51 (1976)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古館勇光 中村哲郎 畠山正志 永山勝隆 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 伊藤新一 藤斎武夫 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S52 (1977)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古館勇光 中村哲郎 畠山正志 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S53 (1978)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古館勇光 中村哲郎 畠山正志 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S54 (1979)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古館勇光 中村哲郎 畠山正志 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S55 (1980)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一		千田勝郎 古館勇光 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 山口三郎 大宮 進 鎌田次男 八木忠男 嶋廻敏夫 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S56 (1981)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一		千田勝郎 古館勇光 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 山口三郎 大宮 進 鎌田次男 八木忠男 嶋廻敏夫 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S57 (1982)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一 古館勇光		千田勝郎 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 佐々木忠夫 大倉和男 久慈順子 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S58 (1983)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一 古館勇光		千田勝郎 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 佐々木忠夫 大倉和男 久慈順子 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S59 (1984)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 古館勇光		千田勝郎 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 佐々木忠夫 大倉和男 久慈順子 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S60 (1985)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 古館勇光		千田勝郎 藤村長三郎 中村哲郎 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 板沢健次郎 佐藤喜三郎	瀬川忠男 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S61 (1986)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 古館勇光	千田勝郎	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 板沢健次郎 佐藤喜三郎	瀬川忠男 小山田昇平	
S62 (1987)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	
S63 (1988)		小原正巳		吉田几生	畠山正志 千田勝郎	菊地 賢	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	
H 1 (1989)		小原正巳		吉田几生	千田勝郎	菊地 賢	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 武田礼治	熊谷光男 黒沢 吏 阿部勝弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問	
H 2 (1990)		小原正巳		吉田几生	千田勝郎	菊地 賢	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 武田礼治	熊谷光男 黒沢 吏 阿部勝弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫		
H 3 (1991)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘 黒沢 吏	土井英明 浜田勝太郎 大宮 進 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 佐々木正一 峯崎登美夫 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫		
H 4 (1992)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘 黒沢 吏	土井英明 浜田勝太郎 大宮 進 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 佐々木正一 峯崎登美夫 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫		
H 5 (1993)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘 黒沢 吏	大平恵介 佐藤和典 阿部トミエ 田頭義弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 小野寺 章 加藤典博 佐々木正一 峯崎登美夫 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 浜田勝太郎		

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H 6 (1994)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎 黒沢 吏		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘	大平恵介 佐藤和典 阿部トミ工 田頭義弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 小野寺 章 加藤典博 佐々木正一 吉田 優 小笠原 勝 小山田二郎	瀬川忠男 浜田勝太郎	
H 7 (1995)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 加藤典博	大平恵介 佐藤和典 阿部トミ工 上野吉朗 藤原良造 熊谷礼子 佐々木聰昭 久慈順子 木村 聰 佐々木正一 吉田 優 山口忠司 小山田二郎	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H 8 (1996)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘		阿部トミ工 木村 聰 菊池洋二 加藤典博	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 上野吉朗 藤原良造 熊谷礼子 佐々木聰昭 久慈順子 菊池史和 佐々木正一 吉田 優 山口忠司 小山田二郎 佐々木和夫	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H 9 (1997)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博		阿部トミ工 木村 聰 菊池洋二 佐々木正一 熊谷礼子 吉田 優 上野吉朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 田頭義弘 藤原良造 根田光朗 佐々木聰昭 久慈順子 菊池史和 中山昭二 菅原 栄 伊藤 誠 佐々木和夫	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H10 (1998)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博		阿部トミエ 木村 聰 菊池洋二 佐々木正一 熊谷礼子 吉田 優 上野吉朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 根田光朗 佐々木聰昭 久慈順子 菊池史和 中山昭二 菅原 栄 伊藤 誠 佐々木和夫	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H11 (1999)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗		阿部トミエ 木村 聰 菊池洋二 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二 根田光朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聰昭 山田政行 菊池史和 菅原 栄	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H12 (2000)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗		阿部トミエ 木村 聰 菊池洋二 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二 根田光朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聰昭 山田政行 菊池史和 菅原 栄	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H13 (2001)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗 根田光朗		阿部トミエ 木村 聰 菊池洋二 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聰昭 高橋宗義 菊池史和 藤原孝至 菅原 栄	瀬川忠男 佐々木盛徳	千田勝郎 小原正巳
H14 (2002)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗 根田光朗		阿部トミエ 木村 聰 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聰昭 高橋宗義 富谷行雄 藤原孝至 長谷川和重 高橋三千男	瀬川忠男 佐々木盛徳	千田勝郎

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H15 (2003)	吉田几生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗			阿部トミエ 木村 聰 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聰昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 長谷川和重 高橋三千男	瀬川忠男 佐々木盛徳	千田勝郎 黒沢 吏
H16 (2004)	吉田几生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗			阿部トミエ 木村 聰 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聰 佐々木聰昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	瀬川忠男 佐々木盛徳	黒沢 吏
H17 (2005)	吉田几生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗			阿部トミエ 木村 聰 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聰 佐々木聰昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	瀬川忠男 柄内秀士	黒沢 吏
H18 (2006)	吉田几生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗			阿部トミエ 木村 聰 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聰 佐々木聰昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	瀬川忠男 柄内秀士	黒沢 吏
H19 (2007)	吉田几生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗			阿部トミエ 木村 聰 菊池史和 富谷行雄 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聰 佐々木聰昭 高橋宗義 佐々木正一 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	吉田勝弘 柄内秀士	黒沢 吏

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H20 (2008)	吉田几生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗		阿部トミ工 木村 聰 菊池史和 富谷行雄 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聰 佐々木聰昭 高橋宗義 佐々木正一 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	吉田勝弘 柄内秀士	黒沢 吏	
H21 (2009)	吉田几生	上野吉朗	上野吉朗	阿部勝弘 根田光朗 富谷行雄		阿部トミ工 木村 聰 菊池史和 久慈順子 伊藤 誠 沼田 聰	大平恵介 坂本 貢 山田浩幸 黒澤 誠 佐々木聰昭 高橋宗義 佐々木正一 小原勝弘 菅野和郎 小林みち子 大橋 学	吉田勝弘 柄内秀士	黒沢 吏 加藤典博	

支部・クラブ・実業団・高等学校一覧

社会人部

盛岡支部

020-0822 盛岡市茶畠2-5-9 TEL 019-653-5638

盛岡スターレーンクラブ

020-0117 盛岡市緑が丘3-29-3-106 TEL 019-662-7488

ビッグハウス・スーパーレーンクラブ

クラブ長 根田光朗

020-0832 盛岡市東見前9-31-1 TEL 019-637-9062

久慈支部

028-0051 久慈市川崎町12-7 TEL 0194-52-2148

支部長 奥瀬英夫

滝沢支部

020-0173 岩手郡滝沢村滝沢字巣子1211 TEL 019-688-3622

支部長 柳村正実

矢巾支部

028-3602 紫波郡矢巾町藤沢8-50 TEL 019-697-2395

支部長 佐々木忠道

紫波支部

028-3536 紫波郡紫波町北田字和田16 TEL 019-672-3515

支部長 山田浩幸

花巻支部

025-0312 花巻市二枚橋6-329-6 TEL 0198-26-4366

支部長 大平恵介

東和支部

028-0135 花巻市東和町倉沢2区115 TEL 0198-44-2191

支部長 菅野和郎

北上支部

024-0021 北上市上野町1-12-28 TEL 0197-64-1726

支部長 小原勝弘

奥州支部

023-0817 奥州市水沢区宮下町38 TEL 0197-24-2252

支部長 菊池英明

一関支部

021-0851 一関市関ヶ丘103-2 TEL 0191-23-5066

支部長 高橋宗義

遠野支部

028-0775 遠野市上郷町平倉47-39 TEL 0198-65-2726

支部長 菊池巳之吉

釜石支部
028-1132 上閉伊郡大槌町大ヶ口 1-19-29 TEL 0193-42-6493
支部長 坂 本 貢

大船渡支部
022-0007 大船渡市赤崎町字菅野 9-5 TEL 0192-27-6185
支部長 伊 藤 清

陸前高田支部
022-0007 大船渡市赤崎町後の入 46-6 TEL 0192-27-4155
支部長 田 代 一 宏

実業団部
J R 東日本盛岡
020-0034 盛岡市盛岡駅前通 1-41 TEL 019-625-4018
部長 村 上 正 昭

東日本電気(株)
021-0833 一関市柄貝 1 TEL 0191-23-9111
部長 千 葉 清 一

(財)岩手県予防医学協会
020-8585 盛岡市永井 14-42 TEL 019-638-7185
部長 川 端 寿 行

(株)ベルプラス
020-0837 盛岡市津志田町 1-1-10 TEL 019-638-1722
部長 吉 岡 茂 樹

盛岡赤十字病院
020-8560 盛岡市三本柳 6-1-1 TEL 019-637-3111
部長 根 田 光 朗

矢巾町役場
028-3692 紫波郡矢巾町大字南矢幅 13-123 TEL 019-697-2111
部長 稲 垣 譲 治

注、メンバー責任者は部長で統一しています。

高等学校
盛岡スコーレ高等学校
020-0851 盛岡市向中野字才川 2-3 TEL 019-636-0827
顧問 猿 川 温 久

公認審判員・日体協指導員・コーチ一覧

氏名	公認審判員	日体協指導員	日体協コーチ	ドリラー
吉田几生	第1種	○		
上野吉朗	○	○		
佐々木正一	○	○		
根田光朗	○	○		
富谷行雄	○	○		
菊池史和	第2種	○	○	
富谷伸行	○	○		
丸山忠夫	第3種			
飯塚隆	○			
佐々木聰昭	○			○
久慈順子	○			
中山正二	○			
菊池英明	○			
阿部勝弘	○			
阿部トミエ	○	○		
吉岡茂樹	○			○
佐々木春男	○			
武田礼治	○			
大橋学	○	○		
高橋宗義	○			
山田浩幸	○			
両角みかこ	○	○		
新沼幸枝	○	○		
千葉恭一	○			
千葉力	○			
小林みち子	○			
山崎剛志	○			
小野寺亮太	○			
佐藤淳				○

岩手県ボウリング連盟定款

付 岩手県ボウリング連盟会員登録規定



岩手県ボウリング連盟定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、岩手県ボウリング連盟（英文名 IWATE BOWLING ASSOCIATION 略称IBA）という。

(事務所)

第2条 この連盟は、事務所を岩手県盛岡市本町通二丁目9番3号おく。

(構成・組織)

第3条 この連盟の構成は、個人正会員、実業団会員、高等学校登録会員、高校生会員およびジュニア会員の正会員と、個人普通会員、名誉会員、特別会員で個人正会員、個人普通会員は社会人部、実業団部、高校生会員およびジュニア会員はジュニア部に所属する。

(支部・クラブ)

第4条 この連盟は、理事会の議決を経て必要の地に支部を置くことができる。また、支部はその下部組織としてクラブを設けることができる。

支部およびクラブの設置については、別に定める規約によるものとする。

第2章 目的および事業

(目 的)

第5条 この連盟は、財団法人全日本ボウリング協会（以下全日本ボウリング協会という）の加盟団体として、この地域におけるアマチュアボウリング競技会を統轄し、代表する団体であり、ボウリングの普及および振興をはかり、もって県民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

(事 業)

第6条 この連盟は、前条の目的を達成するためにつぎの事業を行なう。

1. ボウリング競技によりアマチュアスポーツの高揚をはかる
2. ボウリング競技に関する指導講習会の開催および指導者の養成
3. ボウリング競技に関する調査研究および指導
4. ボウリングに関する地域グループの育成強化
5. 国民体育大会および全日本ボウリング協会、地区連合会等が主催、後援する選手権大会、競技会に対し、代表参加者の選定および派遣
6. 連盟選手権大会、競技会等の開催
7. 全日本ボウリング協会に対し、選手権大会、競技会等の公認申請、公認記録報告、表彰に関する諸申請
8. ボウリング競技に関する機関紙ならびに刊行物の発行
9. その他目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第7条 この連盟の会員は下記のとおりとし、すべて全日本ボウリング協会に登録するものとする。

また、この連盟の会員は、日本体育協会のスポーツ憲章ならびに全日本ボウリング協会のアマチュア競技者規程、その他の規則、規定を順守しなければならない。

1. 正会員 この連盟の目的に賛同して入会した、次に掲げる会員とする

- (イ) 個人正会員
- (ロ) 実業団会員
- (ハ) 高等学校登録会員
- (ニ) 高校生会員およびジュニア会員

2. 普通会員 この連盟の目的に賛同して入会した普通会員とする

3. 名誉会員 この連盟に特に功労のあった者で、代議員総会の議決をもって推薦された者とする

4. 賛助会員 この連盟の事業に賛助する個人または法人で、理事会の議決をもって推薦された者とする

5. 特別会員 全日本ボウリング協会ならびにこの連盟に賛助する個人または法人で、理事会の議決をもって推薦された者とする

(入 会)

第8条 この連盟の正会員および普通会員になろうとする者は、別に定める会員登録規定により登録申請し承認を受けなければならない。

名譽会員、賛助会員、特別会員に推薦された者は、入会の手続きをせず本人の承諾をもって会員となる。

(会 費)

第9条 この連盟の会費は、全日本ボウリング協会の負担金を含め、別に定める会員登録規定によるものとする。

(資格の喪失)

第10条 この連盟の会員は、つぎの事由によってその資格を喪失する。

- 1. 退会したとき
- 2. 成年被後見人、被補佐人および被補助人となったとき、または破産の宣告を受けたとき
- 3. 死亡もしくは失踪宣告を受け、または会員である法人が解散したとき
- 4. 除名されたとき

(退 会)

第11条 会員が脱会しようとするときは、理由を付して退会届けを提出しなければならない。

(除 名)

第12条 会員がつぎの各号に該当するときは、理事会の議決を経て、会長がこれを除名することができる。

1. 全日本ボウリング協会ならびにこの連盟の名誉を傷つけ、またはこの連盟の目的に違反する行為があったとき
2. 日本体育協会、全日本ボウリング協会ならびにこの連盟のアマチュア競技者規程に違反したとき
3. この連盟の会員としての義務に違反したとき
4. 会費を滞納したとき

第4章 代議員

(代議員)

第13条 この連盟に社会人部、実業団部、ジュニア部および傘下各支部の正会員より選出された代議員をおく。

代議員は、各部ならびに各支部に所属する正会員および普通会員を代表する。

2. 代議員の任期は2年とし、再任を妨げない。補欠により就任した代議員の任期は、前任者の残任期間とする。
3. 代議員の選出方法と定数は、つぎのとおりとする。
各部より1名、各支部より1名とし、支部会員数100名につき1名を加え、最高3名を限度とする。

第5章 役員および職員、顧問

(役員)

第14条 この連盟に、つぎの役員をおく。

1. 理事20名以上30名以内
うち会長 1名、副会長 若干名、理事長 1名、副理事長 若干名
2. 監事2名または3名

(役員の選任)

第15条 理事および監事は、代議員総会で選任し、理事は互選で会長、副会長、理事長、副理事長および常任理事を定める。

(理事の職務)

第16条 会長は、この連盟を代表する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代理し行なう。
3. 理事長は、会長、副会長を補佐し、理事会の議決に基づき日常の業務に従事し、代議員総会の議決した事項を処理する。
4. 理事は、理事会を組織してこの定款に定めるもののほか、この連盟の代議員総会の権限に属する事項以外の事項を議決し執行する。

(監事の職務)

第17条 監事は、この連盟の業務および財産に関し、つぎの各号の規定する業務を行なう。

1. 連盟の財産の状況を監査し報告する

2. 理事の業務執行の状況を監査する

(役員の任期)

第18条 この連盟の役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2. 補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
3. 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行なう。

(役員の解任)

第19条 役員がつぎの各号の一に該当するときは、理事会および総会において、おのおの四分の三以上の議決により会長がこれを解任することができる。

1. 心身の故障のため、職務の執行にたえないと認められるとき
2. 職務上の義務違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

(職 員)

第20条 この連盟の事務を処理するために必要な職員をおく。

2. 職員は会長が任免する。
3. 職員は有給とする。

(顧問、参与)

第21条 この連盟に名誉会員、若干名の顧問、参与をおくことができる。

2. 顧問、参与は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
3. 顧問、参与は、理事会の諮問に応ずる。

第6章 会 議

(会議の種類)

第22条 この連盟の会議をわけて代議員総会、理事会および常任理事会とする。

(代議員総会)

第23条 代議員総会は、これを定時代議員総会と臨時代議員総会の2種とする。定時代議員総会は毎年度開始後50日以内に開き、臨時代議員総会は会長が必要と認めたとき、または代議員の三分の一以上から会議に付議すべき事項を示して代議員総会の招集を請求されたときは、その請求の有った日から30日以内に会長がこれを招集する。

2. 代議員総会を招集するには、会日の10日前までに会議に付議すべき事項およびその内容、日時、場所を記載した書面を各代議員に発するものとする。
3. 代議員総会の議長は、年度の定時代議員総会において選出され、次年度の定時代議員総会で後任者が選出されるまで議長となる。

(代議員総会の議決事項)

第24条 つぎの事項は、代議員総会の議決を経なければならない。

1. 定款の変更
2. 年度の事業計画および収支予算の決定
3. 年度の事業報告および収支決算の承認

4. 役員の選出ならびに解任
5. 財産に関すること
6. この連盟の解散
7. その他特に重要な事項

(定足数、議事)

- 第25条 代議員総会は、代議員の三分の二以上が出席しなければ開くことができない。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす。
2. 代議員総会の議事は、出席代議員の過半数をもってこれを決する。代議員総会における代議員の議決権は、代議員1名につき1とする。
 - 可否同数のときは議長がこれを決する。

(代理出席)

- 第26条 代議員が代議員総会に出席できないときは、同部同支部会員、または他の代議員に委任して、その議決権を行使することができる。この場合には、書面をもってその代理権を証明しなければならない。

(理事会)

- 第27条 理事会は、毎年2回以上開催し、会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、および理事現在数の三分の一以上から会議に付議すべき事項を示して、理事会の招集を請求されたときは、その請求のあった日から10日以内に理事会を招集しなければならない。
2. 理事会の議長は会長とする。
 3. 理事会に付議する事項はつぎのとおりとする。
 - (イ) 定款の変更に関すること。
 - (ロ) 年度の事業計画および収支予算に関すること。
 - (ハ) 年度の事業報告および収支決算に関すること。
 - (ニ) 財産に関すること。
 - (ホ) 委員会の設置ならびに委員の委嘱に関すること。
 - (ヘ) この定款により理事会に付議することを要すること。
 - (ト) その他この連盟の運営上必要なことで、会長が必要と認めて付議すること。

(常任理事会)

- 第28条 常任理事会は、会長、副会長、理事長、副理事長、常任理事をもって構成し、原則として毎月1回または会長が必要と認めた場合に会長が招集して開催する。
2. 常任理事会に付議する事項は、つぎのとおりとする。
 - (イ) この連盟の運営に関すること。
 - (ロ) 代議員総会および理事会に付議する議案に関すること。
 - (ハ) 代議員総会または理事会において委任されたこと。
 - (ニ) この定款により常任理事会に付議することを要すること。
 - (ホ) その他会長が必要と認めて付議すること。

(理事会、常任理事会の定足数および議事)

- 第29条 理事会、常任理事会は理事および常任理事現在数の三分の二以上出席しなければ議事を

開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は出席者とみなす。

2. 理事会および常任理事会の議事は、この定款に別に定める場合を除くほか、それぞれの出席理事および常任理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

(議事録)

第30条 すべての会議には、議事録を作成し議長および出席者の代表2名以上が署名捺印し、永年保存する。

また、議決した事項は、全日本ボウリング協会ならびに会員に通知する。

第7章 専門部および委員会

(部および委員会)

第31条 この連盟の業務を企画実施するために、下記の部ならびに委員会を設置する。

1. (イ) 社会人部
 - (ロ) 実業団部
 - (ハ) ジュニア部 (高校部、中学部、ジュニア部)
2. 委員会
 - (1) 総務委員会
 - (2) 競技委員会
 - (3) 指導委員会
 - (4) 広報委員会
 - (5) ジュニア指導委員会
 - (6) 記録委員会
 - (7) 認証委員会
 - (8) アマチュア委員会
 - (9) 審判委員会 (10) 褒賞委員会 (11) レディース委員会

(その他の委員会)

第32条 この連盟に必要があると認めるときは、理事会の議決を経て、その他の専門委員会、および特定の事業を行なうため、特別委員会、合同委員会ならびに小委員会をおくことができる。

(部長、委員長および委員)

第33条 各部長および各委員会の委員長は、理事会において副理事長、常任理事より選任されるものとし、委員は理事、会員の中より選出されるものとする。ただし、アマチュア委員会のみは会長、副会長、理事長、副理事長をもって構成する。

(任期、その他)

第34条 各部および委員の任期は2か年とする。各委員会の組織、権限および議事等については別に定める規則をもって定める。

第8章 会計

(収入)

第35条 この連盟の収入は、つぎのとおりとする。

1. 入会金および会費
2. 事業に伴う収入
3. 寄付金品
4. その他の収入

(金銭の管理)

第36条 この連盟の会計は、会長が管理し、現金は理事会の議決によって預金等の確実な方法により、会長が保管する。

(資産の処分)

第37条 この連盟の資産は処分し、または担保に供してはならない。ただしこの連盟の事業遂行上止むを得ない理由があるときは、理事会および代議員総会の議決を経て、その一部に限り処分し、または担保に供することができる。

(経費の支弁)

第38条 この連盟の事業遂行に要する費用は、会費、事業に伴う収入およびその他の収入をもって支弁する。

(事業計画および収支予算)

第39条 この連盟の事業計画およびこれに伴う収支予算は会長が編成し、理事会および代議員総会の承認を受けるものとする。また、承認を受けたのち、全日本ボウリング協会に報告するものとし、事業計画および収支予算を変更した場合も同様とする。

(事業報告および収支決算)

第40条 この連盟の収支決算は、会長が作成し財産目録（貸借対照表）および事業報告、会員の異動状況書とともに監事の意見をつけ、理事会および代議員総会の承認を受けるものとする。

2. この連盟の収支決算に剰余金があるときは、理事会は議決および代議員総会の承認を受け、その一部もしくは、全部を基本財産に編入するか、または翌年度に繰越すものとする。
3. この連盟の事業報告および収支決算は承認を受けたのち、全日本ボウリング協会に報告するものとする。

(会計年度)

第41条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第9章 定款の変更ならびに解散

(定款の変更)

第42条 この定款は、理事会および代議員総会において、おのおの三分の二以上の議決を経、更

に全日本ボウリング協会の承認を得なければ、変更することができない。

(解 散)

第43条 この連盟の解散は、理事会および代議員総会において、おののの四分の三以上の議決を経、更に全日本ボウリング協会の承認を得なければならない。

(残余財産の処分)

第44条 この連盟の解散に伴う残余財産は理事会および代議員総会において、おののの四分の三以上の議決を経、全日本ボウリング協会を経由し、公共事業に寄付するものとする。

第10章 補 則

(細 則)

第45条 この定款施行についての細則は、理事会および代議員総会の議決を経て、別に定める。

第46条 この定款は平成15年4月1日より施行するものとする。

附則

この定款は平成18年5月31日より改正施行するものとする。

岩手県ボウリング連盟

会員登録規定

岩手県ボウリング連盟

会員登録規定

定款第3章に基づき、会員の登録規定を定める。

(重複登録の禁止)

第1条 この連盟に登録し承認されたすべての会員はこの連盟に所属し、他の連盟に重複し登録することはできない。

第1章 正会員

第1節 個人正会員

(個人正会員)

第2条 個人正会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した個人とする。

(構成)

第3条 この連盟の個人正会員は支部に属し、社会人部を構成し、競技運営上は、全日本社会人ボウリング連合の構成員となる。

(移籍)

第4条 この連盟の個人正会員は、その在住、在勤、在学するところを変更した場合、他の連盟の社会人部に移籍することができる。

移籍しようとする個人正会員は、速やかに支部を通じ所定の移籍届を提出し、承認を受けなければならない。

第2節 実業団会員

(実業団会員)

第5条 実業団会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した実業団とする。

(実業団会員の登録手続および登録資格)

第6条 この連盟に所属する実業団会員の登録手続および登録資格は、つきのとおりとする。

1. 登録手続

実業団登録申請書に、登録メンバーを記入し、メンバー各人の健康保険証の表紙コピーまたは給与証明書を添付するか、あるいは法人人事責任者の在籍証明書を添付し申請する。

2. 登録資格

岩手県に所在する団体、法人で、つきの資格を有するもの。

(イ) 官公庁、団体。

(ロ) 株式、合同、合資、合名、有限会社の法人。

- (ハ) 協同組合等は、財団法人、社団法人のみとし、その登録メンバーは、法人事務所専従者に限る。
- (ニ) 実業団会員は、同一の法人または団体の役員および社員、職員で構成されたメンバーで、5名以上を有するものとする。

(構成)

第7条 この連盟において、実業団部を構成し、競技運営上は全日本実業団ボウリング連合の構成員となる。

(資格の喪失)

第8条 実業団会員は、その登録メンバーが5名より少なくなった場合には、その資格を失う。ただし、この場合所定の手続を経て、承認された登録メンバーに限り補充できるものとする。また、当該実業団会員の社員、職員でなくなった場合、または、転勤等により登録メンバーでなくなった場合には、実業団会員メンバーとしての資格を失うものとする。

第3節 高等学校登録会員

(高等学校登録会員)

第9条 高等学校登録会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した高等学校とする。

(高等学校登録会員の登録手続および登録資格)

第10条 この連盟に所属する高等学校登録会員の登録手続および登録資格は、つきのとおりとする。

1. 登録手続

高等学校登録申請書に登録メンバー名簿を添付して申請する。

2. 登録資格

学校教育法同施行細則の「高等学校設置基準」によって設置された高等学校とする。

(イ) 登録メンバーは、18歳未満の在籍生徒とする。

(ロ) 登録メンバーは、学校により承認されたメンバーで、数の制限はない。

(ハ) 登録メンバー名簿は、毎年提出すること。

(ニ) この連盟の高校生会員と重複してメンバー登録することはできない。

第4節 高校生会員およびジュニア会員

(高校生およびジュニア会員)

第11条 高校生会員およびジュニア会員は、両親または親権者および雇用責任者が、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した高校生およびジュニアとする。

(高校生会員およびジュニア会員の資格)

第12条 この連盟に所属する高校生会員およびジュニア会員の登録資格は、登録申請時に満18歳未満の者とし、登録申請に際してはつきの必要書類を添えて申請し、承認された個人とする。

1. 両親または親権者および雇用責任者の入会承諾書

2. 年齢を証明できる書類
3. その他必要とするもの

(構成)

第13条 この連盟の高校生会員およびジュニア会員は、支部（クラブ）に所属し、この連盟のジュニア部を構成する。

(資格の喪失)

第14条 高校生会員およびジュニア会員は、満18歳に達したときその資格を失う。

(資格の継続と移籍)

第15条 高校生会員およびジュニア会員の資格の継続と移籍は、つぎのとおりとする。

1. 満18歳に達したとき、この連盟内の個人正会員、実業団会員メンバーとして、その年度内は自動的に正会員として資格を継続できる。
2. 満18歳に達したとき、所定の手続を経て、他の部ならびに他の連盟に移籍することができる。

第2章 普通会員

(個人普通会員)

第16条 個人普通会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した個人とする。

(構成)

第17条 この連盟の個人普通会員は、支部（クラブ）に属し、この連盟の社会人部の構成員となる。

(大会への参加資格)

第18条 この連盟の個人普通会員は、支部（クラブ）および連盟主催、共催等の競技会、リーグ等に参加することができる。全日本、地区等の県外の大会については正会員の登録をし、資格を取得しなければ参加することはできない。

ただし、大会開催要項に特別な記載がある場合には、当該要項に基づき参加することができる。

(会員の継続と移籍)

第19条 この連盟の個人普通会員は、継続手続により資格を継続できる。また、在住在勤するところを変更した場合に移籍することができるが、新たに所定の登録申請手続により承認を得るものとする。

いかなる場合にも、重複して登録することはできない。

(記録の公認と褒賞)

第20条 この連盟の普通会員の記録は公認され、競技褒賞についても全日本ボウリング協会「競技褒賞授与に関する細則」一般競技褒賞の適用を受けることができる。

第3章 会 費

(会 費)

第21条 この連盟の会費は、全日本ボウリング協会に納入する負担金を含め、つきのとおりとする。

1. 正会員の会費 (全日本ボウリング協会負担金、連盟費)

(イ) 個人正会員 年額1名7,000円

(負担金1,500円、連盟費5,500円)

(ロ) 実業団会員 年額35,000円

(負担金7,500円、連盟費27,500円)

ただし5名を1口とし、1名増やすごとに、

負担金1,500円、連盟費5,500円の合計7,000円を

増すものとする。

(ハ) 高等学校登録会員 年額1校5,000円

(負担金3,000円、連盟費2,000円)

登録メンバーは、数の制限を設けず、それぞれ会員証を交付する。

(二) 高校生会員およびジュニア会員 年額1名500円

(負担金300円、連盟費200円)

2. 普通会員の会費 (全日本ボウリング協会負担金、連盟費)

年額1名2,000円

(負担金1,000円、連盟費1,000円)

同一年度内に正会員に移籍登録するときには、正会員の会費を納入すること。また、同一年度内に他の支部（クラブ）に移動、移籍したときには、新たに当該会費を納入するものとする。

3. 会員は、毎年3月31日までに次年度の会費を納入することにより、自動的に会員の資格を継続できる。ただし、高等学校登録会員、高校生会員およびジュニア会員は、毎年4月30日まで継続手続を延長することができる。

4. 正会員が、同一年度内に他の連盟の同一正会員へ移籍したときは、当該連盟の連盟費を添えて手続をしなければならない。ただし、当該年度の全日本ボウリング協会の負担金は納入する必要はない。同一年度内、個人正会員から実業団会員メンバーに、あるいは実業団会員メンバーから個人正会員に移動する場合には、負担金ならびに連盟費を新たに納入しなければならない。

5. 名誉会員の会費は免除する。

6. 特別会員の会費は別に定める。

7. 既納の会費は、いかなる事由があっても返還しない。

第4章 補 則

(細 則)

第22条 この規定は、平成15年4月1日より施行する。

附則

この規定は、平成18年5月31日より施行するものとする。

財団法人日本体育協会スポーツ憲章

(平成20年9月10日施行)

【スポーツの意義】

スポーツは、人々が楽しみ、より充実して生きるために、自発的に行う身体活動である。生涯を通じて行われるスポーツは、豊かな生活と文化の向上に役立つものとなる。

【スポーツを行う者の心得】

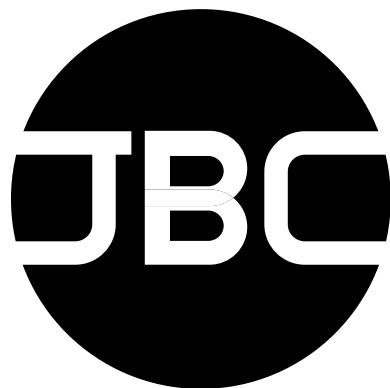
- ◎スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う。
- ◎競技規則はもとより、自らの属する団体の規則を遵守し、フェアプレーの精神を尊重する。
- ◎常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす。
- ◎アンチ・ドーピングに関する規程を遵守する。
- ◎スポーツを行うことによって、自ら物質的利益を求めない。
- ◎スポーツによって得た名声を、自ら利用しない。

【スポーツ精神】

自らのスポーツを行うことに意義と価値をもち、スポーツの競技規則、スポーツマニシップやフェアプレーに代表されるマナー、エチケットなどのスポーツ規範に基づき、生涯を通じて自己の能力適性等に応じて、主体的・継続的にスポーツの楽しさや喜びを味わうことを意味するものとする。

ボウリング規定集

(ボウリング競技規則)



財団法人 全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

ボウリング施設、設備、用具の規格

第1章 総 則

第1条 ボウリング施設、設備、用具はすべてF. I. Q世界テンピンボウリング連盟 (WTBA) の国際規格に従うものとし、以下示す規格による。

ただしこれらに該当しない新規のものについては、認証規定第4条を適用する。

第2章 ボウリングレーン

第2条 材 質

ボウリングのレーン、ガター、キックバックおよびアプローチはすべて木製および、他の承認された材質で作成されたものとする。

第3条 アプローチ

ファールラインの後方にアプローチを設ける。

アプローチの長さは、ファールラインを含まないで4.572メートル (15フィート) を最少限とする。

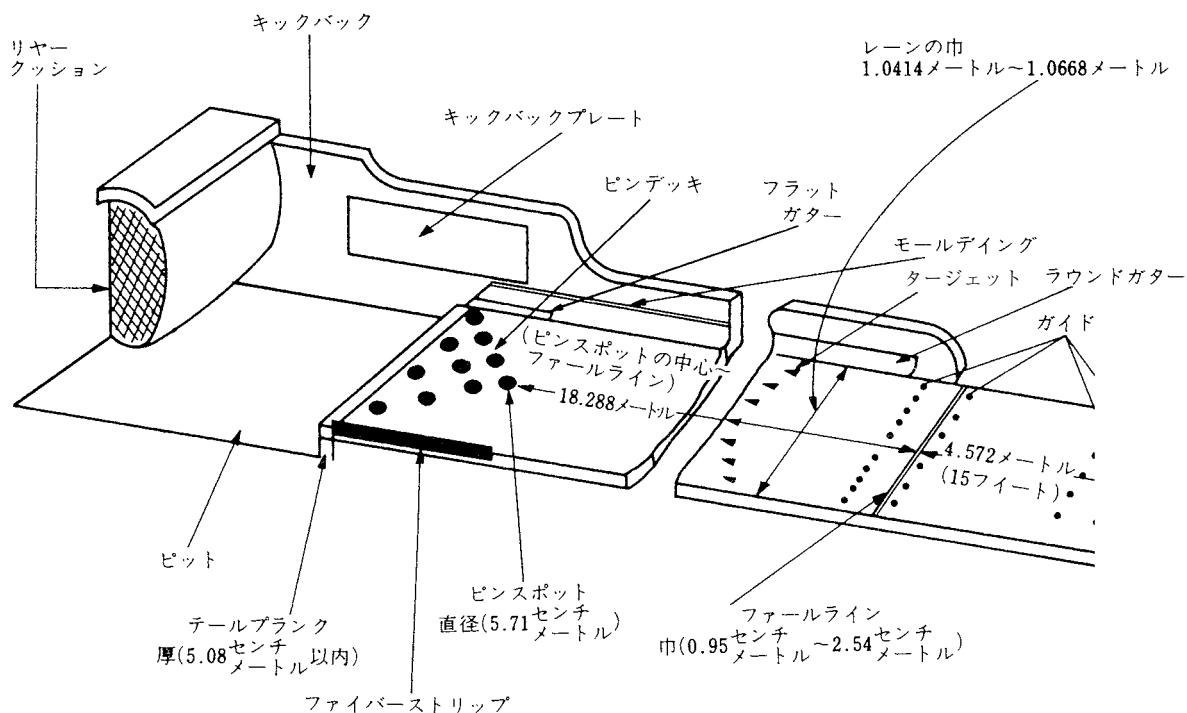
その表面は滑らかで水平にし、6.3ミリメーチル (1/4インチ) 以上の凹凸があつてはならない。

第4条 ファールライン

ファールラインの幅は0.95センチメートル (3/8インチ) 以上2.54センチメートル (1インチ) 以内とし、明瞭にしるしをつけるか、またはレーン内に埋込むものとする。

ファールラインはレーンから投球者の手の触れる範囲にある壁や柱まで延長するものとする。

ボウリング各部の名称



第5条 ファール審判設備

すべて公認の競技場では、ファール判定のための判定器を設備するものとし、この設備のない場合には、ファール審判員が全ファールラインを直接見透せる場所に審判員席を設けるものとする。

第6条 レーン

(イ) レーンの長さ

レーンの長さは、ファールラインからピット（テールプランクを含まない）まで 19.1563 メートル (62 フィート 10 インチ 3/16) とし、その許容範囲は 1.27 センチメートル (1/2 インチ) 以内とする。

ファールラインから 1 番ピンスポットの中心までは、18.288 メートル (60 フィート) とし、その許容範囲は 1.27 センチメートル (1/2 インチ) 以内とし、1 番ピンスポットの中心からピット（テールプランクを含まない）までは 86.83 センチメートル (34 インチ 3/16) とする。

(ロ) レーンの幅

レーンの幅は 1.0414 メートル (41 インチ) 以上 1.0668 メートル (42 インチ) 以内とし、レーンにガターを加えた幅は 1.524 メートル (60 インチ) 以上、1.530 メートル (60 インチ 1/4) 以内とする。

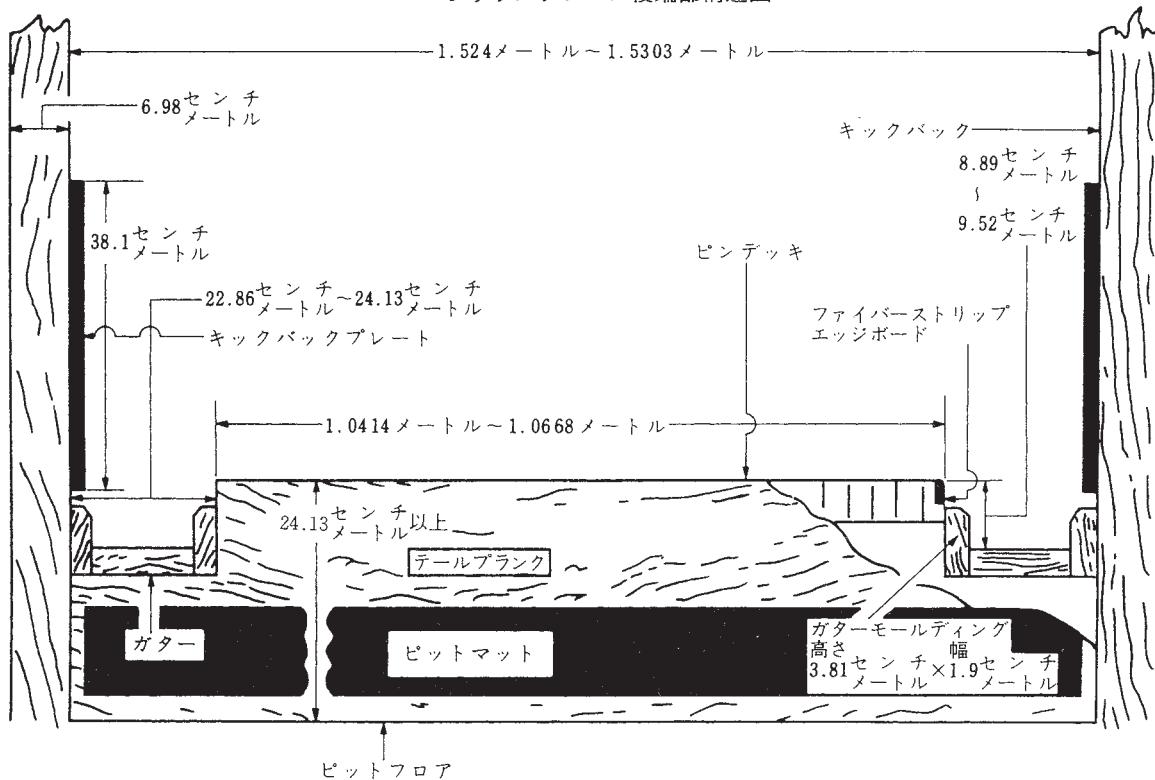
(ハ) 表面

表面には、連続した凹凸があつてはならない。

横の水平度は、左右 1.0 ミリメートル (40/1000 インチ) 以上の傾斜があつてはならない。

また、凹みの探さで 1.0 ミリメートル (40/100 インチ) 以上の傾斜があつてはならない。

ボウリングレーン後端部構造図



第7条 ピンデッキ

ピンデッキは、全体が堅木または、WTBAの承認された他の材料でなければならない。

ファイバーストリップは、厚さ6.3ミリメートル（1/4インチ）幅3.81センチメートル（1インチ1/2）以内の板でこれをピンデッキの後端からファールライン方向にガターに接したピンデッキの両側面に取付けるものとする。取付は、厚さ6.3ミリメートル（1/4インチ）の面をピンデッキの表面に現わし、その縁は3.9ミリメートル（5/32インチ）半径の丸みをつけるものとする。この丸みは、リサーフェーシング（表面の補修手入）の際、変化があった場合には、これを原形に複するよう修正しなければならない。

第8条 テールプランク

幅5.08センチメートル（2インチ）以内のテールプランクをレーン後端に取付けることができる。

ただし、7, 8, 9, 10番ピンスポットの中心線からレーンの後端までの平らな面の距離は、テールプランクを含めて12.7センチメートル（5インチ）以上あってはならない。

第9条 ガター

ガターは、レーンの両側に設け、ファールラインからピットまでレーンに平行して取付けるものとする。

ガターの幅は、22.86センチメートル（9インチ）以上24.13センチメートル（9インチ1/2）以内とし、両ガターにレーンを加えた幅は1.524メートル（60インチ）以上1.5303メートル（60インチ1/4）以内とする。ガターの探さは、1番ピンの前方38.1センチメートル（15インチ）のところ角形の底とし、この部分ではゆるやかに傾斜させ堅固にこれを取付けなければならない。ガターがピットに入るところではレーンの表面から測って、最も浅いところで8.89センチメートル（3インチ1/2）以上、最も深いところで9.52センチメートル（3インチ3/4）以内となるように取付けるものとする。

帯状のモールディングは各ガターの規定以外の部分は凹型で木および合成材料でなければならない。また取付時にガターの断面の中心で計測し、最低4.76センチメートル（1インチ7/8）の探さを持たなければならない。低い隅の部分に堅固に取付けるものとし、1番ピン前方38.1センチメートル（15インチ）のところで、高さ2.22センチメートル（7/8インチ）以内、幅1.9センチメートル（3/4インチ）を超えてはならない。また緩やかに高さが3.8センチメートル（1インチ1/2）になるよう取付けるものとする。

第10条 ピンスポット

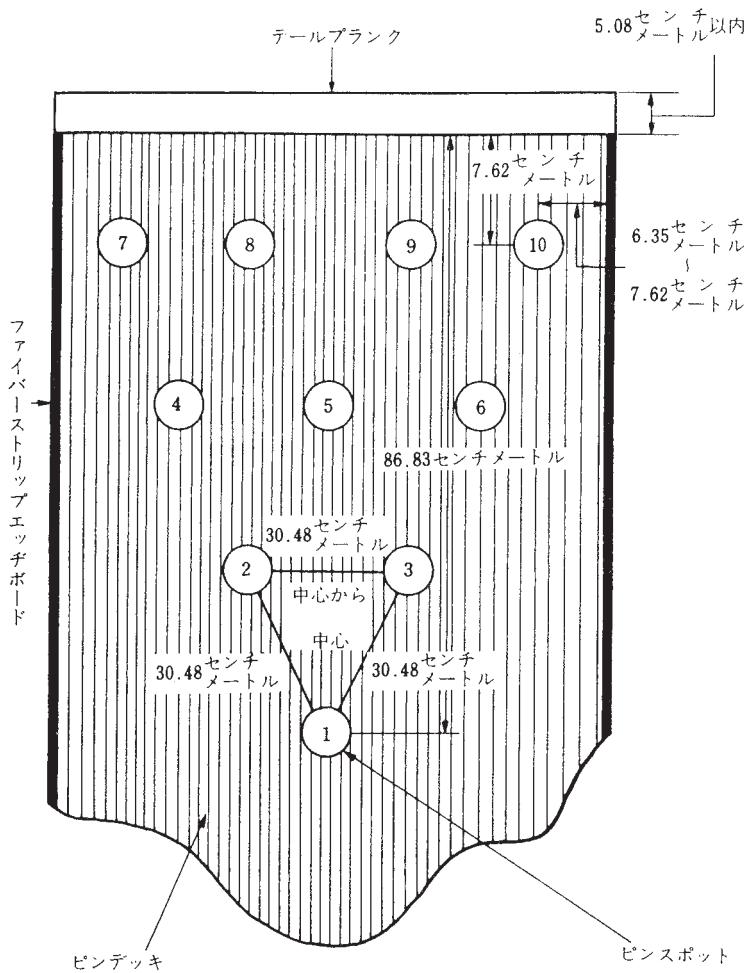
ピンスポットは、ピンが配置される位置を示すものでレーンの上に明瞭に画く（スタンプまたはプリント）か、またはレーンに埋込むものとし、その直径は5.71センチメートル（2インチ1/4）、各ピンの間隔は中心から中心まで30.48センチメートル（12インチ）とする。各ピンおよびスポットは図に示すように番号で呼称するものとする。

⑦ ⑧ ⑨ ⑩
④ ⑤ ⑥
② ③
①

7, 8, 9, 10番のピンの中心からピットまで（テールプランクを含まない）は、7.62センチメートル（3インチ）とし、7番および10番のピンの中心から各々の側のピンデッキの側面の端までは6.35センチメートル（2インチ1/2）以上、7.62センチメートル（3インチ）以内とする。

7番および10番のピンスポットの中心から、各々の側のレーンおよびガターの幅を加えた

ピンスポット配置図



長さは30.48センチメートル(12インチ)以上, 30.79センチメートル(12インチ1/8)以内とする。1番のピンスポットは, レーンの両端および両側のキックバックから等距離にあり, ピンスポットの中心から両側のキックバックまでは, 各々76.2センチメートル(30インチ)以上なくてはならない。また, 1番ピンスポットの中心から, 最後列のピンの中心を結んだ線までの距離は79.21センチメートル(31インチ3/16), ピット(テールプランクを含まない)までは86・83センチメートル(34インチ3/16)とする。

第11条 ピンセッティング装置

オートマチックピンセッターは, すべてピンが適正に配置されなければならない。

第12条 キックバック

キックバックは, 1番ピン前方38.1センチメートル(15インチ)のところから, 後端のリヤークッションのところまでレーンに平行して設けるものとし, その高さはレーンの表面から43.18センチメートル(17インチ)以上60.96センチメートル(24インチ)以内とする。両側のキックバックの間の距離は1.524メートル(60インチ)以上, 1.5303メートル(60インチ1/4)以内とする。

第13条 キックバックプレート

キックバックには, 厚さ4.7ミリメートル(3/16インチ)以内の堅いファイバーの板を取付けることができる。その他のものを取付けることができない。

第14条 ピット

ピットマットからレーンの上面までは24.13センチメートル（9インチ1/2）以上とする。

ピットの奥行は、レーンの後端（テールプランクを含む）から、クッションの面まで63.5センチメートル（25インチ）以上とする。

第15条 リヤークッション

リヤークッションは、黒色の材料で覆うものとし、ピンがレーンに跳ね返らないようにしなければならない。

第16条 標識

レーンおよびアプローチの表面の標識は、次のとおりとする。

ファールラインの前方3.6576メートル（12フィート）から4.8768メートル（16フィート）の間のところに、最大限7個のタージェットをレーンの上にしるすかまたは埋込むことができる。タージェットの形状は1つ以上のダウエル、ダート、ダイヤモンド、三角または、矩形に統一されたもので、その底辺は3.172センチメートル（1インチ1/4）以内、高さは15.24センチメートル（6インチ）以内とする。各タージェットは均一な形状とし、等距離間隔に配置するものとする。ファールラインの前方1.8288メートル（6フィート）から2.4384メートル（8フィート）の間のところにファールラインに平行して最大限10個のガイドを一線上にしるすかまたは埋込むことができる。各ガイドは均一な円形とし、その円の直径は1.9センチメートル（3/4インチ）以内とする。

ファールラインから後方5.08センチメートル（2インチ）から15.24センチメートル（6インチ）の間のところ、および3.3528メートル（11フィート）から3.6576メートル（12フィート）の間のところ、4.2672メートル（14フィート）から4.572メートル（15フィート）の間のところに、ファールラインと平行して一線上にそれぞれ最大限7個のガイドをしるすか、または埋込むことができる。

各ガイドは直径1.9センチメートル（3/4インチ）以内の円形で均一なものでなければならぬ。

すべて埋込む標識は、木、ファイバーまたはプラスチック製とし、レーンおよびアプローチの表面と平らでなければならない。

スタンプする標識は、最初木に直接スタンプしその上にラッカー、シェラックまたは類似の透明材料で塗装するものとし、一競技場の各レーンについては形状および寸度は共に同一としなければならない。

第17条 裏面の補修仕上げ（リサーフェーシング）

公認の競技に使用する、レーン、アプローチは24ヶ月以内に表面を補修し再仕上げしなければならない。

この場合には、塗装またはその他の材料を完全に除去し、凹凸その他これに類する表面の不良部分を削除し、水平度を正しくし、全表面を再びラッカー、シェラックまたは同様の無色透明な材料で塗装するものとする。

仕上げ後において、レーンおよびアプローチの表面は第3条および第6条に規定する水平度がなければならない。

第18条 補修の表示

補修が終わったレーンには補修を行った工事者の名称と、補修を行った年月日を明示することとし、その表示は少なくとも3枚の板にまたがり7番ピン側に塗装する以前の木部の上に明確に表示するものとする。

第19条 レーンの表面保護のためのレーンコンディショナー等の塗布は、各レーン均一とし、

レーン保護の目的以外に故意に塗布の方法を変えてはならない。レーンコンディショナー、その他如何なる方法においても故意に得点を出すように工作した場合、当該記録はすべて公認されない。

第3章 ボウリングピン

第20条 材 質

ボウリングピンは、その素材として单一または張り合わせの、良質で新しい楓を使用するものとする。張り合わせによる場合には、その各片を縦の軸と平行にして張り合わせ、必要なバランスを失わないようにしなければならない。但し、材質については、他の材質を使用してもよいが、楓材と同等の条件を満たすものとする。

第21条 重 量

ピン1本の重さは1,531グラム（3ポンド6オンス）以上、1,645グラム（3ポンド10オンス）以内とする。

ただし、1セットのピンは、構成、材料、仕上げラベルおよびネックマーキングを含め外観上、均一でなければならない。

第22条 重 心

ピンの重心位置は、底部より測定して15.08センチメートル（5インチ60/64）以内、14.28センチメートル（5インチ60/64）以上の位置になければならない。

第23条 含水率

すべてのピンは、製造時において含水率は6%以上12%以内とする。張り合せて造ったピンの含水率は張り合せ時に個々の板に2%以上の差があつてはならない。

第24条 標識および塗装

ピンの塗装は、ネックマーキング、識別表示、名称を除き、白色でなければならない。

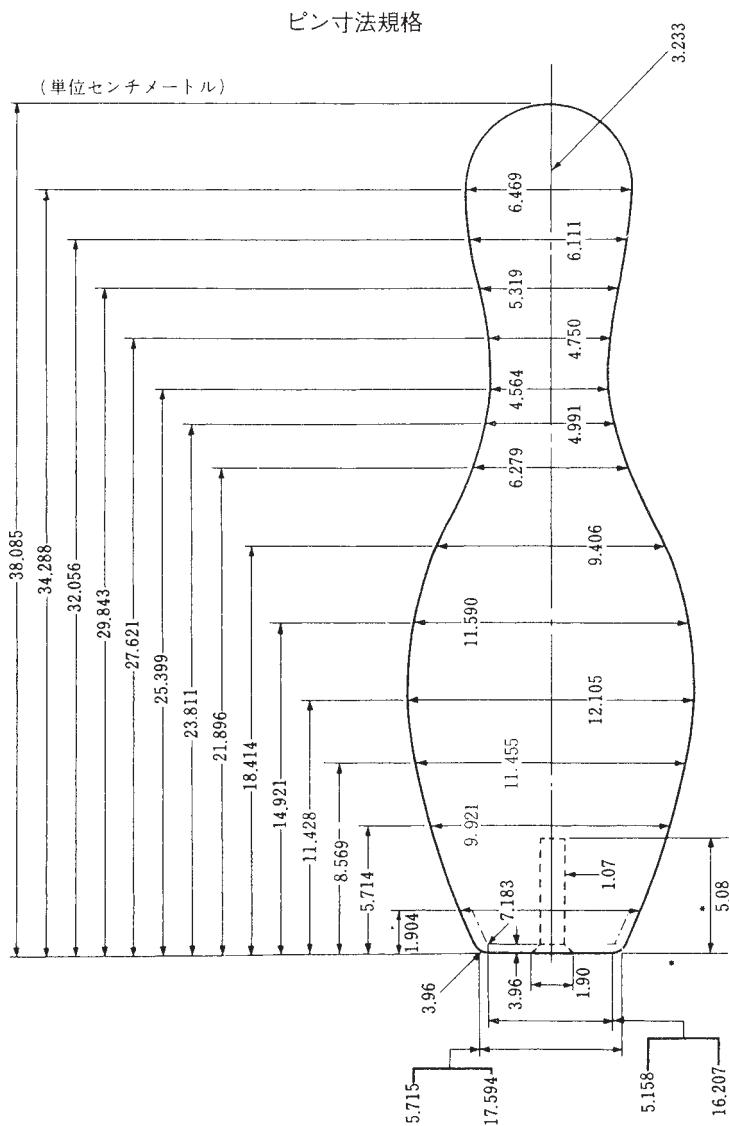
塗装膜の厚さは1.0ミリメートル（0.004インチ）以下とする。

第25条 形状、寸度

ピンの高さは38.085センチメートル（15インチ）としその許容範囲は、上下0.8ミリメートル（2/64インチ）とする。

胴体各部の直径は次の通りとする。

部分	直径			
底（角を丸めないとき）		5.714	センチメートル	
底（角を丸めたとき）		5.157	"	
底からの高さ1.904センチメートルのところ	7.183		"	
" 5.714	"	9.921	"	
" 8.569	"	11.455	"	
" 11.428	"	12.105	"	
" 14.921	"	11.590	"	
" 18.414	"	9.406	"	
" 21.896	"	6.279	"	
" 23.811	"	4.991	"	
" 25.399	"	4.564	"	
" 27.621	"	4.750	"	
" 29.843	"	5.319	"	



" 32.056 " 6.111 "

底からの高さ 34.288 センチメートルのところ 6.469 センチメートル

以上の直径で許容範囲の大、小は各々 0.787 ミリメートルとする。ピンの頭部は半径 3.233 センチメートル (1.273 インチ) の均一な球の弧とし、その許容範囲は 0.787 ミリメートル (0.031 インチ) とする。ピンの表面の線は全体がなだらかな曲線となるようにしなければならない。

ピンの底は平らにし、中央に直径 1.07 センチメートル (0.422 インチ) の穴をあけ、その周囲を幅 1.9 センチメートル (3/4 インチ) の輪形とする。ピンの底にはプラスチックまたはナイロン製のアタッチメントを取付けるものとし、アタッチメントと底木部は平らであり凹凸があってはならない。また、その外周縁は半径 3.96 ミリメートル (5/32 インチ) の円形に丸めるものとする。

その許容範囲は 0.787 ミリメートルとする。丸めた部分を除いた底の平らな部分の直径は 5.08 センチメートル (2 インチ) 以上とする。

第26条 表面硬度

ピン各部における表面硬度は平均したもので規定の範囲内にあるものとする。

第27条 ピンの補修

ピンの汚れや、ささくれを除くためのスチールワールまたは、サンドペーパーを使用することは差支えないものとする。

再塗装をするときは、塗装の厚さが規定以上にならぬようにしなければならない。

表面は特に凹みや、塗装のはがれができたり、元のラベルやネックマーキングを取りかえたり、別のラベルやマーキングをつけたピンは公認の競技には使用できないものとする。

また、公認の競技に使用するピンはなるべく新しいもので300ゲーム使用以内のものではなくてはならない。

第4章 ボウリングボール

第28条 材 質

ボウリングボールは、非金属性のものでなければならない。

第29条 重 量

ボールの重量は7.257キログラム（16ポンド）以下でなければならない。

第30条 寸 度

ボールの円周は、最大68.58センチメートル（27インチ）以内、最小67.828センチメートル（26.704インチ）以上で、直径は最大21.831センチメートル（8.595インチ）以内、最小21.59センチメートル（8.5インチ）以上で、直径各面同一でなければならない。

ただし、この場合の円周の許容範囲は±0.127ミリメートル（0.005インチ）とする。

第31条 バランス

ボウリングボールは、指穴をあけたのち、つぎに示す6つの側面でバランスがその範囲内になければならない。

1. 4.536キログラム（10ポンド）以上、7.257キログラム（16ポンド）以下のボール
 - (イ) ボールの頭部（指穴のある側）と底部（指穴の反対側）の差が85.05グラム（3オンス）以内とする。
 - (ロ) 指穴の左右の側および前後の側の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。
 - (ハ) 親指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。
 - (ニ) 親指以外の指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。
 - (ホ) 指穴のない使用ボールの上下、左右、前後の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。
2. 3.629キログラム（8ポンド）以上、4.536キログラム（10ポンド）未満のボール
 - (イ) ボールの頭部（指穴のある側）と底部（指穴の反対側）の差が56.70グラム（2オンス）以内とする。
 - (ロ) 指穴の左右の側および前後の側の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。
 - (ハ) 親指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。
 - (ニ) 親指以外の指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。
 - (ホ) 指穴のない使用ボールの上下、左右、前後の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。

3. 3.629キログラム（8ポンド）未満のボール

上下、左右、前後いずれの差も21.26グラム（3/4オンス）以内とする。

第32条 外 観

ボールの表面は、ボールを持つための指穴は5穴を限度とし、ほかに特別の凹凸や溝があつてはならない。

ただし、バランスをとるため、通気のためにあけられる一つの穴は直径で0.635センチメートル（1/4インチ）を越えてはならない。また、標識、文字番号その他使用により生じた偶然の傷は差支えないものとする。なお、バランスのための穴の直径は、3.175センチメートル（1インチ1/4）以内までとし、原則としてボールのローリングライン上にあけてはならない。

第33条 ボールには、可動の装置をつけまたは工作することはできない。ただし、指穴間の距離や、指穴と親指穴間の距離を変えたり、指穴や親指穴の大きさ、探さ等を変えるような装置は、競技中にその位置が動かないように固定でき、ボールからその装置を取り除くことが装置をこわさなければできないような構造のものは差支えないものとする。ボールは手により投げられるものであるが、手もしくは手の主要部を失った競技者が投球できるように工作された装置は使用できるものとする。

第34条 ボールの表面硬度は硬度72度（デュロメーターD）以上とする。また、ボールは製造されたのち故意に薬品またはその他の方法によりその表面の硬さを変えるような加工したものを使用することはできない。

第35条 (1) この規格は昭和49年2月24日よりこれを実施する。

- (2) この規格は昭和55年1月1日よりこれを実施する。
- (3) この規格は昭和62年4月1日よりこれを実施する。
- (4) この規格は平成2年10月20日よりこれを実施する。
- (5) この規格は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- (6) この規格は平成14年11月12日よりこれを実施する。
- (7) この規格は平成18年4月1日よりこれを実施する。

ボウリング競技規則

競技規定 競技会規定 リーグ規定 選手権競技会規定

昭和49年 8月24日制定

昭和50年 4月20日一部改正

昭和59年10月1日一部改正

昭和62年 8月10日一部改正

平成 8年 4月 1日一部改正

平成10年10月 8日一部改正

平成13年 4月 1日一部改正

平成18年 4月 1日一部改正

平成20年 5月25日一部改正

平成21年 5月31日一部改正

ボウリング競技規則

この規則は、国際柱技者連盟（F. I. Q）世界テンピンボウリング連盟（FIQ, WTBA）の規則にもとづき制定し、日本におけるボウリング競技規則とする。

第1章 競技規定

（ゲームの構成）

第101条 ボウリングの1ゲームは、10個のフレームをもって構成する。

競技者はストライクの場合を除き、それぞれのフレームで2回づづ投球する。但し、第10フレームがストライクまたはスペアーの場合には、サービスフレームとし、ストライクの場合は、更に2回投球でき、スペアーの場合には1回投球できる。

ゲームの成績は、適正な投球によって、倒されたピンの数をもって計算し、10個のフレームの合計点によって、これを表す。

適正に投球されたボールとは、競技者の持っているボールが、手から放れ、ファールラインを越えたものを投球されたボールという。

（ストライク）

第102条 第1回の投球によって、完全に配置された10本のピンを全部倒した場合は、これをストライクという。

ストライクの場合は、そのフレームの小さな枠の左に（×）印をつけて表す。

ストライクの場合、そのフレームのピンの得点は、競技者が更に次のフレームの得点が加算されるので次のフレームの投球を終わるまで空欄としておく。

ストライクに続いて、次のフレームでスペナーの場合には、その得点は20となる。

（ダブル）

第103条 続けて2回ストライクの場合は、これをダブルという。

この場合、第1のストライクのフレームにおける得点は、競技者が更に次の投球を終るまで空欄としておく。

ダブルの場合、最初のストライクの得点は、20にそれに続く第3のフレームの第1球で倒されたピンの数を加える。従って、第2のストライクに続いて次の第1球で9本のピンを倒した場合には、第1ストライクのフレームには29を加える。

（トリプルまたはターキー）

第104条 続けて3回ストライクの場合は、トリプルまたはターキーという。

この場合、第1のストライクのフレームにおける得点は30となる。

このようにして10フレーム全部について連續12回のストライクのときは、そのゲームは300の得点となりパーフェクトゲームという。

（スペナー）

第105条 どのフレームにおいても、第2回の投球によってピンの全部を倒した場合は、これをスペナーという。

スペナーの場合は、そのフレームの小さな枠の右に（/）印をつけて、これを表す。第1回の投球で倒されたピンの数は、スペナーをとる前に小さな枠の左に記入し、そのフレームの得点は競技者が次のフレームで第1回の投球を終るまで空欄とし、次の第1球の得点をスペナーとしての得点10に加え、その合計をもって記入する。第10フレームにおいて

スペアーの場合は、サービスフレームとして続いて第3回を投球できる。

(エラー)

第106条 1つのフレームで2回投球し、10本のピンを全部倒すことができなかった場合は、これをエラーという。

エラーの場合には、第1回の投球で倒したピンの数を小さな枠の左に記入し、第2回の投球で残ったピンを1本も倒さなかったとき小さな枠の右に(ー)印をつけて表す。また、第2回の投球で倒したピンの数は小さな枠の右に記入し、そのフレームの得点は第2回の投球が終了すれば直ちに合計し記入する。

(スプリット)

第107条 第1回の投球によって、1番ピン(ヘッドピンともいう)およびその他いくつかのピンが倒れ、2本以上のピンが次のような状態に残った場合はスプリットという。

1. 残っているピンの中間のピンが少なくとも1本倒れたとき、例えば7と9あるいは3と10。

2. 残っているピンのすぐ前のピンが少なくとも1本倒れたとき、例えば5と6。

スプリットの場合は、そのフレームの小さな枠の左に(○)印をつけて表す。

第1回の投球によって倒したピンの数は、スプリット記号の(○)印の中に記入する。

第2回の投球により、スペアーとならなかったときは、倒したピンの数を小さな枠の右に記入し、この場合はそのフレームの得点は第2回の投球後、直ちに合計し記入する。

(ファール)

第108条 第1回あるいは第2回の投球のとき、ファールをした場合、第1投球のファールは左の枠、第2投球のファールは右の枠の中へ(F)印をつけてこれを表す。

フレームの第1回の投球でファールをした場合には、倒したピンは全部立て直され、第2回の投球で倒したピンだけをそのフレームで得点として計算する。

もし、第1投でファールをし、第2投で全部倒した場合は、スペアーとなり、第2投で全部倒さなかった場合はエラーとなる。

第2投でファールをおかした場合には、第1投で倒したピンの数だけをそのフレームで計算する。

第10フレームにおいて、第1投でファールをし、第2投で全部のピンを倒してスペアーとなった場合は、サービスフレームとして第3投を投げ、このフレームの計算はスペアーに第3投で倒したピンの数を加えたものとなる。

第10フレームで第3投がファールとなった場合は、最初の2回の投球により倒したピンの数だけを計算する。

第109条 (ガター)

第1回の投球でボールがガターに入った場合は、左の枠の中に(G)印をつけてこれを表す。

スペアをとるために投球した第2投がガターに入った場合は、右の枠の中に(ー)印をつけてこれを表す。

ガターの場合、得点は0となるが、第2投により10本のピンを全部倒した場合はスペアとして計算する。

スコアの記入例

フレーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	×	×	×	⑧/	F 8	9 F	×	8 -	G 9	×× 8
得 点	30	58	78	88	96	105	123	131	140	168

第110条 (競技の方式および投球の順序)

競技の方式は、デュアルレーン方式（アメリカ方式）・シングルレーン方式（ヨーロッパ方式）・ベーカー方式・マッチプレー方式・ラウンドロビン方式（総当たり戦方式）がある。

1. デュアルレーン方式（アメリカ方式）

競技者は、1対のレーンで1フレームずつを1つのレーンで投球し、次のフレームは同様に隣のレーンで投球し、各フレーム交互に2つのレーンを使用し、各レーンで5フレームずつを投球してゲームを完成する。引き続く次のゲームは、前のゲームを完了したレーンから開始する。ただし、各ゲームごとに他の異なったレーンを使用することを決めて競技する場合は、別に定める。

2. シングルレーン方式（ヨーロッパ方式）

競技者は、1つのレーンで投球してゲームを完成する。1ゲームごとに異なったレーンを使用する場合には、順次右隣りのレーンに移動して次のゲームを実施し、競技ゲーム数に応じ、これも同数のレーンを使用する。競技ゲーム数の2倍にレーンを使用する場合には、各競技者は半ゲームずつを各レーンで投球し、第1フレームと第6フレームとで次々と新しいレーンに移動する。

3. ベーカー方式

この競技の方式は、すべてチーム戦とし、1つのレーンであらかじめ決められた投球順序に従い、1フレームづつ交代で投球し、10フレームを終了する。

4. マッチプレー方式

- イ) 競技者は、1度に2フレームを投球する。
- ロ) ただし、左側レーン（奇数レーン）でスタートする競技者は、1フレームだけ投球する。
- ハ) その後、両競技者とも最初に右側レーン（偶数レーン）で投球し、その後続けて左側レーンで、もう1フレームを投球する。
- 二) 先に投球を始めた競技者は第10フレームを右側レーンで投球して自分のゲームを完成する。
- ホ) マッチプレーが2ゲーム以上からなる場合は、次のゲームでは競技者は前のゲームを完了したレーンから開始する。

5. ラウンドロビン方式（総当たり戦方式）

- イ) ラウンドロビンにおいては、予選の方式によりラウンドロビン競技に進出する競技者の人数が決定する。
- ロ) 各競技とも他のすべての競技者と1ゲームマッチの競技を行う。
- ハ) 最終ポジションマッチを加えることもできる。この場合のポジションマッチの組合せは、競技者がそれまでのマッチゲームを終了した時点の順位によって決定する。
- 二) ポジションマッチの前までの2-3位、4-5位、6-7位などに同位が生じた

場合は、次の競技者を上位とする。

- ① 勝ち点を除いた総得点の多い者
- ② 直接対戦において勝った者
- ③ 勝ちマッチゲーム数の多い者
- ④ ローゲーム、ハイゲームの差の少ない者
- ⑤ ハイゲームの高い者

(2名以上の同時競技)

第111条 1つのレーンまたは1対のレーンで1名もしくはそれ以上数名の競技者は同時に競技できる。

2名以上数名の競技者が同一のレーンまたは1対のレーンで投球する場合、競技者は順番に1フレームづつ投球する。

(ゲームの中止)

第112条 ゲームの途中、設備の故障により正常な進行ができなくなったときは、他のレーンに移動して、そのフレームからスタートし完了する。

この場合の練習ボールは各レーン2球以内とする。

同日内に完了することができない場合は、中断したところから再開し完了する。

(デッドボール)

第113条 次のような場合は、そのことを競技役員に申告し、デッドボールを宣告された場合は、正しい投球とみなされない。この場合はデッドボールとしピンを再配置し、競技者は再投球する。ただし、競技役員に申告、裁定をまたずに再配置した場合は、投球されたものとする。

1. 投球後、直ちに1本もしくはそれ以上のピンが脱落し、不足しているということが明らかに認められた場合。
2. ピンがまだ転がっている間に、又はボールがまだピンの位置に到着しないときに、ピン整備員がピンを取除いたり動かしたりした場合。
3. 競技者が投球レーンおよび、投球順序を間違えて投球した場合。
4. 競技者が投球態勢に入り、その競技者の投球する以前、または、投球したボールがピンに到達する以前にピン整備員あるいは、機械、その他のものによって妨害された場合。
5. 競技者のボールが他の妨害物に触れた場合。

(倒されたピンの認定)

第114条 倒されたピンは正しく認定しなければならない。

競技者の適正な投球によって倒され、または完全にレーンの上から倒れたピンのみを計算する。

ゲームの各フレームは、競技者がきめられた順番に従って投球し、正しく倒されたピンの数を記入し、得点とする。

(適正に倒されたピンとして計算されるもの)

第115条 デッドボールでない限り、競技者の投球は、すべて投球として計算する。

デッドボールの場合には、ピンを改めて再配置する。

1. 他のピンで倒されたピンおよび両側の仕切や後ろのクッションで跳ね返ったピンによって倒されたピンは、倒したものとして計算する。
2. フレームの第1投でピンの配列が不整（オフセット）であるときは、競技者が投球前に申告するものとし、申告のない場合、ピンの配列は完全なものとみなす。

従って、投球後、配列の不整が発見されても、その投球は有効であり得点として計算する。

3. 適正な投球によって倒され、レーンの上や、ガターの中に横になっているピン、あるいはキックバックその他両側の仕切に寄りかかるようになっているピンはデッドウッドといい、すべて倒されたものとして計算する。

これらのピンは、次のボールを投球する前に取り除くものとする。

(不正に倒されたピンとして計算されないもの)

第116条 次のような場合は、有効な投球となるが、倒したピンは計算しない。

1. 一度ガターに入ったボールによってピンが倒された場合。
2. 後ろのクッショングラウンドからボールが跳ね返ってピンを倒した場合。
3. ピンがピン整備員の身体に触れて跳ね返りピンを倒した場合。
4. 立っていたピンがデッドウッドの取除きの際に倒された場合。
5. 不明確な場合をふくみ、移動したピンが機械に触れて倒された場合（マシンタッチ）
以上（1～5）の場合、ピンはその投球前に立っていた、元のピンスポットの上に再配置する。
6. レーンから投げ出され、更に跳ね返って、そのレーンの上に立ったピンは立っているものとみなす。
7. 投球に際し、ファールとなった場合。

(移動したピン)

第117条 第1回の投球によって、移動したまま立っているピン（アウトオブレンジ）は、元のピンスポットに戻すことなく移動した位置で、第2回の投球をする。ただし、機械に触れて倒れた場合は、元のピンスポットの上に再配置する。（第116条の第5項）

(ピンの破損と再配置)

第118条 ゲーム中にピンが折れたり、その他いちじるしく破損した場合は、直ちに現在使用中のものと同じ状態のピンに交換することができる。

このようなピンの交換については、競技役員の判定による。競技者のピンの得点は、ピンが破損しても変わらない。倒されたピンは全部計算され、破損したピンはその後に交換する。

(間違ったレーンおよび間違った順序での投球)

第119条 投球レーンおよび、投球順序を間違えて投球し、競技役員からデッドボールを宣告された場合には、競技者は発見されたフレームから正しいレーンおよび投球順序で投球しなければならない。

(ファールの判定)

第120条 ファールは次の投球者が投球態勢に入るまでの範囲で採用する。従って投球後といえどもみだりにファールラインを越えてはならない。ただし、投球動作中、ボールを持ったまま、ファールラインを越えてもファールとはみなさない。

ファールラインは、レーン、自動式ファール判定器の上部、側壁、柱等の競技者の体の触れる範囲にあるものまで延長すること。（ボウリング施設、設備、用具の規格第2章第4条）

1. ファールラインの延長標示のある場合の判定競技中、競技者の体の部分がレーンのファールラインの上にかかり、あるいは、これを越えたり、施設の標示ラインの中に触れた場合にはファールとする。
2. ファールラインの延長標示のない場合の判定

競技中、競技者の体の部分がレーンのファールラインの上にかかり、あるいは、これを越えたり、その他自動式ファール判定器の上部の施設の部分に触れた場合にはファールとする。

(ファールの宣告)

第121条 ファールの宣告は、審判員またはそれに準じた者が行なう。宣告は投球の完了後、その投球者または次の投球者が投球態勢に入るまでの範囲で採用し宣告する。競技者は、ファール審判員のファールの宣告には従わなければならない。ただし、ファールの宣告が明らかに間違ってなされた場合、またはファール審判員のファールに関する諸規定の誤解による場合、あるいは、ファール審判員が判定不可能な場合は競技役員において協議判定する。

(自動式ファール判定器使用の場合)

第122条 自動式ファール判定器を使用して行なう競技は、判定器がファールを指示した場合、これに従い、判定器が正常に働いていないことが確認された場合、または競技者がファールをしないという証拠が明らかな場合には、これをファールとしない。

ファール判定器のファール判定に疑義のある場合、競技者は投球したままの状態で審判員もしくは競技役員に異議の申し立てをしなくてはならない。

万一、その状態をはなれて申し立てた場合は、その異議を認めない。

自動ファール判定器が一時故障で使用できない場合には、次のような処置をとる。

1. 選手権競技会または競技会においてファール審判員を配置し、ファールを判定する。
2. ファール審判員を配置できない場合は、それに準ずる者が判定する。
3. リーグにおいて、ファール審判員を配置できないとき、それに準ずる者、あるいは、チームにおいてはチーム主将、個人においては数名の意見を取り入れて判定する。

(自動式ファール判定器設備のない場合)

第123条 競技者がファールに関する諸規定をおかしたかどうかを判定するためにファール審判員を配置し、審判員は競技者がファールをおかした場合には、直ちにこれを判定し宣告する。ファール審判員の位置は、ファールラインの全部が見透せる場所で障害物の無い位置に設け、競技中はファール審判員を妨害してはならない。

(故意のファールおよび故意のガターボール)

第124条 自己を有利にするため、故意にファールをおかした場合、故意にガターに落とした場合には、直ちにその競技者のそのゲームは無効となり、競技の継続に対し処罰をうける。

(抗議および抗議解決のための仮りの投球)

第125条 ファールまたは倒れたピンに対する判定につき抗議が出た場合、直ちに解決できないときは問題解決のため仮りの投球を実施する。抗議がフレームの第1投で起きた場合には、競技者はそのフレームを完成し引き続き直ちに仮りのフレームを投球する。この場合、倒れたピンが正当でないとして抗議されたものについては、再配置して投球する。

抗議がフレームの第2投で起きた場合には、競技者はその時に残っていたと同じピンの配置状態で仮りの投球を行う。

仮りの投球を行った場合、そのフレームの2つのスコア記録を保存して競技会役員の判定をうける。もし解決しない場合には更に加盟団体または協会に諮問してこれを裁定する。

(抗議の期限)

第126条 競技においてスコアその他要項の規定に関し、抗議があった場合には、加盟団体、協会に対し24時間以内に書面をもって提出する。24時間以内に提出しなかった場合には、その競技はそのまま実施されたものとみなされる。

(記録の明瞭な誤りについて)

第127条 競技におけるスコアまたは計算上明らかな誤りを発見した場合には、特別な規定のない限り、役員は直ちにこれを修正し、競技者に確認させるものとする。

(アプローチの状態変更の禁止)

第128条 アプローチ、レーン等の競技施設に対し、状態の変更もしくは変更できるアプローチパウダー等いかなる物も使用してはならない。ハンドコンディショナー類は原則としてボウラーズベンチ内に持ち込んではならない。

(アベレッジ)

第129条 アベレッジとは、競技会、リーグの総得点を総ゲームで平均したものという。

单一アベレッジ……定期的競技会、またはリーグに参加した場合、その競技会、リーグ毎のアベレッジをいい、これを競技会アベレッジ、リーグアベレッジという。

最高アベレッジ……競技者が参加した幾つかの定期的競技会、リーグのうち、いずれか最高のアベレッジをいう。

総合アベレッジ……競技者が、定期的競技会、リーグに参加し、その数が2つ以上ある場合、その2つ以上幾つかを通算したアベレッジをいう。このアベレッジは通算した総ゲーム数で総得点を平均したものとする。

この場合、リーグだけで通算したものは総合リーグアベレッジという。いずれの場合にも、ハンディキャップをつけるため、または、技倆階級を区分するためには余りピンを計算に入れないものとする。

(ハンディキャップ)

第130条 競技者の技倆に特に差があるとき、競技条件を公平化するため、ハンディキャップを設けることができる。

ハンディキャップは、競技者間のアベレッジの差、または、一つの基準点の設定により、これと競技者のアベレッジとの差を計算の基礎とし、通常その70%～80%をこれにあてる。

アベレッジのない者については、場合により特に技倆判定を行い、これをアベレッジに代えることができる。

(レーンの配当)

第131条 競技会およびリーグで、同時にスタートする競技者、またはチームのレーンの配当は、特に規定しない限り抽せんによる。

抽せん方法は、リーグまたは競技会責任者がこれを定める。

(競技勝位の決定)

第132条 競技の勝位の決定は、次のような方法による。

1. 個人、またはチームで得点の最も多いものを勝とする。
2. あらかじめ定めた、ハンディキャップを加えた得点の最も多いものを勝とする。
3. 競技方法にポイント方式を採用し、各ゲームごとに得点の多い方を勝とする場合、1ゲームごとにポイントを与え、その総ポイントの多い方を勝とする。

(同位ピンの裁定)

第133条 競技の勝位の決定について、個人またはチーム戦の得点が同点の場合、次のとおり裁定する。

1. シリーズにおいて同点の場合は、最高ゲームと最低ゲームとの差の最も少ないものを

- 上位とする。
2. 2シリーズ以上の競技において同点の場合、最高シリーズと最低シリーズの差の最も少ないものを上位とする。
 3. 1ゲームのスコアが同点の場合および上記第1項の得点差が同じ場合は、個人またはチーム戦で第10フレームまでを含めたストライク数の多いものを上位とする。
 4. 更にストライク数が同じ場合は、スペア数の多いものを上位とする。
 5. スペア数が同じ場合は、ともに勝者とするか、または更に1ゲームの決勝戦を行い、勝者を決定する。
- ただし、競技要項に他の方法で規定している場合は、その規定による。

(スローボウリングの禁止)

第134条 すべての競技は遅滞なく実施し、審判員は遅滞の原因が競技者にある次のような場合にはスローボウリングと判定する。

スローボウリングの判定は、同一シリーズ内においてのみ適用し、最初は「警告」2回目は「厳重注意」、3回目以降は、そのフレームの得点を0とする。

1. 競技者は、自分の投球順がきたとき左、右の隣接するレーンが空いている場合、直ちに投球態勢をとらなければならない。
2. 競技投球者は投球の準備態勢に入ろうとしているすぐ右側レーンの競技者に対してのみ優先投球権を認めなければならない。
3. 競技者が1レーンに1名または2名で競技する場合は、当該シフトで進行の早い競技者から原則として4フレーム以上の遅れ、3名以上で競技する場合は、2フレーム以上の遅れがあった場合には、機械の故障等の有無を確認の後、判定する。

第135条 (使用ボール)

ボールは手の作用によって投球されるものとし、ボールの指穴調整を工夫すること以外は、その内部および外部に添付物を使用すること等、如何なる他の手段もこれを併用してはならない。

すべての公認競技においては、ボールは、FIQ・WTBAの公式認定ボール又は本協会(JBC)の公式認定ボールでJBC公認ドリラーによってドリルされ、本協会の公認ボール検査員が検査し、合格したボールを使用すること。

第136条 (ボウリングボールの表面調整および表面加工)

ボウリングボールの表面調整および表面加工については、WTBAの規定にもとづき次のとおりとする。

1. ボウリングボールの調整に使用できるポリッシュならびにクリーナーは、WTBAの公式認定のものとし、ボウリングボールの表面調整は、競技が遅滞しない範囲でゲームとゲーム間で許されるが、かならず手で実施し、ボウラーズエリア内では行うことはできない。
2. ボウリングボールの表面加工をすることは、前1項で規定されたものを除き、指定された場所において、公式練習中、競技直前の練習時間中およびシフトとシフトの間は許される。
3. ボウリングボールの表面を調整および加工した場合は、その表面に付着物があってはならない。

第137条 (競技者の服装)

競技者は、特に規定されない限り、ユニフォームまたは見苦しくない服装で競技を行い、過度の商業宣伝マークの入ったもの、アンダーシャツでの競技は禁止する。

すべての公認競技においては、別に定める本協会の服装規則を適用する。

第138条 (禁止事項)

- 競技における褒賞は記録に対する名誉をたたえるものであり、トロフィー、メダル、カップ、賞状等を原則とし、副賞のある場合も品位のあるものとする。
- 競技者は、競技中、ボウラーズエリア内で喫煙、飲食をすることはできない。
また、酒気を帯びて競技することを禁止する。
- 競技において、ゲームの結果に関連し、競技者、第3者にかかわらず一切の賭けごとを禁止する。

第139条 (罰則、不正行為)

協会の会員で競技に関し、不正な行為があった場合には、次の諸項により罰則が適用される。会員以外の者でも本条に該当する場合には、ボウリング競技者として資格のない者とし、特に加盟団体の役員会で承認がなければ協会会員とはなれない。

- 不正な方法により競技を有利にしようとした者は、そのゲームは無効となり、また場合によっては会員より除名されることがある。
 - 直接、間接を問わず、レーン、ピン、ボールに対し、協会の規格に外れた細工をした場合。
スコアを高めるためレーンに特別の施工をしたレーンであることを承知しながら競技をした場合。
 - ハンディキャップを多くするため、又はリーグ、競技会において階級の下の組に参加する為、アベレッジを詐称した場合。
 - リーグにおいて、ハンディキャンプ又は階級区分について一層有利な利益を得るため、故意にアベレッジ以下に投球した場合。
- 不正な術策をもちい、ボウリング競技に関し、一般の悪評を招くような行為のあった者は会員から除名される。
- 公認のリーグまたは競技会において、参加費の支払いを怠った者は、会員から除名される。

編集後記

- 連盟創立以来40年を超える年月が過ぎ、これまでの歩みを記しておく必要があろうと思い立った。ボウリングブームが全国を駆け巡った最中、待時間、数時間は当たり前、申し込み受付を終えて事務所に戻り一仕事して再度ボウリング場へ、はいつものこと。待ち時間が短く、ゲーム料の安い早朝ボウルに通うようになる。
- 一転してボウリング場はかんこ鳥が鳴くようになり、全国大会に向う途中、電車の棚にボウリングバックが沢山有るのを見た知人に「ボウリング保存会の方々ですか？」と問い合わせられ唖然としたこと。赤木現会長が来盛時、夜間、県体協会長F氏に遠野市まで追っかけ陳情したこと等々、県体協加盟までは文字通り山あり谷ありの道のりだった。
- この記念誌は県体協加盟後、競技ボウリングの華やかな面、国民体育大会、全国大会、国際大会の入賞者等にスポットが当たっているが、創立時から当連盟の発展に尽力した先人の足跡につながる栄光であることを認識し、更なる前進に努められんことを祈念したい。
- 参考にしたい同種の他県連盟誌が見当たらなかった。満足いただける内容ではないかも知れませんが、ご理解願います。
- ご協力いただいた岩手日報社等報道機関、(株)橋本印刷社長田口純二氏、そして表紙題字を心よく揮毫して下さった大学同期の秋山古心氏に厚くお礼申し上げます。(Y)

参考・引用文献

J B C のあゆみ	(財)全日本ボウリング協会刊
日本におけるボウリング30年の歩み (資料編)	日本ボウリング振興協議会刊
ボウリング大辞典 (宮田哲郎編著)	(株)ベースボール・マガジン社刊
スポーツ・ボウリング (宮田哲郎著)	(株)ベースボール・マガジン社刊

ボウリングをこよなく愛して 岩手県ボウリング連盟40年の歩み

発行日 平成21年8月30日

発行者 吉田 几生

発行所 岩手県ボウリング連盟
盛岡市本町通二丁目9番3号
(株)吉田会計事務所内
電話 019-652-1616

印 刷 株式会社橋本印刷
盛岡市本町通一丁目15番29号
電話 019-652-1354

題 字 秋山 古心 (横浜市)